SYLLABUS

2022 年度 秋学期

2年次

青森公立大学

経営経済学部

教員メールアドレス一覧

専　任　教　員	
氏名	E-mailアドレス

専　任　教　員	
氏名	E-mailアドレス

教員メールアドレスは、
事務局前に配置しますので
各自受領してください。

目　　次

科目群		授業科目名	単位	区分	担当教員	ページ
アカデミック・コモン・ベーシックス		English Presentation Ⅱ 注1	(2)	選必	エシアナ　ベネス	5
					ラウシュ　アンソニー	9
		Public Speaking Ⅱ 注1	(2)	選必	エシアナ　ベネス	12
					ラウシュ　アンソニー	17
		Writing as a Social Act Ⅱ 注1	(2)	選必	成田　芙美	20
					小野寺　進	23
		Essay Writing Ⅱ 注1	(2)	選必	丹藤　永也	26
					江連　敏和	29
		Active Reading Business Genres Ⅱ 注1	(2)	選必	香取　真理	32
					丹藤　永也	35
		English Grammar and Usage Ⅱ 注1	(2)	選必	成田　芙美	38
					江連　敏和	41
		プレゼンテーション	(2)	選択	植田　栄子	44
		情報と経済社会	(2)	選択	神山　博	47
教養科目		哲学Ⅱ	(2)	選必	大森　史博	50
		宗教哲学	(2)	選必	井川　昭弘	53
		文学と人間	(2)	選必	横手　一彦	56
		法律と人間	(2)	選必	髙橋　基樹	60
		科学技術と社会Ⅱ	(2)	選必	長岡　朋人	63
		教養特殊講義Ⅱ	(2)	選必	大森　史博	66
専門科目	経営学科	環境経営論	(2)	選必	春学期開講済み	
		マーケティング論Ⅱ	(2)	選必	行本　雅	69
		人事管理論Ⅱ	(2)	選必	中川　宗人	72
		経営特殊講義Ⅰ	(2)	選択	上田　弘	75
		現代仕事論	(2)	選択	赤坂　道俊	78
		財務管理論	(4)	選択	落合　孝彦	81
		財務分析Ⅱ	(2)	選択	田中　哲	85
	経済学科	計量経済学	(4)	選必	高　英模	88
		国際経済学	(4)	選必	河野　秀孝	92
		公共経済学	(4)	選必	青山　直人	96
		労働経済学	(4)	選必	大矢　奈美	100
		金融経済学Ⅰ	(2)	選必	國方　明	104
		地方財政論	(2)	選択	森田　圭亮	107
		経済特殊講義Ⅱ	(2)	選択	秋葉　まり子	110
					丸山　千賀子	
		経済変動論	(2)	選択	高尾　築	113
		マーケティング論Ⅱ【他学科展開科目】	(2)	選択	行本　雅	69
		財務分析Ⅱ【他学科展開科目】	(2)	選択	田中　哲	85

目　　次

科目群		授業科目名	単位	区分	担当教員	ページ
専門科目	地域みらい学科	地域企業論Ⅱ	(2)	選必	生田　泰亮	116
		地域社会論Ⅱ	(2)	選必	佐々木　てる	119
		地形地理情報論	(2)	選必	三浦　英樹	122
		マーケティング論Ⅱ【他学科基幹科目】	(2)	選必	行本　雅	69
		フィールドリサーチⅠ	(2)	選択	足達　健夫	―
					生田　泰亮	
					遠藤　哲哉	
					香取　薫	
					佐々木 てる	
					長岡　朋人	
					三浦　英樹	
					安田　公治	
		行政経営論	(2)	選択	遠藤　哲哉	125
		地域の産業Ⅰ	(2)	選択	奥平　理	128
		地域みらい特殊講義Ⅰ	(2)	選択	佐藤　三三	131
		現代仕事論【他学科展開科目】	(2)	選択	赤坂　道俊	78
		ミクロ経済学【他学科展開科目】	(4)	選択	森　統	1

【注１】自分が履修するクラスの担当教員ページを確認してください。

目　　次

2020年度及び2021年度入学生へ（学籍番号の上位４桁が「1200～」「1210～」で始まる学生）

（１）「地形地理情報論」は、2020年度・2021年度入学生カリキュラム「地域ICT基礎論」の読替科目です。

2019年度以前入学生へ（学籍番号の上位４桁が「1170～」「1180～」「1190～」で始まる学生）

（１）「科学技術と社会（４単位）」の履修について

① 春学期開講の「科学技術と社会Ⅰ（２単位）」を履修登録すること。

② 秋学期開講の「科学技術と社会Ⅱ（２単位）」を履修登録すること。

③ 春学期と秋学期を総合して成績評価を行う。

④ 成績評価は同一年度内で完結とし、翌年度以降へは持ち越さない。

※今年度の春学期科目を履修せずに、今年度の秋学期科目を履修しても、評価の対象にはなりません。

※今年度の春学期科目を履修した場合でも、今年度の秋学期科目を履修しなかった場合は、評価の対象にはなりません。

（２）「金融経済学（４単位）」の履修について

① 春学期開講の「金融経済学Ⅱ（２単位）」を履修登録すること。

② 秋学期開講の「金融経済学Ⅰ（２単位）」を履修登録すること。

③ 春学期と秋学期を総合して成績評価を行う。

④ 成績評価は同一年度内で完結とし、翌年度以降へは持ち越さない。

※今年度の春学期科目を履修せずに、今年度の秋学期科目を履修しても、評価の対象にはなりません。

※今年度の春学期科目を履修した場合でも、今年度の秋学期科目を履修しなかった場合は、評価の対象にはなりません。

（３）「地形地理情報論」は、2019年度以前入学生カリキュラム「地域ICT基礎論」の読替科目です。当該科目の単位を修得済みの学生が「地形地理情報論」を履修する場合は「再履修」の扱いとなります。

（４）「Public Speaking Ⅱ」は、2019年度以前入学生カリキュラム「Public Speaking and Interaction Ⅱ」の読替科目です。当該科目の単位を修得済みの学生が「Public Speaking Ⅱ」を履修する場合は「再履修」の扱いとなります。

（５）「Essay Writing Ⅱ」は、2019年度以前入学生カリキュラム「Academic Writing Ⅱ」の読替科目です。当該科目の単位を修得済みの学生が「Essay Writing Ⅱ」を履修する場合は「再履修」の扱いとなります。

（６）「哲学Ⅱ」は、2019年度以前入学生は履修できません。

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
ミクロ経済学	4単位	専門科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
森　統 Mori　Osamu	**時間・場所:** 開講時にお知らせします	講　義

〔科目の概要〕

希少な資源を用いて「何をどれだけ」「どのように」「誰のために」生産するかという問題を経済の基本問題といいます。この資源配分の機能を果たす代表的なシステムが市場機構であり、そこで重要な役割を演じるのが価格です。ミクロ経済学は、市場における、価格による資源配分の分析を基本とするものです。

本講義では、ミクロ経済学の基本的な内容を学んでゆきます。具体的には、市場の参加者である消費者(あるいは家計)や企業の意思決定とそれに基づいた需要と供給の特性の分析、また、純粋(完全)競争、独占、独占的競争および寡占の様々な市場における均衡の特徴に関する分析、そして、資源配分の効率性から見た競争市場均衡、独占、課税や規制などの政府の政策の評価についてみてゆきます。

本講義では、現実経済の事例を意識しながらも、基本モデルの理論的構造の解説が中心となります。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

ミクロ経済学の理論を基礎づける経済学的考え方に習熟することは、日々の経済的現象を的確にとらえ、それに対する対処や政策を考えるうえで有用です。

また、ミクロ経済学は、公共経済学、財政学、金融論、産業組織論、国際経済学など、経済学の他の応用分野を学ぶ上で重要な基礎的理論で構成されています。これらの経済学分野を履修するのに、ミクロ経済学の知識は不可欠と言ってよいでしょう。

さらに、ミクロ経済学は、種類によりますが公務員試験の出題対象となっているので、本講義は、試験対策の基礎固めとして役立つと思われます。

〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕

（中間目標）

まずは、専門用語である基礎的概念および理論構造を正確に理解することが重要です。

また、ミクロ経済学に関連する基礎的演習問題が確実に解けるようにします。

（最終目標）

現実の経済問題に対してミクロ経済学の考え方を用いて分析や説明ができることを目指します。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

受講生が内容を十分に理解することができるように、進捗状況に配慮しつつ、計算のプロセスなど丁寧な説明を心がけたいと思います。

〔教科書〕

ハル・R・ヴァリアン著　佐藤隆三監訳『入門ミクロ経済　［原著第９版］』勁草書房、2015年

〔指定図書〕

特になし。

〔参考書〕

参考書は、講義時間中に紹介します。

〔前提科目〕

経済学基礎論のミクロ経済学の部分をよく復習しておくことが望ましいです。

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

２回の小テストおよび定期試験の結果により評価します。

〔評価の基準及びスケール〕

評価の基準として、小テスト(2 回)および期末試験の総合結果として 100 点満点で 80 点以上がA、70 点以上 80 点未満がB，60 点以上 70 点未満がC，50 点以上 60 点未満がD，50 点未満をＦとします。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

具体例や図を多く使いながら、内容を直観的に把握しやすい説明を心がけたいと思います。数式については、必要最小限の簡便なものに限って使用するつもりですが、やや複雑な数式を用いる場合、その初歩的な計算方法を含めて丁寧に解説します。

講義資料を配付する場合、資料は必ずしも完成されたものではなく、講義を聴いて内容を補い、完成させてゆく形になっている場合があります。毎回の講義で不明の部分を残さないよう心がけてください。また、復習をし、学んだことを定着させることを勧めます。

講義の中で適宜復習にあてる時間をとり、そこで演習問題を解きますが、これは小テストおよび期末試験の予行練習となります。

〔実務経歴〕

実務経歴はありません。

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか):ミクロ経済学とは 内　容:ミクロ経済分析の特徴 教科書・指定図書
第2回	テーマ(何を学ぶか):需要と供給（経済学基礎論の復習） 内　容:需要曲線、供給曲線、市場均衡 教科書 1 章 指定図書 4 章
第3回	テーマ(何を学ぶか):消費者行動(1) 内　容:予算制約 教科書 2 章
第4回	テーマ(何を学ぶか):消費者行動(2) 内　容:消費者の選好と無差別曲線 教科書 3 章
第5回	テーマ(何を学ぶか):消費者行動(3) 内　容:効用 教科書 4 章
第6回	テーマ(何を学ぶか):消費者行動(4) 内　容:消費者の最適選択 教科書 5 章
第7回	テーマ(何を学ぶか):消費者行動(5) 内　容:所得・価格の変化と消費者の選択、代替効果と所得効果、スルツキー方程式 教科書 6 章 8 章
第8回	テーマ(何を学ぶか):消費者行動(6) 内　容: 総効果の分類、労働供給 教科書 8 章 9 章

第9回	テーマ(何を学ぶか):消費者行動(7) 内　容:市場需要と弾力性 教科書 15 章
第 10 回	テーマ(何を学ぶか):消費者行動(8) 内　容: 消費者余剰 教科書 14 章
第 11 回	テーマ(何を学ぶか):消費者行動理論の復習:小テスト第 1 回 内　容:小テストの実施および解説
第 12 回	テーマ(何を学ぶか):企業行動(1) 内　容: 生産技術と生産関数 教科書 19 章
第 13 回	テーマ(何を学ぶか)企業行動(2) 内　容:費用最小化の条件 教科書 21 章
第 14 回	テーマ(何を学ぶか):企業行動(3) 内　容:費用の諸概念、費用関数、費用曲線 教科書 22 章
第 15 回	テーマ(何を学ぶか):企業行動(4) 内　容:総費用曲線、限界費用と平均費用、短期費用曲線と長期費用曲線 教科書 22 章
第 16 回	テーマ(何を学ぶか):企業行動(5) 内　容:純粋(完全)競争、企業の利潤最大化条件、短期供給曲線、生産者余剰 教科書 20 章 23 章
第 17 回	テーマ(何を学ぶか):企業行動(6) 内　容:長期供給曲線、産業の供給 教科書 23 章 24 章
第 18 回	テーマ(何を学ぶか):企業行動理論の復習:小テスト第 2 回 内　容:小テストの実施および解説
第 19 回	テーマ(何を学ぶか): 市場均衡 内　容: 市場の調整、均衡の安定性
第 20 回	テーマ(何を学ぶか):競争市場均衡の効率性:部分均衡分析 内　容:競争的市場均衡と社会的余剰 指定図書 6 章
第 21 回	テーマ(何を学ぶか):市場均衡と政策 内　容:余剰分析による政策の効率性評価 教科書 14 章

第 22 回	テーマ(何を学ぶか):不完全競争理論(1) 内　容:独占の価格設定 教科書 25 章
第 23 回	テーマ(何を学ぶか):不完全競争理論(2) 内　容:自然独占、独占的競争 教科書 25 章 26 章
第 24 回	テーマ(何を学ぶか):不完全競争理論(3) 内　容:寡占、クールノー・モデル、シュタッケルベルグ・モデル 教科書 28 章
第 25 回	テーマ(何を学ぶか):ゲーム理論 内容:囚人のジレンマ、ナッシュ均衡、参入障壁ゲーム 教科書 29 章 30 章
第 26 回	テーマ(何を学ぶか):競争市場均衡の効率性:一般均衡分析 内　容:パレート効率性、エッジワースのボックスダイアグラム、消費の効率性 教科書 32 章
第 27 回	テーマ(何を学ぶか):競争市場均衡の効率性(2) 内　容:生産を含む経済における競争市場均衡の効率性、厚生経済学の基本定理 教科書 33 章
第 28 回	テーマ(何を学ぶか):厚生経済学の基礎 (1) 内　容:効用可能性フロンティア、社会的厚生関数 教科書 34 章
第 29 回	テーマ(何を学ぶか):厚生経済学の基礎 (2) 内　容:公正な配分、羨望と衡平 教科書 34 章
第 30 回	テーマ(何を学ぶか):市場の失敗 内　容:公共財の供給 教科書 37 章
試 験	期末試験期間中に実施。

〔科目名〕 English Presentation ll		〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕 ACB
〔担当者〕 Dr. Benneth Esiana	〔オフィス・アワー〕 時間: To be confirmed 場所: 602		〔授業の方法〕 Lecture; Demonstration

〔科目の概要〕

The primary objective of the module is to guide students to attain a reasonable level of competency in writing and delivering a presentation. Students will engage in meaningful practises through class tasks and/or exercises to study various strategies used in presentations, identify, and analyse sample presentations, and how to apply them. Furthermore, they will learn that public speaking or presentation is not simply a one-way sharing of information but a two-way reciprocal exchange of information where both the speaker and audience are equally involved. The final project will involve the production and delivery of a presentation on a topic of their own choosing. Please be aware that the module is taught almost entirely in English, hence it is ideal for students at an intermediate to high-intermediate level of English.

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

The importance of the ability to compose and convey a message clearly and persuasively to an audience cannot be overstated. Proficiency in public speaking/presentation is a valuable skill in this day and age, given its wide-ranging applications in personal, professional, and social settings. During the course of the module, students are expected to work individually, in pairs, or in groups (where possible), to simulate a professional work environment in order to engage in teamwork exercises – an essential skill that is sort after by employees. They will analyse sample speeches/presentations, PowerPoint slides, and how to apply them in one's own speech/presentation

〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕

To be able to develop basic competency in the preparation, writing and delivery of presentations in English using complementary visual aids, and by the end of the module, students should reach a reasonable level of competency within their abilities.

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

Not applicable

〔教科書〕

Present Yourself ll, by Steven Gershon, Cambridge University Press, ISBN: 978-1-107-43578-0

〔指定図書〕
To be confirmed

〔参考書〕
To be confirmed

〔前提科目〕

English Presentation l (is preferably, however, it is not a mandatory pre-requisite - 好ましくは、ただ

し、必須の前提条件ではありませんので。)

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

Students will be assessed through the following methods:

-Mandatory Assignments
-Mandatory test(s)
-In-class Exercises (creating PowerPoint slides for presentations, tests etc.)
-Final Project
-Others (attendance)

〔評価の基準及びスケール〕

A = 80% or more
B = 70 - 79%
C = 60 - 69%
D = 50 - 59%
F = 49% or less

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

The module is taught at a pace complementary to students' ability and progress so that they are not overwhelmed by contents.

- Students are expected to attend class with the desire to learn.
- They should actively participate in all aspect of the lesson.
- An expectation for students to complete all assigned tasks (assignments, presentations, test etc.), assessed or otherwise, in class or at home (self-study).

The instructor will support students throughout the course by providing a conducive learning environment where students, regardless of their skill/ability, will be able to improve in one form or another.

〔実務経歴〕

授業スケジュール

第 1 回	テーマ(何を学ぶか): Module Orientation 内 容: - Module Outline etc. - Knowing Your Audience - Planning a Presentation 教科書・指定図書: Introduction and "Getting Ready"
第 2 回	テーマ(何を学ぶか): Getting Ready for a Presentation 内 容: - Developing Presentation Techniques - Giving Your Presentation 教科書・指定図書: "Getting Ready" and Unit 1a

第 3 回	テーマ(何を学ぶか): Planning and Giving a Presentation about - A Person to Admire 内 容: - Brainstorming, Selecting, and Organising information - Presentation Outline - Making Effective Note Cards - Using Eye-contact 教科書・指定図書 Unit 1b
第 4 回	テーマ(何を学ぶか): Planning and Giving a Presentation about - A Great Vacation Idea l 内 容: - Brainstorming, Selecting, and Organising information - Using PowerPoint - Using Body Language [gestures, posture, movement etc.] 教科書・指定図書 Unit 2a
第 5 回	テーマ(何を学ぶか): Planning and Giving a Presentation about - A Great Vacation Idea ll 内 容: - Using PowerPoint - Using Body Language [gestures, posture, movement etc.] 教科書・指定図書 Unit 2b
第 6 回	テーマ(何を学ぶか): Planning and Giving a Presentation about - Young People Today l 内 容: - Brainstorming, Selecting, and Organising information - Making and Using Effective Visual Aids - Emphasising Key Information 教科書・指定図書 Unit 3a
第 7 回	テーマ(何を学ぶか): Planning and Giving a Presentation about - Young People Today ll 内 容: - Making and Using Effective Visual Aids - Emphasising Key Information 教科書・指定図書 Unit 3b
第 8 回	テーマ(何を学ぶか): Planning and Giving a Presentation about - Young People Today lll 内 容: - Making and Using Effective Visual Aids - Emphasising Key Information 教科書・指定図書 Unit 3c
第 9 回	テーマ(何を学ぶか): Planning and Giving a Presentation about - How Something Works 内 容: - Brainstorming, Selecting, and Organising information - Providing Context/Background for a Process - Explaining the Steps/Stages of a Process - Inviting, and Answering Questions from the Audience 教科書・指定図書 Unit 4a

第 10 回	テーマ(何を学ぶか): Planning and Giving a Presentation about - How Something Happens 内 容: - Providing Context/Background for a Process - Explaining the Steps/Stages of a Process - Inviting, and Answering Questions from the Audience 教科書・指定図書 Unit 4b
第 11 回	テーマ(何を学ぶか): Planning and Giving a Persuasive Presentation about - My Opinion l 内 容: - Brainstorming, Selecting, and Organising information - Expressing Opinions - Supporting Opinions with Reasons - Using Your Voice Effectively - Using Stress and Pauses for Contrast 教科書・指定図書 Unit 5a
第 12 回	テーマ(何を学ぶか): Planning and Giving a Persuasive Presentation about - My Opinion ll 内 容: - Expressing Opinions - Supporting Opinions with Reasons - Using Your Voice Effectively - Using Stress and Pauses for Contrast 教科書・指定図書 Unit 5b
第 13 回	テーマ(何を学ぶか): Planning and Giving a Persuasive Presentation about - My Opinion lll 内 容: - Expressing Opinions - Supporting Opinions with Reasons - Using Your Voice Effectively - Using Stress and Pauses for Contrast 教科書・指定図書 Unit 5c
第 14 回	テーマ(何を学ぶか): Planning and Giving a Presentation about - The News l 内 容: - Brainstorming, Selecting, and Organising information - Summarising a News Story - Describing Reactions to a Story - Varying Your Pace by Pausing Between Phrases - Leading a Group Discussion 教科書・指定図書 Unit 6a
第 15 回	テーマ(何を学ぶか): Planning and Giving a Presentation about - The News ll 内 容: - Summarising a News Story - Describing Reactions to a Story - Varying Your Pace by Pausing Between Phrases - Leading a Group Discussion 教科書・指定図書 Unit 6b
試 験	Final Assessment (Presentation)

〔科目名〕 English Presentation Ⅱ	〔単位数〕 2単位	〔科目区分〕
〔担当者〕 A. S. Rausch	〔オフィス・アワー〕 時間: 場所:	〔授業の方法〕

〔科目の概要〕

To provide students with the knowledge and opportunity to prepare and give a presentation

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕

To understand the fundamentals of the language of presentation.
To understand how to prepare such language for a presentation.
To gain experience in writing the language of a good presentation.

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

〔教科書〕
Composition Upgrade: Think, Organize and Write

〔指定図書〕

〔参考書〕

〔前提科目〕

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

Grades will be based on attendance, study done in class, and preparation for a presentation.

〔評価の基準及びスケール〕

The university scale: A-B-C-D-F

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

〔実務経歴〕

授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか): Basics of Good Presentation Writing 内 容: Introduction 教科書
第2回	テーマ(何を学ぶか): Describing 内 容: Describing Things and Places 教科書
第3回	テーマ(何を学ぶか): Describing 内 容: Describing People 教科書
第4回	テーマ(何を学ぶか): Describing 内 容:Describing Process 教科書
第5回	テーマ(何を学ぶか): Organizing 内 容:Generalization 教科書

第6回	テーマ(何を学ぶか):Organizing 内 容: Definition 教科書
第7回	テーマ(何を学ぶか): Organizing 内 容: Instruction 教科書
第8回	テーマ(何を学ぶか): Organizing 内 容: Explanation 教科書
第9回	テーマ(何を学ぶか): Evaluating 内 容: Comparison 教科書
第10回	テーマ(何を学ぶか): Evaluating 内 容: Contrast 教科書
第11回	テーマ(何を学ぶか): Evaluating 内 容: Cause and Result 教科書
第12回	テーマ(何を学ぶか): Evaluating 内 容: Cause and Unexpected Result 教科書
第13回	テーマ(何を学ぶか): Point of view 内 容: Prediction 教科書
第14回	テーマ(何を学ぶか): Point of view 内 容: Opinion 教科書
第15回	テーマ(何を学ぶか): Putting it all together 内 容: 教科書
試 験	Turn in a final presentation

〔科目名〕 Public Speaking ll		〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕 ACB
〔担当者〕 Dr. Benneth Esiana	〔オフィス・アワー〕 時間： to be confirmed 場所： 602		〔授業の方法〕 Lecture; Demonstration

〔科目の概要〕

The module provides a comprehensive understanding of public speaking (speeches/presentations) from conception to delivery. It does this by using a series of specific topics, that are relevant to the subject areas of the university (economic, business, and management – orientated), to demonstrate the “What” “How” and “When”, in the act of producing and delivering a speech/presentation, all the while introducing, executing, and consolidating skills and techniques. During the course of the module, students will work individually, in pairs or groups, as dependent on the nature of the activity, to complete meaningful exercises and tasks. They are also expected to take part in peer evaluation, teamwork-building activities, and team presentations. Please be aware that the module is taught almost entirely in English, hence it is ideal for students at an intermediate to high-intermediate level of English.

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

Proficiency in public speaking/presentation is an indispensable skill in this day and age, given its wide-ranging applications in personal, professional, and social/public settings. The module present students with the opportunity to develop of a better understanding of topics for presentation, developing content, research, and the importance of Physical, Visual, and Story messages whilst preparing and delivering speeches/presentations. Students will engage in very regular practice exercise by giving speeches/presentations, whilst studying the various techniques used in speeches. They will analyse sample speeches/presentations, PowerPoint slides, and how to apply them in one’s own speech/presentation. Furthermore, students will learn that public speaking is not simply a one-way sharing of information but a two-way reciprocal exchange of information where both the speaker and audience are equally involved.

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標)〕

Throughout this module, students will gain a better understanding of topics for presentation, key contents, their audience, and the importance of Physical, Visual, and Story messages whilst preparing and delivering speeches/presentations.

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

Not applicable

〔教科書〕
Speaking of Speech Level 2, by Charles LeBeau, Macmillan Education, ISBN: 9781786320766

〔指定図書〕
To be confirmed

〔参考書〕
To be confirmed

〔前提科目〕

Public Speaking l (is preferable, however, it is not a mandatory pre-requisite - 好ましくは、ただし、必須の前提条件ではありませんので。)

〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等）

Students will be assessed through the following methods:

- Mandatory assignment(s)
- In-class activities (e.g., short team and individual presentations/speeches)
- Final project (extended presentation/speech)
- Others (attendance)

〔評価の基準及びスケール〕

A = 80% or more
B = 70 – 79%
C = 60 – 69%
D = 50 – 59%
F = 49% or less

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

The module is taught at a pace complementary to students' ability and progress so that they are not overwhelmed by contents.

- Students are expected to attend class with the desire to learn.
- They must actively participate in all aspect of the lesson.
- An expectation for students to complete all assigned tasks (assignments, presentations, test etc.), assessed or otherwise, in class or at home (self-study).

The instructor will support students throughout the course by providing a conducive learning environment where students, regardless of their skill/ability, will be able to improve in one form or another.

〔実務経歴〕

授業スケジュール

第 1 回	テーマ（何を学ぶか）: Module Orientation 内 容 : - Module Outline etc - Presentation Discussion & Analysis - Audience Analysis - Presentation Slide (Layout & Font) - Presentation Focus (Physical Message – the S.L.E.E.P skill set) 教科書・指定図書 Unit 1a: What are the options? – The Option Presentation
第 2 回	- テーマ（何を学ぶか）: Presentation Discussion & Analysis 内 容 : - Audience Analysis - Presentation Focus (Physical Message; Visual Message; Story Message) - Presentation Preparation - Storyboard & Summarising Options 教科書・指定図書 Unit 1b: What are the options? – The Option Presentation

第 3 回	テーマ（何を学ぶか）： Presentation Evaluation 内 容： - Peer Evaluation - Presentation Focus: 　　- Physical Message – the S.L.E.E.P skill set 　　- Visual Message 　　- Story Message - Summarising Options 教科書・指定図書 Unit 2: Performance
第 4 回	テーマ（何を学ぶか）： Presentation Discussion & Analysis 内 容： - Presentation Slide (Content & Layout) - Audience Analysis - Presentation Focus (Special, Different, & Unique) - Presentation Preparation - Storyboard, Research & Emphasising S.D.U 教科書・指定図書 Unit 3: Job Hunting – The Proposal Presentation
第 5 回	テーマ（何を学ぶか）： Presentation Evaluation 内 容： - Peer Evaluation - Presentation Focus: 　　- Physical Message – the S.L.E.E.P skill set 　　- Visual Message 　　- Story Message - Emphasising S.D.U 教科書・指定図書 Unit 4: Performance
第 6 回	テーマ（何を学ぶか）： Presentation Discussion & Analysis 内 容： - Presentation Slide (Content & Layout) - Audience Analysis - Presentation Focus (The Four Steps to Success) - Presentation Preparation - Storyboard; Interest, Understanding, Agreement, Action 教科書・指定図書 Unit 5: Have I got your interest? – The Sales Presentation
第 7 回	テーマ（何を学ぶか）： Presentation Evaluation 内 容： - Peer Evaluation - Presentation Focus: 　　- Physical Message – the S.L.E.E.P skill set 　　- Visual Message 　　- Story Message - The Four Steps to Success (Interest, Understanding, Agreement, Action) 教科書・指定図書 Unit 6: Performance
第 8 回	テーマ（何を学ぶか）： Presentation Discussion & Analysis 内 容： - Presentation Slide (Content & Layout) - Audience Analysis - Presentation Focus (Technical Presentation Structure) - Presentation Preparation

	- Storyboard; Problem-Solution-Benefits/Results 教科書・指定図書　Unit 7: Technical problems; technical solutions – The Technical Presentation
第 9 回	テーマ（何を学ぶか）: Presentation Evaluation 内 容 : - Peer Evaluation - Presentation Focus: 　- Physical Message – the S.L.E.E.P skill set 　- Visual Message 　- Story Message - Technical Presentation Structure (Problem-Solution-Benefits/Results) 教科書・指定図書 Unit 8: Performance
第 10 回	テーマ（何を学ぶか）: Presentation Discussion & Analysis 内 容 : - Presentation Slide (Content & Layout) - Audience Analysis - Presentation Focus (S.W.O.T, Handling the Q&A and Using note cards) - Presentation Preparation - Storyboard; Strength, Weaknesses, Opportunities, and Threats + Handling Questions 教科書・指定図書 Unit 9: Cite your source! – The Academic Presentation
第 11 回	テーマ（何を学ぶか）: Presentation Evaluation 内 容 : - Peer Evaluation - Presentation Focus: 　- Physical Message – the S.L.E.E.P skill set 　- Visual Message 　- Story Message - S.W.O.T & Handling the Q&A (Strength, Weaknesses, Opportunities, and Threats + Handling Questions) + Using note cards. 教科書・指定図書 Unit 10: Performance
第 12 回	テーマ（何を学ぶか）: Presentation Discussion & Analysis 内 容 : - Presentation Slide (Content & Layout) - Audience Analysis - Presentation Focus (Teamwork & Preparing for the Q&A) - Presentation Preparation - Storyboard; Teamwork & Preparing for the Q&A 教科書・指定図書 Unit 11: Creative innovations! – The Team Presentation
第 13 回	テーマ（何を学ぶか）: Presentation Evaluation (Team Presentation) 内 容 : - Team Evaluation - Presentation Focus: 　- Physical Message – the S.L.E.E.P skill set 　- Visual Message 　- Story Message - Teamwork/Team presentation & Preparing for the Q&A 教科書・指定図書 Unit 12: Team Performance

第 14 回	テーマ（何を学ぶか）： Presentation – Skill Revision 内 容： - Presentation Slide (Content & Layout) - Audience Analysis - Presentation Focus (all other presentation skills) - Presentation Preparation - Storyboard; all other presentation skills 教科書・指定図書 Unit Review l: Presentation – Skill Revision
第 15 回	テーマ（何を学ぶか）： Presentation – FINAL PROJECT 内 容： - Peer Evaluation - Presentation Focus: 　- Physical Message – the S.L.E.E.P skill set 　- Visual Message 　- Story Message - Use of all other presentation skills. 教科書・指定図書 Unit Review ll: Presentation – FINAL PROJECT
試　験	Final Assessment

〔科目名〕 Public Speaking and Interaction II		〔単位数〕 2単位	〔科目区分〕
〔担当者〕 A. S. Rausch	〔オフィス・アワー〕 時間: 場所:		〔授業の方法〕

〔科目の概要〕

Being able to speak in conversation and in mini-presentation about various topics.

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕

The course consists of reading aloud so as to be able to express ideas clearly about various topics.
With the practice, students will then create their own conversations and mini-presentations.

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

〔教科書〕
Two Sides to Every Discussion

〔指定図書〕

〔参考書〕

〔前提科目〕

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

The grades will be based on attendance, homework, optional homework and a final test.

〔評価の基準及びスケール〕

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

〔実務経歴〕

授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか): Course and textbook introduction 内 容: Introduction 教科書
第2回	テーマ(何を学ぶか): Shared housing versus living alone 内 容: textbook chapter 教科書
第3回	テーマ(何を学ぶか): Studying at home versus in a cafe 内 容: textbook chapter 教科書
第4回	テーマ(何を学ぶか): Gakuran versus Blazer 内 容: textbook chapter 教科書

第5回	テーマ(何を学ぶか):Coming of Age ceremony 内 容: textbook chapter 教科書
第6回	テーマ(何を学ぶか): 24/7 convenience stores 内 容: textbook chapter 教科書
第7回	テーマ(何を学ぶか):Japanese Era names 内 容: textbook chapter 教科書
第8回	テーマ(何を学ぶか): Point Cards 内 容: textbook chapter 教科書
第9回	テーマ(何を学ぶか): Domestic Trip versus Overseas Travel 内 容: textbook chapter 教科書
第10回	テーマ(何を学ぶか): More Foreign Visitors 内 容: textbook chapter 教科書
第11回	テーマ(何を学ぶか): Textbook Class Topic Selection 内 容: textbook chapter 教科書
第12回	テーマ(何を学ぶか): Textbook Class Topic Selection 内 容: textbook chapter 教科書
第13回	テーマ(何を学ぶか): Textbook Class Topic Selection 内 容: textbook chapter 教科書
第14回	テーマ(何を学ぶか): Textbook Class Topic Selection 内 容: textbook chapter 教科書
第15回	テーマ(何を学ぶか): Textbook Class Topic Selection 内 容: textbook chapter 教科書
試 験	Test on Textbook Content and Language

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
Writing as a Social Act II	2 単位	アカデミック・コモン・ベーシックス

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
成田　芙美 Narita Fumi	**時間**: to be announced **場所**: Room 609	講義

〔科目の概要〕

This course helps students to further improve in writing skills. Students are expected to write as many correct English sentences as they can on familiar topics. In each class, they will learn many practical words and phrases through reading the model sentences in the text. Then they will be required to write about their daily lives and express their opinions on some social issues. Interactive activities, both among students and between teacher and students, will often be encouraged.

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

For better communication in an international society, it is a great advantage to develop clear English writing skills. With the successful use of these skills, students can make themselves understood in written English. Practice in writing skills also encourages the well-balanced development of students' English ability. In-class activities will prepare students for writing in various situations, helping to make them more confident of their writing skills.

〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕

Students are expected to be able:
1. to increase vocabulary.
2. to use correct English to make themselves understood more clearly.
3. to write about themselves more fluently.

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

The teacher will try her best to offer the students whatever is necessary to improve their writing ability. These needs and the students' progress will be carefully monitored through various class activities and tests. The rate of progress may change the class schedule shown on the following pages.

〔教科書〕
Manabu Miyata and Joseph Stavoy, *Can't Stop Writing* [revised] (三修社、2018)
ISBN: 978-4-384-33434-0

〔指定図書〕
None

〔参考書〕
To be announced when and if it is necessary

〔前提科目〕
None

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

Evaluation will be based primarily on assignments and tests to be completed during class. Performance on homework is also important. In addition, extra points may be awarded for the completion of optional tasks.

〔評価の基準及びスケール〕

100-80% = A, 79-70% = B, 69-60% = C, 59-50% = D, 49% and lower = F

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

Students who practice the following can expect higher grades.
1. Prepare for every class by determining the areas one finds difficult to understand, and thus be able to ask the teacher or other students useful questions during class.
2. Attend every class. Assignments and tests will be completed during class sessions.
3. Revise after class the words and phrases one has learned.

Students must bring English-Japanese and Japanese-English dictionaries to class for use in assignments.

〔実務経歴〕

授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか): What is the aim of this course? What will you write? What is important or necessary in this class? 内　容: Orientation 教科書・指定図書 Unit 1
第2回	テーマ(何を学ぶか): Learn from the models and write 内　容: Friends 教科書・指定図書 Unit 6
第3回	テーマ(何を学ぶか): Improve what you have written 内　容: Friends 教科書・指定図書 Unit 6
第4回	テーマ(何を学ぶか): Learn from the models and write 内　容: High School Days 教科書・指定図書 Unit 7
第5回	テーマ(何を学ぶか): Improve what you have written 内　容: High School Days 教科書・指定図書 Unit 7
第6回	テーマ(何を学ぶか): Learn from the models and write 内　容: Education in Japan 教科書・指定図書 Unit 8

第7回	テーマ(何を学ぶか): Improve what you have written 内　容: Education in Japan 教科書・指定図書 Unit 8
第8回	テーマ(何を学ぶか): Learn from the models and write 内　容: Love and Marriage 教科書・指定図書 Unit 9
第9回	テーマ(何を学ぶか): Improve what you have written 内　容: Love and Marriage 教科書・指定図書 Unit 9
第10回	テーマ(何を学ぶか): Learn from the models and write 内　容: College Life 教科書・指定図書 Unit 10
第11回	テーマ(何を学ぶか): Improve what you have written 内　容: College Life 教科書・指定図書 Unit 10
第12回	テーマ(何を学ぶか): Learn from the models and write 内　容: Family Life 教科書・指定図書 Unit 11
第13回	テーマ(何を学ぶか): Improve what you have written 内　容: Family Life 教科書・指定図書 Unit 11
第14回	テーマ(何を学ぶか): Learn from the models and write 内　容: Social Issues 教科書・指定図書 Unit 12
第15回	テーマ(何を学ぶか): Improve what you have written 内　容: Social Issues 教科書・指定図書 Unit 12
試 験	

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
Writing as a Social Act II	2 単位	アカデミック・コモンベーシックス

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
Susumu Onodera	時間: 場所:	演習 susumu@hirosaki-u.ac.jp

〔科目の概要〕

The purpose of this course is to enhance students' writing abilities of English and to build up specific English vocabulary and phrases that will help them in their working lives after graduation.

Students will practice how to write an English essay. The goal of the class is to facilitate English improvement while generating student enthusiasm.

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

Writing is one of the most important skills for learning English. Improving your writing skill will serve to develop your English abilities. Active writing is necessary for students who would like to present their opinions and thoughts to customers and clients. Through this writing course, students are able to practice reading skill.

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

The goal of this course is to enhance students' writing abilities. Besides, students will build up their vocabulary in English and acquire its related knowledge.

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

The teacher should make an effort to meet the students' needs, based on their progress in class.

〔教科書〕

Skills for Better Writing <Intermediate> - Third Edition -

〔指定図書〕

To be announced.

〔参考書〕

To be announced.

〔前提科目〕

なし

〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等）

Students will be graded on daily class performance, submissions of their reports and examination results.

〔評価の基準及びスケール〕

A=80% or more
B=70-79%
C=60-69%
D=50-59%
F=Less than 50%

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

Students should attend every class with preparation for a unit.
The teacher has to do his best to offer students wonderful opportunities for develop their English skills and to give them confidence in writing English.

〔実務経歴〕

なし

授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか): Course orientation and Writing English 内　容: How to write English paragraphs? 教科書・指定図書 Skills for Better Writing <Intermediate> - Third Edition -
第2回	テーマ(何を学ぶか):Writing English 内　容:Unit 1 Conclusion / Reasons 教科書・指定図書 Skills for Better Writing <Intermediate> - Third Edition -
第3回	テーマ(何を学ぶか):Writing English 内　容:Unit 2 Social Trends 教科書・指定図書 Skills for Better Writing <Intermediate> - Third Edition -
第4回	テーマ(何を学ぶか):Writing English 内　容:Unit 3 Results / Causes 教科書・指定図書 Skills for Better Writing <Intermediate> - Third Edition -
第5回	テーマ(何を学ぶか):Writing English 内　容:Unit 4 Several Explanations 教科書・指定図書 Skills for Better Writing <Intermediate> - Third Edition -
第6回	テーマ(何を学ぶか):Writing English 内　容:Unit 5 Comparisons 教科書・指定図書 Skills for Better Writing <Intermediate> - Third Edition -
第7回	テーマ(何を学ぶか):Writing English 内　容:Unit 6 For and Against 教科書・指定図書 Skills for Better Writing <Intermediate> - Third Edition -
第8回	テーマ(何を学ぶか):Writing English 内　容:Unit 7 Classification 教科書・指定図書 Skills for Better Writing <Intermediate> - Third Edition -

第9回	テーマ(何を学ぶか):Writing English 内　容:Unit 8 History 教科書・指定図書 Skills for Better Writing <Intermediate> - Third Edition -
第10回	テーマ(何を学ぶか):Writing English 内　容:Unit 9 Processes 教科書・指定図書 Skills for Better Writing <Intermediate> - Third Edition -
第11回	テーマ(何を学ぶか):Writing English 内　容:Unit 10 Causes and Effects 教科書・指定図書 Skills for Better Writing <Intermediate> - Third Edition -
第12回	テーマ(何を学ぶか):Writing English 内　容:Unit 11 Definition of a New Word 教科書・指定図書 Skills for Better Writing <Intermediate> - Third Edition -
第13回	テーマ(何を学ぶか):Writing English 内　容:Unit 12 Research 教科書・指定図書 Skills for Better Writing <Intermediate> - Third Edition -
第14回	テーマ(何を学ぶか):Writing English 内　容:Unit 13 New Products 教科書・指定図書 Skills for Better Writing <Intermediate> - Third Edition -
第15回	テーマ(何を学ぶか):Writing English 内　容:Unit 14 Reading Graphs 教科書・指定図書 Skills for Better Writing <Intermediate> - Third Edition -
試　験	Examination: Writing an essay.

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
Essay Writing Ⅱ	2単位	アカデミック・コモンベーシックス

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
丹藤 永也 TANDO Hisaya	**時間:**オフィス・アワーは授業の開始時に提示 **場所:**621	講義

〔科目の概要〕

This course is designed for intermediate and upper-intermediate students who hope to build a solid writing ability through essay-writing. At the beginning of the course students are going to review the elements of good paragraph writing and then learn key notions of various types of essays. Finally, students will be given opportunities to write their own essays on a range of topics. By the end of the course, students will acquire how to write good essays in a coherent and articulate way.

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

Learning essay writing is an essential skill on not only university research but also modern business situations. Indeed, with changes in information technology written communication has been used more than ever before. To master rhetoric, grammar, paragraph organization, and mechanics with writing process will lead students to good English writers. Writing ability acquired through essay writing in this course will be surely useful in laying out ideas coherently on academic papers, reports, presentations, and so on.

〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕

By the end of this course, students will be able to write a structured essay and a research paper in English.

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

The improvements of this course are below:

1. The teacher should proceed classes at an appropriate pace to encourage students understanding of the classes.
2. The teacher should solve students' problem and advise them both in class and through office hour.
3. The teacher should improve students' English ability.

〔教科書〕

Skills for better Writing (Revised Edition), by Yumiko Ishitani, Emma Andrews, NAN'UN-DO (南雲堂),
ISBN 978-4-523-17604-6

〔指定図書〕

To be announced

〔参考書〕

To be announced

〔前提科目〕

None

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

Daily class performance: 40%

(This may include writing tasks, quizzes, homework, reports, and so on.)

Final Test: 60%

(In addition to the above, five points will be added when you submit a certificate of Really English.)

〔評価の基準及びスケール〕

In principle:

A = 100—80%, B = 79—70%, C = 69—60%, D = 59—50%, F = 49% —

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

Four Important Rules

1. Preview and review every class.
2. Attend every class and don't be late.
3. Hand in every homework assignment.
4. Make sure to bring your dictionaries (English-Japanese and Japanese-English) or an electronic dictionary

〔実務経歴〕

該当なし。

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか): Paragraph Writing 内　容: Structure of a paragraph 教科書・指定図書
第2回	テーマ(何を学ぶか): Conclusion / Reasons 内　容: Should capital punishment be abolished? 教科書・指定図書 Unit 1
第3回	テーマ(何を学ぶか): Analysis 内　容: How are people today using mobile phones? 教科書・指定図書 Unit 2

第4回	テーマ(何を学ぶか): Theory / Proof 内　容: Your eyebrows express more than your eyes. 教科書・指定図書 Unit 3
第5回	テーマ(何を学ぶか): Controversy 内　容: What are the merits and demerits of the lifetime employment system? 教科書・指定図書 Unit 4
第6回	テーマ(何を学ぶか): Comparison / Contrast 内　容: Japanese and British university entrance systems 教科書・指定図書 Unit 5
第7回	テーマ(何を学ぶか): Classification 内　容: Communism and Capitalism 教科書・指定図書 Unit 6
第8回	テーマ(何を学ぶか): Instructions 内　容: How to behave at a buffet party 教科書・指定図書 Unit 7
第9回	テーマ(何を学ぶか): Chronological Order (History) 内　容: How to write a CV (resume) 教科書・指定図書 Unit 8
第 10 回	テーマ(何を学ぶか): Cause & Effect 内　容: The falling birthrate 教科書・指定図書 Unit 9
第 11 回	テーマ(何を学ぶか): Process 内　容: How to proceed with a conversation 教科書・指定図書 Unit 10
第 12 回	テーマ(何を学ぶか): Explanation (New Products) 内　容: Chalkless Board 教科書・指定図書 Unit 11
第 13 回	テーマ(何を学ぶか): Definition 内　容: What is a “Freeter”? 教科書・指定図書 Unit 12
第 14 回	テーマ(何を学ぶか): Explanation (Statistics) 内　容: The population of City A 教科書・指定図書 Unit 13
第 15 回	テーマ(何を学ぶか): Essay Writing Task 内　容: Write an essay about the topic given by the teacher 教科書・指定図書
試 験	筆記試験(60 分)

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
Essay Writing II	2 単位	アカデミック・コモン ベーシックス

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
江連　敏和 EZURE, Toshikazu	**時間：** To be announced **場所：** #615	講義

〔科目の概要〕

This course is designed for intermediate and upper-intermediate students who try hard to learn more than writing a paragraph. The course is intended to help students build on the fundamentals of writing an essay with using knowledge they have acquired in “Essay Writing I.” The practices and feedback here encourage students to be more competent writers, who can organize their ideas clearly and coherently. During this course, a lot of practices for writing documents will be offered. Furthermore, discussing on a broad range of interesting topics is required. These topics strongly stimulate students to improve their reading, listening and analytical skills as well as writing. By the end of the course, students will acquire their own solid methodology of writing successful essays in a coherent and articulate way.

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

Writing is a very essential skill of learning English. Especially for academic writing, we have characteristic manners and process to complete a good essay. During this course, students will learn effective method to focus on a reader who would like to read your articles and compile the information they need. Writing ability acquired in this course will be surely useful for inspiring students’ creativity in situations such as laying out ideas coherently on academic papers, reports, presentations, and so on.

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

By the end of this course, students will be able to complete a structured essay and a short research paper in English.

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

The improvements of this course are below:

1. The teacher should proceed classes at an appropriate pace to encourage students understanding of the classes.
2. The teacher should solve students’ problem and advise them both in class and through office hours.
3. The teacher should improve students’ English ability.

〔教科書〕

3-Point Academic Writing: Organization, Content, Language.
by Miyama Akiko, Yukishige Mitsuo, Onabe Tomoko, Junko Murao, and Moore Ashley. Kinseido.
ISBN: 978-4-7647-4087-7

〔指定図書〕

To be announced

〔参考書〕

To be announced

〔前提科目〕

None

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

Daily class performance: 15 % (This may include quizzes and other activities, such as writing a draft and peer review practices.)

Final Test: 35 %

Drafts and Essays: 50%

In addition, some points will be added when a copy of the certificate of Reallyenglish is submitted.

〔評価の基準及びスケール〕

A=80% or more
B=70-79%,
C=60-69%,
D=50-59%,
F=less than 50%-

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

Four Important Rules:

1. Prepare for every class and the final test.
2. Join every class actively and don't be tardy.
3. Submit all assignments.
4. Bring and use dictionaries.

〔実務経歴〕

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか): Course orientation 内　容: What is essay writing? The logical patterns of writing essays 教科書・指定図書 Unit 1: Key features of academic essay
第2回	テーマ(何を学ぶか): Effective brain storming 内　容: Business communication tools Using a mind map 教科書・指定図書 Unit 1: Key features of academic essay
第3回	テーマ(何を学ぶか): Making an attractive title 内　容: What is attractive for your readers? / Topic key words Setting subjects and purposes 教科書・指定図書 Unit 2 : Title of your essay

第4回	テーマ(何を学ぶか): Writing an introduction 内　容: What should be included in an introduction? Background information 教科書・指定図書 Unit 3: Introduction of your essay
第5回	テーマ(何を学ぶか): Writing a body 内　容: Organize paragraphs in a body of your essay Introduction-Body-Conclusion 教科書・指定図書 Unit 4: Body of your essay
第6回	テーマ(何を学ぶか): Writing a conclusion 内　容: Restatement and summary Paraphrasing 教科書・指定図書 Unit 5 Conclusion of your essay
第7回	テーマ(何を学ぶか): Dealing with feedback 内　容: Check list for feedback Offering a helpful comment 教科書・指定図書 Unit 6: Feedback from others
第8回	テーマ(何を学ぶか): Checking the final draft 内　容: The list for self-checking Showring sources (bibliography) 教科書・指定図書 Unit 7: Submitting your final draft
第9回	テーマ(何を学ぶか): Academic and essay writing styles 内　容: Structures of a research paper Using information from previous study 教科書・指定図書 Unit 8: Structure of a research paper
第10回	テーマ(何を学ぶか): Writing an abstract 内　容: The purpose of your essay Summarizing your essay 教科書・指定図書 Unit 9: Key concepts of an abstract
第11回	テーマ(何を学ぶか): Practice of writing an abstract 内　容: Effective transitional phrases Cohesion 教科書・指定図書 Unit 10: First draft of your abstract
第12回	テーマ(何を学ぶか): Editing an abstract 内　容: Checklist for reviewing your abstract Parallelism 教科書・指定図書 Unit 11: Rewriting your abstract
第13回	テーマ(何を学ぶか): Extract the information from your essay 内　容: Which information is essential for your audience? A simple and well-organized presentation 教科書・指定図書 Unit 12: Key concepts of presentations
第14回	テーマ(何を学ぶか): Using visual aids 内　容: Graphs and charts 教科書・指定図書 Unit 13: Preparing visual aids
第15回	テーマ(何を学ぶか): Finishing your essay 内　容: Checking your final draft Using comments from reviewers and referees 教科書・指定図書 The review of unit 1-13
試 験	Final test

Active Reading Business Genres II	〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕 ACB
〔担当者〕 香取　真理	〔オフィス・アワー〕 **時間:** to be announced **場所:** #606	〔**E-mail**〕 mkatori@b.nebuta.ac.jp

〔科目の概要〕

During this course, students will be able to learn and acquire many skills to be a good reader such as skimming, scanning, and inferring. Additionally, this course is designed to meet the needs and interest of Japanese university students who are going to start their job hunting. All passages in every unit have been written about new forms of business, new products, state-of -the-art technologies, and notable corporate principles. Students will learn plenty of vocabulary and knowledge about Japanese famous enterprises and trends in business through this course.

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

It is safe to say that reading is the most important part of studying English. Improving your reading skills can also help you improve your general skills in English. Especially for APU students, it is necessary to read English materials relating to their major, such as managements, economics, and regional studies. Students will learn some global famous enterprises and technologies through this course and the knowledge will help them when they start their job-hunting process. Although this is a reading course, students practice their listening and analytical skills as they progress through this course.

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

At the end of this course, students should be able to understand an enjoyable way to develop reading skills as well as other language skills. Moreover, students will be able to acquire many business-related vocabularies and consolidate them with their existing knowledge.

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

The various components of this course will be introduced, based on the student’s progress in class.

〔教科書〕

Global pathways
英語で学ビジネス最前線
著者：Jonathan Lynch & Kotaro Shitori
出版社：成美堂
ISBN：978-4-791-97248-7

〔指定図書〕

to be announced

〔参考書〕

to be announced

*必ず辞書持参のこと

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

Students will be graded on attendance, participation, quizzes, reports, and examination results.

〔評価の基準及びスケール〕

A=80% or more
B=70-79%,
C=60-69%,
D=50-59%,
F=less than 50%-

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

Students should come to every class with energy and a willingness to work and learn.

The teacher has much to share with you and offer you ample opportunities for practice and will try best to help you gain confidence in reading.

授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか): Course orientation and introduction 内　容: Course orientation and introduction 教科書・指定図書 Course orientation & Unit 1
第2回	テーマ(何を学ぶか):New work styles (1) 内　容:Gig work 教科書・指定図書 Unit 1
第3回	テーマ(何を学ぶか):Inter-cultural communication 内　容:Your boss is from overseas. 教科書・指定図書 Unit 2
第4回	テーマ(何を学ぶか):New technologies 内　容:Bitcoin 教科書・指定図書 Unit 3
第5回	テーマ(何を学ぶか):Remote work 内　容:Working from home 教科書・指定図書 Unit 4
第6回	テーマ(何を学ぶか):Crowdfunding 内　容:Kickstarter 教科書・指定図書 Unit 5
第7回	テーマ(何を学ぶか):New sports 内　容:Esports 教科書・指定図書 Unit 6

第8回	テーマ(何を学ぶか):Popular culture 内　容:Unicorns 教科書・指定図書 Unit 7
第9回	テーマ(何を学ぶか):Modern musicians 内　容:How do modern musicians make money? 教科書・指定図書 Unit 8
第 10 回	テーマ(何を学ぶか):New future business 内　容:Space Business 教科書・指定図書 Unit 9
第 11 回	テーマ(何を学ぶか):Cashless world 内　容:Going cashless from a business's perspective 教科書・指定図書 Unit 10
第 12 回	テーマ(何を学ぶか):New working styles (2) 内　容:Workations 教科書・指定図書 Unit 11
第 13 回	テーマ(何を学ぶか):Japanese social systems 内　容:The future of "Hanko." 教科書・指定図書 Unit 12
第 14 回	テーマ(何を学ぶか):Subscription services 内　容:Netflix 教科書・指定図書 Unit 13
第 15 回	テーマ(何を学ぶか):Made in Japan 内　容:Japanese high-end denim industry 教科書・指定図書 Unit 14
定期試験	学期内に終了した範囲

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
Active Reading Business Genres Ⅱ	2単位	アカデミック・コモンベーシックス

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
丹藤 永也 TANDO Hisaya	**時間:**オフィス・アワーは授業の開始時に提示 **場所:**621	講義

〔科目の概要〕

The purpose of this course is to develop the reading ability and to build up business vocabulary through exposing students to various business articles. In the class, students read the articles of some companies and introduce them in English. Students can gain the presentation skill in addition to the reading skill. The knowledge that students gain will be useful for them when looking for jobs. This course is designed to help elementary level students to become more familiar with reading. To help students acquire the reading ability, many reading and writing tasks will be completed in every class. Students will be interested in the topics because they focus on the famous companies and their products.

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

English has become the common language of international trade and information exchange, and English ability is an advantage for Japanese people in many types of work. Active reading is a necessary way for students who want to gain useful information in the globalized world. Therefore, the need for reading ability is greater than before and learning and practicing how to read English articles is also greater than ever. This course will help students to expand their horizons not only in business world but also in their life.

〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕

The purpose of this class is to enhance the reading ability of students through active reading. Moreover, another goal is to equip the students with practical English vocabulary for business, and there will be opportunities for students to demonstrate their progress toward the goal.

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

The improvements of this course are below:

1. The teacher should proceed classes at an appropriate pace to encourage students understanding of the classes.
2. The teacher should solve students' problem and advise them both in class and through office hour.
3. The teacher should improve students' English ability.

〔教科書〕

A visit to Amazing Kansai-based Companies, by Inoue Osamu, Sumiya Kazuko, Lance Burrows, Amy Miyamoto, Morimoto Michitaka, Yoshino Narumi, Shohakusha (松柏社), ISBN 978-4-88198-663-9

〔指定図書〕

To be announced

〔参考書〕

To be announced

〔前提科目〕

None

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

Daily class performance: 50%

(This may include presentations, quizzes, homework, report, and so on.)

Final Test: 50%

(In addition to the above, five points will be added when you submit a certificate of Really English.)

〔評価の基準及びスケール〕

In principle:

A = 100—80%, B = 79—70%, C = 69—60%, D = 59—50%, F = 49% —

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

Four Important Rules

1. Preview and review every class.
2. Attend every class and don't be late.
3. Hand in every homework assignment.
4. Make sure to bring your dictionaries (English-Japanese and Japanese-English) or an electronic dictionary

〔実務経歴〕

該当なし。

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか): SUNTORY 内　容: Bringing Water to Life 教科書・指定図書 Chapter 1
第2回	テーマ(何を学ぶか): NABEL 内　容: ORACION: Handling Eggs Carefully 教科書・指定図書 Chapter 2
第3回	テーマ(何を学ぶか): ZOJIRUSHI 内　容: Inspirations from Everyday Life 教科書・指定図書 Chapter 3

第4回	テーマ(何を学ぶか)： TAKENAKA 内　容: Passing on the Best Works to Future Generations 教科書・指定図書 Chapter 4
第5回	テーマ(何を学ぶか)： Special Feature Article 内　容: Development of blue roses 教科書・指定図書 Chapter 5
第6回	テーマ(何を学ぶか)： KOKUYO 内　容: Delivering Inspirations, Efficiency and Comfort to Customers 教科書・指定図書 Chapter 6
第7回	テーマ(何を学ぶか)： KGK 内　容: Ink Jet Printers from Wakayama to the World 教科書・指定図書 Chapter 7
第8回	テーマ(何を学ぶか)： KOHNAN 内　容: From DIY Store to "Home Center for Everyone's Daily Needs" 教科書・指定図書 Chapter 8
第9回	テーマ(何を学ぶか)： MONTBELL 内　容: Function Is Beauty 教科書・指定図書 Chapter 9
第 10 回	テーマ(何を学ぶか)： Special Feature Article 内　容: Aid and Assistance for Sumatra 教科書・指定図書 Chapter 10
第 11 回	テーマ(何を学ぶか)： TOTANI 内　容: The World Leader in Pouch-Making Machinery 教科書・指定図書 Chapter 11
第 12 回	テーマ(何を学ぶか)： SUNSTAR 内　容： Always Strive to Help People Everywhere Achieve Better Health and Enhance Their Quality-of-Life 教科書・指定図書 Chapter 12
第 13 回	テーマ(何を学ぶか)： TAKEDA 内　容: Leading Innovation in Medicine 教科書・指定図書 Chapter 13
第 14 回	テーマ(何を学ぶか)： GLICO 内　容: A Wholesome Life in the Best of Taste 教科書・指定図書 Chapter 14
第 15 回	テーマ(何を学ぶか)： A Company you would like to introduce 内　容: Your chapter 教科書・指定図書 Chapter 15
試 験	筆記試験(60 分)

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
English Grammar and Usage II	2 単位	アカデミック・コモン・ベーシックス

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
成田 芙美 Narita Fumi	**時間:** To be announced **場所:** Room 609	講義

〔科目の概要〕

This course is designed for students who need to further improve their understanding of English grammar. In each class, students will focus upon one main point of grammar through various exercises. Question formats similar to those used in the TOEIC® test are often adopted, in order to help students familiarize themselves with the test. Interactive activities, both among students and between teacher and students, will be encouraged to make sure that students revise important grammatical structures and functions.

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

It is important for English learners to be able to understand grammar rules well and to be trained in their correct use. With improved grammatical knowledge, students can achieve a better understanding of both spoken and written English. Effective usage boosts confidence in second-language ability and enables one to make oneself more clearly understood. In these senses, the study of grammar is an essential building block.

Through this course, dealing with TOEIC® format questions, students may become more interested in their success on the test, which is popular in the Japanese business world. Their better scores will increase their chances of working for a company of their own choice.

〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕

Students are expected to be able:
1. to comprehend the significance of grammar rules
2. to understand fundamental grammar points
3. to achieve a better understanding of written English.

Students will be encouraged to take the TOEIC® test and to improve their scores.

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

The instructor will strive to offer students what is necessary for them to understand and use grammar more effectively. These needs and the students' progress will be carefully monitored through various class activities and tests. The rate of progress may affect the class schedule shown on the following pages.

〔教科書〕

A. S. Calcote, Kouichi Iwasaki, Nobuo Sakikawa, Mari Daito, Kunihiko Yagasaki, *Essential English Grammar for TOEIC® Test* (NAN'UN-DO Publishing Co., 2015).
ISBN: 978-4-523-17785-2 C0082

〔指定図書〕

None

〔参考書〕
To be announced when and if necessary

〔前提科目〕
None

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

Evaluation will be based primarily on assignments and tests to be completed during class. At the end of the course, students will sit for a final examination. In addition, extra points may be awarded for the completion of optional homework.

〔評価の基準及びスケール〕

A = 80-100%, B = 70-79%, C = 60-69%, D = 50-59%, F = below 50

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

Students who practice the following can expect higher grades.
1. Prepare for every class by determining the areas one finds difficult to understand, and thus be able to ask the teacher or other students useful questions during class.
2. Attend every class. Assignments and important tests will be completed during class sessions.
3. Revise for the final examination.

Students must bring an English-Japanese dictionary to class for use in assignments.

〔実務経歴〕

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか): What is the aim of this course? What is important or necessary in this class? 内　容: Orientation 教科書・指定図書 Unit 1
第2回	テーマ(何を学ぶか): Grammar point: Parts of speech 内　容: Exercises and explanations 教科書・指定図書 Unit 2
第3回	テーマ(何を学ぶか): Grammar point: Comparisons 内　容: Exercises and explanations 教科書・指定図書 Unit 3
第4回	テーマ(何を学ぶか): Grammar point: Participles 内　容: Exercises and explanations 教科書・指定図書 Unit 4
第5回	テーマ(何を学ぶか): Grammar point: Participial constructions 内　容: Exercises and explanations 教科書・指定図書 Unit 5

第6回	テーマ(何を学ぶか): Grammar point: Conjunctions 内　容: Exercises and explanations 教科書・指定図書 Unit 6
第7回	テーマ(何を学ぶか): Grammar point: Prepositions 1 内　容: Exercises and explanations 教科書・指定図書 Unit 7
第8回	テーマ(何を学ぶか): Grammar point: Pronouns 内　容: Exercises and explanations 教科書・指定図書 Unit 8
第9回	テーマ(何を学ぶか): Grammar point: Relatives 内　容: Exercises and explanations 教科書・指定図書 Unit 9
第10回	テーマ(何を学ぶか): Grammar point: Tenses 1 内　容: Exercises and explanations 教科書・指定図書 Unit 10
第11回	テーマ(何を学ぶか): Grammar point: Tenses 2 内　容: Exercises and explanations 教科書・指定図書 Unit 11
第12回	テーマ(何を学ぶか): Grammar point: Second and third conditionals 内　容: Exercises and explanations 教科書・指定図書 Unit 12
第13回	テーマ(何を学ぶか): Grammar point: The passive 内　容: Exercises and explanations 教科書・指定図書 Unit 13
第14回	テーマ(何を学ぶか): Grammar point: Prepositions 2 内　容: Exercises and explanations 教科書・指定図書 Unit 14
第15回	テーマ(何を学ぶか): Grammar point: Infinitives 内　容: Exercises and explanations 教科書・指定図書 Unit 15
試 験	Final examination on paper

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
English Grammar and Usage II	2 単位	アカデミック・コモン ベーシックス

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
江連 敏和 EZURE Toshikazu	**時間：** To be announced **場所：** #615	Lecture

〔科目の概要〕

This course is designed for students who have an interest in English grammar for business and everyday life. Students can learn the most useful English grammatical usages and vocabularies. And then, they can also practice them in class. These practices will change the students' knowledge of school grammar to more practical and communicative one. English grammar is essential for improving English skills such as speaking, listening, reading, and writing. So, students will have a lot of opportunities to repeatedly learn and practice English grammar in real business situations, where we need to give an instruction, to write an email, and so on. There will be a number of contextualized exercises to develop the students' practical English ability in class. It is hoped that students will realize that their skills have been gradually improved.

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

Educational systems of English grammar in Japan may be quite efficient. We can learn basic structures of English at high school. Unfortunately, however, we have not enough practices to apply our knowledge to real situations. So, most of us cannot use English well, though we have invested a lot of time and effort for learning. Thus, a lot of workshops will be held to refine our skills while expanding knowledge.

〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕

The purpose of this class is to enhance the knowledge of English grammar and vocabularies of students, and finally they find their clear goals to do with the knowledge acquired here. The goals will develop learning strategies in their life. For instance, if they need higher scores of several English tests such as TOEIC and TOEFL, they feel to study the systems for these tests. Or, if students would like to have better communication with people all over the world, they will focus more on spoken language.

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

The improvements of this course are below:

1. The teacher should keep an appropriate pace in the class.
2. The teacher should solve students' problem and advise them both in class and through office hour.
3. The teacher should improve students' English ability.

〔教科書〕

『A Communicative Grammar of English』 友繁　義典 (2010).　南雲堂. ISBN: 9784523176541

〔指定図書〕

To be announced

〔参考書〕
To be announced

〔前提科目〕
None

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

Students will be evaluated by test scores and quizzes in the class.

Test scores: 60 %. (The final test and several quizzes in the class).
Performances: 40 %. (Students are required to do some tasks including writing some sentences).

Students must answer questions where they choose the correct words and phrases, write sentences, and correct grammatical errors.

〔評価の基準及びスケール〕

A = 100--80%, B = 79--70%, C = 69--60%, D = 59--50%, F = 49% --

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

1. Students should voluntarily join every class activity and study hard.
2. Students should take all tests and quizzes.

The teacher will offer ample opportunities for practicing, discussing, and sharing ideas for efficiently increasing our knowledge of grammar and vocabularies. The teacher will try best to inspire you with confidence.

〔実務経歴〕

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか): **Learning practical English usage** 内　容: Infinitives part 1-2 教科書・指定図書 Unit 1-2
第2回	テーマ(何を学ぶか): **English basic sentence structures** 内　容: Participles　/ Gerunds 教科書・指定図書 Unit 3-4
第3回	テーマ(何を学ぶか): **Practices of gerunds, infinitives, and participles** 内　容: Gerunds and infinitives / Tense 教科書・指定図書 Unit 5-6
第4回	テーマ(何を学ぶか): **Differences between tense in Japanese and English** 内　容: Expressing denoting future time / Progressive form 教科書・指定図書 Unit 7-8

第5回	テーマ(何を学ぶか): **When do we use passive structures?** 内　容: Perfect form / Voice 教科書・指定図書 Unit 9-10
第6回	テーマ(何を学ぶか): **Various usages of subjunctive mood** 内　容: Subjunctive mood part 1-2 教科書・指定図書 Unit 11-12
第7回	テーマ(何を学ぶか): **Effective use of "negation" in a daily life** 内　容: Comparison Constructions / Negation 教科書・指定図書 Unit 13-14
第8回	テーマ(何を学ぶか): **Countable and uncountable nouns, collocation patterns of "verb – noun"** 内　容: Nouns / Pronouns part 1 教科書・指定図書 Unit 15-16
第9回	テーマ(何を学ぶか): **Learning collocation patterns of "adjective – noun"** 内　容: Pronouns part 2 / Adjectives 教科書・指定図書 Unit 17-18
第10回	テーマ(何を学ぶか): **Basic rules of Articles** 内　容: Articles / Quantifiers 教科書・指定図書 Unit 19-20
第11回	テーマ(何を学ぶか): **Learning collocation patterns of "verb – adverb"** 内　容: Adverbs / Verbs 教科書・指定図書 Unit 21-22
第12回	テーマ(何を学ぶか): **Key points of modal auxiliaries for Japanese learners** 内　容: Modal Auxiliaries part 1-2 教科書・指定図書 Unit 23-24
第13回	テーマ(何を学ぶか): **Basic images of prepositions** 内　容: Prepositions part 1-2 教科書・指定図書 Unit 25-26
第14回	テーマ(何を学ぶか): **How to organize sentences with conjunctions** 内　容: Prepositions part 3 / Conjunctions 教科書・指定図書 Unit 27-28
第15回	テーマ(何を学ぶか): **How to add information with relatives** 内　容: Relatives part 1-2 教科書・指定図書 Unit 29-30
試　験	Final Test (paper test)

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
プレゼンテーション	2 単位	アカデミック・コモンベーシックス

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
植田 栄子 Ueda Teruko	時間: 初回授業で紹介 場所: 607 研究室	アクティブ・ラーニング（相互学習方式）、講義

〔科目の概要〕

プレゼンテーションに必要な理論と実践を学び、最終的に無理なく必ず受講生全員のプレゼン力 UP をめざす。

主として以下の内容:

1） プレゼンテーションに必要な準備（レジュメの作り方とパワーポイントの作り方）
2） プレゼンテーションに必要な知識（音声的ポイント、ジェスチャーとしてのポイント、アイコンタクト等）
3） プレゼンテーションの構成（アウトラインの作り方、提示の仕方、見せ方）
4） プレゼンテーションの種類（誰に対して、どんな目標で、どんな場所で）
　①ゼミでの発表、②学会発表、③学外での発表、④就職面接での自己 PR
5） プレゼンテーションの評価 （「注意深く聞き評価できる」と、結果的に自分のプレゼンテーション力が向上します）
6） より優れたプレゼンテーションから学ぶ（NHK 番組「スーパープレゼンテーション」を視聴して、優れたプレゼンテーションの特徴を具体的に理解し、自分自身のプレゼンにフィードバックする。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

学生時代はもちろん、社会に出てからより重要とされる力が、「プレゼンテーション力」です。

どんなコンピュータも AI も変わることが出来ないのが、「人間が行うプレゼンテーション」なのです。

このプレゼンテーションを学ぶ必要があるのは;

1）どんな時代になっても、「人が人に対して行うプレゼンテーションに代替できるものがない」。

2）ゼミや研究会で、より良いプレゼンテーションができるようになると、自分が伝えたいことがより明確に相手に伝わり、相手の心や行動を「動かす」ことができる。

さらに、プレゼンを学ぶと次のことに結びつきます。

3）就職活動においてプレゼンテーション能力が求められ、さらに会社での評価に直接つながる。

4）良いプレゼンテーションが行えるようになると、自分の見せ方や他者への効果的な情報の説明、意見の提示、説得力ある提示、質疑応答がより良く出来るようになります。

すなわち、自分と他人との関係が強化され、自分の意見を説得力をもってわかりやすく、相手に伝えられるのです。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

（中間目標）

・リスナーの人数に応じて、声の大きさ、アイコンタクト、姿勢、ジェスチャーにも気を配ってスピーチができる。
・クラスメイト同士でも敬語表現を使って、フォーマル度の高い質疑応答や、話し方のスタイルを習得する。
・他のプレゼンテーションに関して、詳細な点に関する適切な分析ができる聴き方をすることができ、それを言語化して相手に伝えられる。
・人前で話すことの緊張感や苦手意識を軽減させる。

（最終目標）

・付加価値の高いレジュメの書き方、効果的なパワーポイントの作成を行い、適切に改善していける。
・プレゼンテーションの構成・内容を、リスナーとテーマに応じて工夫できる。リスナーに最も分かりやすく印象に残るプレゼンテーションの方法を、他の参考 DVD（スーパープレゼンテーション等）からも利用して実践できる。
・プレゼンテーションのレベルアップのために、ユーモア、エピソード、非言語的要素（笑顔、ジェスチャー、声の調子）について、工夫して実践できる。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

各受講生の発表時間が不足することを回避し、また最も効果的なプレゼンテーションの練習になるクラスサイズにしている。「繰り返しプレゼンテーションする」ことで、必ず全員が「絶対に上達し、自信がつく」。相互に評価しあうことで、分析力がつき、それが自分の発表の向上につながる。プレゼンテーションを苦手に思っている人こそ早目に受講してほしい。

特に、プレゼンテーションの内容が非常に面白くなってきた。学科を越えた相互情報交流の場になる。学期中2回のプレゼン、毎回出席して各発表者に対して書くコメントシートを提出することで、必ずプレゼンテーション力が向上する。

もちろん、自分の発表以外に必ず出席し、クラスメイトの発表を聞くという努力が上達の大前提である。

〔教科書〕

授業時に適宜紹介する。

〔指定図書〕
授業時に適宜紹介する。

〔参考書〕
授業時に適宜紹介する。

〔前提科目〕
なし

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

プレゼンテーション2回(口頭発表と作成資料)60% + 質疑応答や提出物(レポート):20%
+ 出席20% = 100%

〔評価の基準及びスケール〕

80～100 A
70～79 B
60～69 C
50～59 D
49以下 F

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕
＊実践的に学べるように、初回から徐々に必要な知識と能力を身に着けていきます。出席することが大前提です。
なぜなら、他の人がプレゼンテーションすることを聞く・質問する・コメントする、という作業がとても重要で効果的なプレゼンテーション力の養成に直結します。
＊発表中は、そのプレゼンテーションに集中して、当然ですがスマホや私語は厳禁です。自分がスピーカーの立場になれば、わかることですが。
＊発表に関する感想、質問の時間を取って、フォーマルな表現(敬語)を使うようにします。積極的に発言して下さい。

〔実務経歴〕

海外大学での教育研究活動以外の実務経験(現地の商工会議所など異文化との交渉にかかる実践経験)等を活かし、
プレゼンテーションに関してグローバルな視点も入れて実践的に学びます。

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか): コミュニケーションについて学ぶ必要 内 容: コミュニケーションの基礎知識。プレゼンテーションに関するニーズ分析。
第2回	テーマ(何を学ぶか):プレゼンテーションの目的 内 容:様々なプレゼンテーションの種類、構成要素を知る。参考DVDを視聴。
第3回	テーマ(何を学ぶか): コミュニケーションの基礎知識の復習(「対人コミュニケーションに関して」 内 容:その中におけるプレゼンテーションの基本的知識、これからの目的
第4回	テーマ(何を学ぶか):プレゼンテーションに必要な材料(レジュメとは？ パワーポイントとは？) 内 容:それぞれの特徴と作成方法を学ぶ

第5回	テーマ(何を学ぶか):第1回目のレジュメを用いたプレゼンテーション実践練習① 内　容:　担当者がプレゼンテーションを行い、クラス全員で質疑応答、講評、コメントシートを書く。
第6回	テーマ(何を学ぶか):第1回目のレジュメを用いたプレゼンテーション実践練習② 内　容:担当者がプレゼンテーションを行い、クラス全員で質疑応答、講評、コメントシートを書く。
第7回	テーマ(何を学ぶか):第1回目のレジュメを用いたプレゼンテーション実践練習③ 内　容:担当者がプレゼンテーションを行い、クラス全員で質疑応答、講評、コメントシートを書く。
第8回	テーマ(何を学ぶか):第1回目のレジュメを用いたプレゼンテーション実践練習④ 内　容:担当者がプレゼンテーションを行い、クラス全員で質疑応答、講評、コメントシートを書く。
第9回	テーマ(何を学ぶか):第1回目のレジュメを用いたプレゼンテーション実践練習⑤ 内　容:担当者がプレゼンテーションを行い、クラス全員で質疑応答、講評、コメントシートを書く。 ＊これまでの講評とパワーポイント発表に関する注意点。 ＊参考となるDVD視聴
第10回	テーマ(何を学ぶか):第2回目のパワーポイントを用いたプレゼンテーション実践練習① 内　容:担当者がプレゼンテーションを行い、クラス全員で質疑応答、講評、コメントシートを書く。 ＊ここからのパワーポイントを用いたプレゼンテーションはアクティブラーニング室(202)で実施予定。 ＊スーパープレゼンテーションを途中で視聴予定(最低でも2本)
第11回	テーマ(何を学ぶか):第2回目のパワーポイントを用いたプレゼンテーション実践練習② 内　容:担当者がプレゼンテーションを行い、クラス全員で質疑応答、講評、コメントシートを書く。
第12回	テーマ(何を学ぶか):第2回目のパワーポイントを用いたプレゼンテーション実践練習③ 内　容:担当者がプレゼンテーションを行い、クラス全員で質疑応答、講評、コメントシートを書く。
第13回	テーマ(何を学ぶか):第2回目のパワーポイントを用いたプレゼンテーション実践練習④ 内　容:担当者がプレゼンテーションを行い、クラス全員で質疑応答、講評、コメントシートを書く。
第14回	テーマ(何を学ぶか):第2回目のパワーポイントを用いたプレゼンテーション実践練習⑤ 内　容:担当者がプレゼンテーションを行い、クラス全員で質疑応答、講評、コメントシートを書く。
第15回	全体を通して成果を挙げた点、さらなる今後の課題。 スーパープレゼンテーションを視聴して分析レポートとする期末課題説明。
評価	授業中に行う2回のプレゼンテーション、その資料作成、提出するコメントシート、授業内での質疑応答を総合して評価する。

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
情報と経済社会	2 単位	アカデミック・コモンベーシックス

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
神山 博 Kamiyama Hiroshi	時間:授業開始後に指示 場所:R510 研究室	講義および演習

〔科目の概要〕

情報化経済の形成期から SIS、デジタル格差までを俯瞰しつつ、近年の電子商取引（EDI、EFT 、B2C、B2B、B2E 等）や、経営に生かすための情報活用（CRM、SCM、データ・マイニング、インターネットマーケティング等）を学際的に扱う。また情報通信産業の自由化と情報財、情報の非対称性などについても、その概要を扱う。実習では経営工学や経済分析の題材を取り上げ、実践スキルを養う。また近年急速に実用化されている人工知能やディープラーニングの原理を学び実習する。

これらを通じ、情報技術が経営に果たす役割を学ぶとともに、経済における情報の働きに関する基本的な知識を身につけることを目的とする。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

世界経済は人類の歴史上、かつてないほどの緊密性をもって動くようになってきている。このことは情報技術の高度な発達とあいまって、国家の枠組みを超えた緊密な関係をもたらすようになった。本講義は情報通信技術に関する最新の動向を学ぶと同時に、それがもたらす経済社会の変革についての総合的な視点を養うことを目的とする。これまでに履修してきた経営学・経済学の専門科目の知識を「情報」という視点から整理してもらいたい。将来、社会で活動する際に役立てられるように、授業の内容を構成した。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

最終目標

・情報がもたらす経済社会の変革についての総合的な視点を身につける。

中間目標

・経営工学の基礎的な手法についての知識を身につける。
・情報セキュリティの基礎的な知識を身につける。
・国際技術標準化の概要のついての知識を身につける。
・知的所有権に関する知識と態度を身につける。
・情報通信技術に関する最新の動向についての知識を身につける。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

「エクセルの操作や情報分野について深く学ぶことができる」「Excel の技術が上達する」「実践的な内容」等の評価をもらっているので、今年度の学生諸君も挑戦して欲しい。理論部分を分かりやすく実感できるような教材を使って、重点的に学習できるような授業としたい。

「途中で急に難易度が上がった気がした」「課題の正しい解答が分からない」のような難しさを訴える意見がありました。頻繁に机間巡回をしたのですが、質問する学生は殆どいませんでした。「難しい」と一人で悩むのではなく、積極的に質問する姿勢を身につけてください。

〔教科書〕
教員作成資料

〔指定図書〕
講義中に適宜提示する。

〔参考書〕
講義中に適宜提示する。

〔前提科目〕
情報リテラシーI

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)
授業中にレポート課題を課す。授業内でのアクティビティ、課題レポート、定期試験の成績により総合的に評価する。

〔評価の基準及びスケール〕
評価の基準 ： 学生便覧に準ずる。
スケール ： 授業内でのアクティビティと課題 50%、期末試験(レポート) 50%とする。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕
経済社会に情報がどのように関わってきているかを焦点に論じてゆきます。また最新の情報通信技術の動向について適時、解説を加える予定です。本講義を受講する学生は、講義そのものや提示された文献で学習するだけではなく、最新の情報通信技術の動向にアンテナを張りながら講義に臨んでください。

〔実務経歴〕
該当なし。

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか): 消費者の情報行動とマーケティング 内 容: 情報とは何か、個人の情報行動、デジタル化の特徴とネットワーク化の利点、広告とマーケティング、情報化と犯罪、情報の非対称性等について学ぶ。 教科書・指定図書
第2回	テーマ(何を学ぶか):情報通信とは何か 内 容:情報伝達手段の変遷とデジタル化の影響、情報コミュニケーションの要件、OSI 参照モデル、情報通信技術と商行為について学ぶ。 教科書・指定図書
第3回	テーマ(何を学ぶか):情報技術 内 容:コンピュータの歴史、半導体技術、コンピュータ技術、情報の蓄積・複製・伝送、デジタル化の意味について学ぶ。 教科書・指定図書

第4回	テーマ(何を学ぶか):人工知能 内　容:ニューラルネットワークとディープラーニングについて概観し、教師あり学習モデルを使って実際に文字認識を体験することで近年身近になった人工知能の基礎的な考え方を学ぶ。 教科書・指定図書
第5回	テーマ(何を学ぶか):情報化戦略と情報システム 内　容:インターネット時代の情報化戦略と情報システム、アイデア収集と整理・分析の手法、生産工程を支えるシステムや販売・流通システム、企業間取引を支えるシステムの概要について学ぶ。 教科書・指定図書
第6回	テーマ(何を学ぶか):e-コマースとインターネット経済(1) 内　容:取引と市場、取引ネットワークの発展、新しい市場と取引の形態、電子商取引を推進する政策について学ぶ。B2C、B2B、CRM、クラウドとデータ・ウエアハウス、データ・マイニングの概要を学ぶ。 教科書・指定図書
第7回	テーマ(何を学ぶか): e-コマースとインターネット経済(2) 内　容:経営情報システムの技術的要素、制約理論の考え方と適用分野、SCM のメリットと限界、統合業務システム(ERP)と電子データ交換(EDI)、世界標準 EDI 等について学ぶ。 教科書・指定図書
第8回	テーマ(何を学ぶか):経営工学(1) 内　容:数理計画法と線形計画法、定式化と最適解の計算、Desmos と Excel を用いた解法、PERT による日程計画とクリティカルパスについて学ぶ。 教科書・指定図書
第9回	テーマ(何を学ぶか):経営工学(2) 内　容:総合的品質管理のためのツールとその役割、意思決定理論のための決定基準とシミュレーションについて学ぶ。 教科書・指定図書
第10回	テーマ(何を学ぶか):経営工学(3) 内　容:管理図の基礎、第 1 種の誤りと第 2 種の誤り、計数値と計量値、検査、OC 曲線、、在庫管理と経済的発注量、パレート図について学ぶ。 教科書・指定図書
第11回	テーマ(何を学ぶか):情報セキュリティ 内　容:情報セキュリティ上の脅威、機密保護と改ざん防止、秘密鍵・公開鍵、デジタル署名と認証局、Web サーバの SSL 通信、不正侵入とコンピュータウイルス、リスク管理について学ぶ。 教科書・指定図書
第12回	テーマ(何を学ぶか):個人情報 内　容:情報漏洩ルートとネット社会特有のリスク、OECD 勧告 8 原則と EU 指令、個人情報保護法および諸法令での個人情報保護規定、プライバシーマーク等について学ぶ。 教科書・指定図書
第13回 課題研究 (1)	テーマ(何を学ぶか):決済・金融ネットワーク 内　容:支払手段の種類と比較、決済ネットワークと国際金融ネットワーク、電子マネーの概要と課題について学ぶ。 教科書・指定図書
第14回 課題研究 (2)	テーマ(何を学ぶか):物流ネットワーク 内　容:日本の物流情報システムと販売時点管理システム、ネットワーク問題と探索、ゴールシークについて学ぶ。 教科書・指定図書
第15回 課題研究 (3)	テーマ(何を学ぶか):情報財の法と経済 内　容:公共財と私有財、法律における情報財の扱い、知的財産権保護制度、著作物と著作権法、インターネット時代の著作権、新しい著作権の形、フェアユースとクリエイティブ・コモンズについて学ぶ。 教科書・指定図書
試　験	第12回までの内容に関する到達度を試験する。 試験に加えて第13回～第15回の課題レポートを評価する。

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
哲学Ⅱ	2 単位	教養科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
大森 史博 Ohmori Fumihiro	**時間:**講義開始時に指示する **場所:**613 研究室	講義

〔科目の概要〕

現代哲学の主要なトピックをとりあげ、そこでとり沙汰される諸事象について、それらがどのような意味で哲学の問題として問われているのかを吟味し、考察をすすめる。こうした「問い」の吟味と考察をとおして、われわれの世界経験についての理解を掘り下げてゆきたい。

国内外の哲学者の著作のなかからテキストを抜粋して読解をおこない、「自己」、「知覚」、「想起」、「身体」、「他者」、「贈与」、「生死」といった諸概念を、日常の具体的な経験に即して捉えなおすことへと向かう。

哲学とは「問い」の提起であり、「問い」を提起することは、哲学の歴史を担う運動である。

ただ概念を受容することにとどまらず、諸々の「問い」の意味を再考し、その思考を表現にもたらし、また、あらたに自分自身の「問い」を提起するという本来の哲学の営為に参加することへと向かいたい。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

春学期の「哲学Ⅰ」は西洋哲学の歴史を軸としたベーシックな講義であるのに対し、この秋学期の「哲学Ⅱ」は現代哲学のトピックともなる諸問題の考察を軸として展開する。

哲学は「知を愛する」ということ、つまり事象についてのあくなき探求を意味する。

探究という、そのこと自体は、もちろんどのような分野にも共通する学究の根本的な態度にほかならない。それぞれの学問の根本には問いがある。その意味では、哲学の営みは、いかにも素朴な知の探求のようにもみえる。

大切なことは、自分自身の問いをもち、事象の核心に向かい、根本に遡って探求をすすめることであろう。そうした機会は、じつは日常生活のなかには、とても少ない。だが、それこそが学問の本来であるだろう。

哲学に固有の「問い」とは何だろうか。そう思われるかもしれない。ここで、先ずもって気づかなければならないことは、学問領域の区分や棲み分けなどが問題ではないということだ。むしろ、これまで十分に考えずにきてしまったこと、これまで問わぬままに過ごしてきた事柄に探求の目を向けること、それこそが肝要な点であろう。

この授業が企図するところは、そのように自らのうちに生起する「問い」を掘り起こすことである。受講者もまた、既存の学説や概念を習い覚えるだけでなく、自ら考えることを楽しみ、自分の「問い」を見出すことを試みて欲しい。

〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕

中間目標:
問われている哲学の「問い」の意味を理解し、関連する文献を読み解き、解釈することができる。

最終目標:
学び覚えた哲学の諸概念を駆使して、経験する事象を捉えなおし、「問い」を提起して考察を深めることができる。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

授業の内容が難解だという感想がある。しかし、それは学問の性質と不可分でもある。できるだけ噛み砕いて説明するので、気になることや理解できないことがあれば、また遠慮なく尋ねて欲しい。授業終了の時刻を厳守して、参加者がじっくり考え、論述する時間を確保する。また、授業の理解を深めるために必要な宿題の仕方を工夫したい。

〔教科書〕

使用しない。プリントを配布する。

〔指定図書〕

なし

〔参考書〕

『オイディプス王』、ソポクレス著、藤沢令夫訳、岩波書店、1999 年
『生きることに責任はあるのか 現象学的倫理学への試み』、吉川孝ほか著、弘前大学出版会、2012年
『贈与の系譜学』、湯浅博雄著、講談社、2020 年
その他、授業のなかで紹介する。

〔前提科目〕

前提科目はない。春学期に開講の「哲学 I」と秋学期に開講の「哲学 II」は、各々が独立に完結する授業であり、どちらを先に履修してもよいし、どちらか一方だけを履修してもよい。

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

ワーキングシートの記述と授業への参加(50%)、学期末の課題(50%)

〔評価の基準及びスケール〕

A:80 点以上
B:80 点未満 70 点以上
C:70 点未満 60 点以上
D:60 点未満 50 点以上
F:50 点未満

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

哲学は難しいと思われるかもしれない。しかし、その難しさこそ、探究の面白さにちがいない。
自ら問いをもつこと、自ら考えることを本来として、焦らず、ねばり強く、授業に参加して欲しい。
授業スケジュールや各回の進度、扱う内容は、参加者の関心や理解に応じて変更することがある。

〔実務経歴〕

該当なし

授業スケジュール

第 1 回	テーマ(何を学ぶか):哲学はどのような学問か 内　容:オリエンテーション、授業の趣旨と進め方、学習の課題と評価についての説明 教科書・指定図書
第 2 回	テーマ(何を学ぶか):自己知についての哲学① 内　容:「汝自身を知れ」の命題と「私とは何か」という問い 教科書・指定図書
第 3 回	テーマ(何を学ぶか):自己知についての哲学② 内　容:知覚することと自己の存在、コギト命題の意味 教科書・指定図書
第 4 回	テーマ(何を学ぶか):自己知についての哲学③ 内　容:想起することと自己の存在、記憶と自己同一性 教科書・指定図書

第5回	テーマ(何を学ぶか):自己知についての哲学④ 内　容:確認と考察、ワーキングシート作成 教科書・指定図書
第6回	テーマ(何を学ぶか):身体についての哲学① 内　容:身体がなぜ哲学の問題になるのか 教科書・指定図書
第7回	テーマ(何を学ぶか):身体についての哲学② 内　容:身体と衣服とファッション 教科書・指定図書
第8回	テーマ(何を学ぶか):身体についての哲学③ 内　容:自己と他者の問題圏 教科書・指定図書
第9回	テーマ(何を学ぶか):身体についての哲学④ 内　容:確認と考察、ワーキングシート作成 教科書・指定図書
第10回	テーマ(何を学ぶか):贈与論の哲学① 内　容:贈与がなぜ哲学の問題になるのか 教科書・指定図書
第11回	テーマ(何を学ぶか):贈与論の哲学② 内　容:文化と自然、生命と循環の思考 教科書・指定図書
第12回	テーマ(何を学ぶか):贈与論の哲学③ 内　容:確認と考察、ワーキングシート作成 教科書・指定図書
第13回	テーマ(何を学ぶか):生死と哲学① 内　容:メメントモリ、先駆的決意性 教科書・指定図書
第14回	テーマ(何を学ぶか):生死と哲学② 内　容:死の感受、表現と思考 教科書・指定図書
第15回	テーマ(何を学ぶか):総括 内　容:確認と考察、ワーキングシート作成 教科書・指定図書
試 験	

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
宗教哲学	2 単位	教養科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
井川 昭弘 Akihiro Ikawa	**時間:** 講義前後 **場所:** 教室、非常勤講師室	講義

〔科目の概要〕

今日、我々は「安全、安心」を保証するかのような「管理社会」に住んでいるともいえよう。しかし、そこにおいては「善く生きる」という西洋倫理学および洋の東西を問わず宗教の古典的テーマと言える問題が把握しづらくなっているように思われる。また、近年のコロナ禍を挙げるまでもなく、そうした「管理社会」の破綻の危機やそこにおける生のある種の息苦しさは、多くの者が感受していることであると思われる。

この講義は世界の諸宗教に哲学的反省を加えるというアプローチではなく、「善く生きる」とは何であるかという人間の素朴な実存的関心を基盤としながら、宗教と一体化した古典的な西洋倫理学の「善き生」の探求を振り返るとともに、現代の「死生学」分野における死に至るまでの「善き生」の探求をまずは学びたい。

そのうえで、現代の「管理社会」の主要な「キャラクター」（A.マッキンタイア）である「心の専門家」の「善き生」の探求を、V.E.フランクル、神谷美恵子、E.キューブラー＝ロスの三名から取り上げることで、現代の「管理社会」における「善き生」の探求の姿に触れてみたい。

最後に、古代から近世に至る古典的な西洋哲学・倫理学の背後にあるユダヤ・キリスト教について、「キリスト教哲学」の視角から旧約・新約聖書を読み解くことで、可能な限り学んでみたい。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

この科目を学ぶことの第一の意義は、現代を生きる我々の人生の目的、意味を考えることにあると思う。それを現代社会の状況や、現代の思想家の言説を踏まえて学ぶことで、万人にとっての普遍的な人生の問題を考える手がかりを提供できるように思う。

また、社会諸科学を学ぶ際に、その前提となる人間というものの理解を深めるという意義があるように思われる。それは、社会科学を捉える際の大前提を反省することになるように思われるし、社会科学を学ぶ自己に反省を加えることになるように思われる。

さらに、新旧約聖書を学ぶことは、近代的な社会科学を生み出した西洋文明の根幹を学ぶことになるという意義があると思う。こうした点は、看過されがちな問題であるので、本講義の意義もあるように思われる。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

中間目標:①古代～近世までの西洋倫理学の概要を理解する。
②現代の死生学の概要を理解する。
③神谷美恵子、V.E.フランクル、E.キューブラー＝ロスの思想の概要を理解する。
④旧新約聖書の主なエピソードの概要を理解し、そこから宗教的メッセージを読み取る。

最終目標:「官僚制的個人主義社会」(A.マッキンタイア)とも形容される現代社会において、「善く生きる」とはどういうことか、自分なりに信念を持つ手掛かりを授業内容から見出す。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

本校での授業は今回が初回であるが、これまでの経験から言うと、スライド資料や DVD 資料を用いて要点の分かり易い授業にしたい。またマイク使用に注意して音声の聞き取りやすさにも留意したい。

〔教科書〕

教科書は指定しないが、授業の後半部分では各自、旧約・新約の収録された「聖書」を持参すること。なお「聖書」に関しては、日本聖書協会から出版されている各サイズの（ただし新約のみは不可）「新共同訳聖書」ないし「聖書協会共同訳」がスタンダードである。

〔指定図書〕

V.E.フランクル（山田他訳）『それでも人生にイエスという』春秋社、1993 年。
神谷美恵子『生きがいについて』みすず書房（神谷美恵子コレクション）、2004 年。
E.キューブラー＝ロス『ライフ・レッスン』角川文庫、2005 年。
共同訳聖書実行委員会『小型聖書 旧約続編つき』日本聖書協会、1988 年。

〔参考書〕

授業時に適宜指示する。

〔前提科目〕

特になし。

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

期末試験で行う。スライド資料の穴埋め欄が試験範囲となる。適宜リアクションペーパーを課すことがありうる(その場合リアペの得点は最大 10 点程度)。なお、欠席が授業回数の 3 分の 1 を超える者には期末試験受験資格が与えられない。

〔評価の基準及びスケール〕

評価　得点比率
A　80%～100%
B　70%～80%未満
C　60%～70%未満
D　50%～60%未満
F　50%未満

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

この授業は、教員からの問いかけと学生の皆さんからの応答から成り立っている。したがって、教員からの発問には自由に積極的に答えてもらいたいし、たとい発言がなくても授業内容について授業後に自分なりに消化・反芻して、思考を深めてもらいたい。人間の「生きる」ことは万人にとって問題であるのだから。

また内容が多岐にわたるので、欠席すると理解が困難になると思われ、なるべく欠席しないよう要請したい。

〔実務経歴〕

特になし

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか): オリエンテーション、現代日本人の「無宗教」について 内　容: 全体の授業概要、成績評価方法、必要書籍などについて説明する。 多くの日本人が自らを「無宗教」と規定することの意味、「無宗教」とは何であるのか考えてみる。 教科書・指定図書 :なし(配布資料を用いる、参考図書は適宜示す)
第2回	テーマ(何を学ぶか):生きる意味と宗教　「善き生」の探求の歴史① 内　容:人が求める生きる意味ないし目的を考察するうえで、「善き生」について探求した西洋倫理学の歴史を古代から中世まで概観する。 教科書・指定図書:なし(配布資料を用いる、参考図書は適宜示す)
第3回	テーマ(何を学ぶか):生きる意味と宗教　「善き生」の探求の歴史② 内　容:人が求める生きる意味ないし目的を考察するうえで、「善き生」について探求した西洋倫理学の歴史を中世から近世まで概観する。 教科書・指定図書:なし(配布資料を用いる、参考図書は適宜示す)
第4回	テーマ(何を学ぶか):生きる意味と宗教　「死生学」の問題意識① 内　容:死の本質論など、死生学の基本問題を学ぶことで、「善き生」についてさらに考察を深める。 教科書・指定図書なし:なし(配布資料を用いる、参考図書は適宜示す)
第5回	テーマ(何を学ぶか):生きる意味と宗教　「死生学」の問題意識② 内　容:「死者との実存共同」など、死生学の基本問題を学ぶことで、「善き生」についてさらに考察を深める。 教科書・指定図書:なし(配布資料を用いる、参考図書は適宜示す)
第6回	テーマ(何を学ぶか):E.キューブラー＝ロスについて 内　容:E.キューブラー＝ロスの晩年の著作『ライフレッスン』から「善き生」について考える。また彼女の死生学分野への貢献も学ぶ。 指定図書:E.キューブラー＝ロス『ライフレッスン』
第7回	テーマ(何を学ぶか):神谷美恵子について 内　容:神谷美恵子の名著『生きがいについて』から「善き生」について考える。また彼女のハンセン病患者との関りについて学ぶ。 指定図書:神谷美恵子『生きがいについて』

第8回	テーマ(何を学ぶか):V.E.フランクルについて 内　容:V.E.フランクルの『それでも人生にイエスという』から「善き生」について考える。また彼のアウシュビッツ体験について学ぶ。 指定図書:V.E.フランクルの『それでも人生にイエスという』
第9回	テーマ(何を学ぶか):古代ユダヤ教の世界① 内　容:『旧約聖書』「創世記」から、人間の原初の状態と歴史的世界への移行の物語を学ぶ中で、人間と神の基本的な関係について考える。「天地創造」～「バベルの塔」まで 教科書・指定図書:日本聖書協会『新共同訳聖書』
第10回	テーマ(何を学ぶか):古代ユダヤ教の世界② 内　容:『旧約聖書』「創世記」から、人間の原初の状態と歴史的世界への移行の物語を学ぶ中で、人間と神の基本的な関係について考える。「アブラハムの召命」～「ヨセフ物語」まで 教科書・指定図書:日本聖書協会『新共同訳聖書』
第11回	テーマ(何を学ぶか):古代ユダヤ教の世界③ 内　容:『旧約聖書』「出エジプト記」から、イスラエル民族のエジプトよりの解放とシナイ契約の物語を学ぶことで、人間の自由の意味と道徳律の関係について考える。 教科書・指定図書:日本聖書協会『新共同訳聖書』
第12回	テーマ(何を学ぶか):古代ユダヤ教の世界④ 内　容:『旧約聖書』「イザヤ書」から、「インマヌエル預言」「苦難の僕」などの個所を学ぶことで、歴史的世界における希望について考える。 教科書・指定図書:日本聖書協会『新共同訳聖書』
第13回	テーマ(何を学ぶか):キリスト教の世界① 内　容:『新約聖書』「福音書」から、「救世主イエス・キリスト」の出自から宣教活動への流れを学ぶことで、『旧約聖書』との連続性、「救い」ということの歴史的世界における実現について考える。 教科書・指定図書:日本聖書協会『新共同訳聖書』
第14回	テーマ(何を学ぶか):キリスト教の世界② 内　容:『新約聖書』「福音書」から、「救世主イエス・キリスト」の教えと業の物語を学ぶことで、『旧約聖書』との連続性、「救い」ということの歴史的世界における実現について考える。 教科書・指定図書:日本聖書協会『新共同訳聖書』
第15回	テーマ(何を学ぶか):キリスト教の世界③ 内　容:『新約聖書』「福音書」から、「救世主イエス・キリスト」の「死と復活」の物語を学ぶことで、人間の生命の実相について考える。 教科書・指定図書:日本聖書協会『新共同訳聖書』
試　験	配布されるスライド資料の穴埋め箇所から出題されるので、資料をきちんと綴じて保管して、試験前に見直すこと。

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
文学と人間	2 単位	教養科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
横手 一彦	時間:講義開始後に指示 場所:616 研究室	講義

〔科目の概要〕

この講義は、次の二つを軸に展開する。

一つは、日本近代文学を概観し、その特徴を見出すことである。作品を読み直し、時代との関わりや情知の形成過程を考え、その動態を分析する。その過程から、現代に関わる素因を見出し、考察することを目的とする。

個人の構想力(想像力)は、近代化(欧米化)の過程に随伴し、そこに範を置きながらも、多様な人間、様々な思考、錯綜した行動を描いた。

それらは、必ずしも道徳的な尺度や倫理的な基準に拠らず、むしろ、そこからこぼれ落ちる要因に関心を向けた。明治という時代の特異性や、明治という時代に生きた作家夏目漱石を、主な考察対象とする。

もう一つは、北東北の地域性を視野に入れ、個別の文学作品や映像作品を考察することを目的とする。

新田次郎『八甲田山死の彷徨』と映画「八甲田山」と八甲田連峰、水上勉『飢餓海峡』と映画「飢餓海峡」と下北半島、松本清張『砂の器』と映画「砂の器」(――必見に値する映画作品)と津軽半島などのテーマを設定する。

また、太宰治『津軽』を部分的に取り上げたい(あるいは津軽三味線の仁太坊)。地に根差し、北東北の現実に生きた人間の記録を、異なった表現形式を組み合わせ、連続的に考察する。

ことばによる理解と表現。また、映像による理解と表現。それらが重複する領域を焦点化し、いまの私たちが立つ地点の再考に及びたい。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

私たちは、学び、考える主体としてある。行動し、時には個人的な、社会的な批判を受ける。あるいは、評価される。現代では、その主体性という考えを否定する見方もある。

しかし〈自分〉が基点であり、〈自分〉を起点とする在り方への考察であることに変わりない。その要は、ことばによる「理解」と「表現」である。その意味を考え、記述するという実践をおこなう(記述的科学と方法定位的科学の区分)。私たちが立っている、いまという時空間を考え直すため、二〇二三年、二〇二四年の激変(?)を視野に入れ、近代化という過程を再検討する。そして、新たな全体像を、個の側から再構想することを試みる。

その未達と到達、形式の交差と離反などを、文字表現の分析を通じ、その一部であるが、読み解く。文字は、その生成時から、全く人間的なものであり、そこに特定の関係性が自ずと生み出された。

〈自分〉の在り方は、生きている〈自分〉の現実に関わる。そこに派生する疑問を、個別作品を分析しながら、教場で考えたい。

そのような課題設定は、他科目を学ぶ〈自分〉の在り方や関わり方というものに自ずと広がると考える。

※時間割表に、同一科目名「文学と人間」が二つ配置されている。より適切な受講者数で、教室での個々の応答を大切にしたいという主意による。同一科目名の二つを受講することはできない。時間割を勘案し、各自の判断で、どちらかの時間帯を選択する。

〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕

中間目標：

この講義は、教養教育科目の一つである。文学作品を紹介し、作品本文を分析し、書かれた内容を理解し、解釈する。これまでの「国語」教科とは異なる〈ことばを学ぶ〉パタンに触れ、幾つかの要点を習得することで、〈自分〉が〈自分〉を考え、〈自分〉が〈自分〉のことばで、「理解」し「表現」する大切さに及ぶ。

最終目標：

「文学」は、人文科学に属する学問領域である。特定の課題を言語化する能力、言語化による「理解」と「表現」、記述的科学の実践、それらの習得を主目的とする。その獲得を最終目標とする。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

開講７年目の科目である。学生の積極的な提案に、真摯に向き合いたい。
しかし、要望の総てに応えることは出来ないし、要望の総てが〈学ぶ〉ということに根拠を持つとも限らない。学生の不満や批判があろうとも、〈学ぶ〉ことに根拠を持たないと思われる要望には応じられない。その多くは、教壇に立つ側の判断による。時には、受講生との意見交換が必要になる場合もあると考える。
昨年と同様に、対話型の講義を基本に進行する。受講生の関心を勘案し、また要望により、昨年度より視覚教材を多く取り入れた授業計画とした。適宜、プリントを配布し、概要や要点などを明示する。

〔教科書〕

特に指定しない。

〔指定図書〕

特定の書籍を指定しない。講義中に配布した資料や文書の通読を求める。また、必要な文献等を紹介する。

〔参考書〕

講義の進展に伴い、適書を指示する。また、参考文献を紹介する。

〔前提科目〕

なし。

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

日本の近代化の諸相を、近代文学の作品が、どのような行為として描いたか。この変化の概略を理解し、併せて北東北の地域的な特性について理解を深める。
ことばや映像の表現形式を具体的に考察することを通じ、現在の様態を分析的に把握し、批判的に「理解」し、〈自分〉の「表現」能力を高める、その到達度によって評価する。

〔評価の基準及びスケール〕

講義への積極的な関わりなど(20%)、小テストや小レポート(20%)、学期末テスト (60%)。
A=100-80 点　B=79-70 点　C=69-60 点　D=59-50 点　F=49-0 点

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

この講義は、いくつかの段階を踏まえて進行する。このため、一側面において、雑多との思いを抱くかもしれない。
講義の進行は、はじめに、前回の学生コメント紹介、復習、作品紹介、分析、考察、思考、要点確認、質問、それらの項目立てに大凡沿ったものである。
関連する事柄を事前学習し、挙手や質問シートに書き込むなど、積極的な姿勢で、講義内容に取り組むことを望む。

〔実務経歴〕

なし。

授業スケジュール

第１回	テーマ（何を学ぶか）：　講義への導入　「文学」を学ぶということ 内　容：始めに――自己紹介・受講要件の確認・受講態度等・講義の概略・学生の要望 ：講義の導入１　(例. ことばの基本形)　西行 ：講義の導入２　身近なところから考える(例. 八甲田山)

	教科書・指定図書：　都度、適書を紹介し、講義の進行に合わせて参考資料などを配布する。
第2回	テーマ（何を学ぶか）：　日本の近代文学 内　容：坪内逍遙「小説神髄」の位置　近世からの転倒(あるいは進展)　初期理論の確立 ：時代区分　類型化　理解するということ 教科書・指定図書：　同上
第3回	テーマ（何を学ぶか）：　明治という時代1 内　容：西洋の受容――英文学者夏目金之助と作家夏目漱石　公私に生きる　〈私〉に生きる 教科書・指定図書：　同上
第4回	テーマ（何を学ぶか）：　明治という時代2 内　容：西洋の受容――例. 夏目漱石「坊ちゃん」　学校教育制度　立志　制度と個　人を育てる 教科書・指定図書：　同上
第5回	テーマ（何を学ぶか）：　明治期の折り返し・明治という時代3 内　容：講義の前半に立ち返る／講義の到達点と未達点／講義中に小レポート作成 展開の諸相――例. 森鴎外「舞姫」　新帰朝者　外側と内側の相克　学ぶ力　〈公〉に生きる 教科書・指定図書：　同上
第6回	テーマ（何を学ぶか）：　明治という時代4 内　容：展開の諸相――例. 樋口一葉. 与謝野晶子. 山川登美子.　女性の表現者たち 女性として. ≦ 人として. 生き方と生活と表現活動 教科書・指定図書：　同上
第7回	テーマ（何を学ぶか）：　地域性から考える――太宰治　/　仁太坊(津軽三味線) 内　容：地域との関わり 例. 太宰治『津軽』　太宰治と津軽　津島修治　/　仁太坊(津軽三味線) 教科書・指定図書：　同上
第8回	テーマ（何を学ぶか）：　地域から考える――北東北の文学作品と映像作品 1 内　容：地域との関わり――北東北の地域性　北東北の地に生きる　北東北の生活を描く 例えば――水上勉『飢餓海峡』と映画「飢餓海峡」と下北半島　その1 教科書・指定図書：　同上
第9回	テーマ（何を学ぶか）：　地域から考える――北東北の文学作品と映像作品 2 内　容：地域との関わり――北東北の地域性　北東北の地に生きる　北東北の生活を描く ：例. 水上勉『飢餓海峡』と映画「飢餓海峡」と下北半島　その2 教科書・指定図書：　同上
第10回	テーマ（何を学ぶか）：　地域から考える――北東北の文学作品と映像作品 3 内　容：地域との関わり――北東北の地域性　北東北の地に生きる　北東北の生活を描く ：例. 松本清張『砂の器』と映画「砂の器」と津軽半島　その1

	教科書・指定図書： 同上
第11回	テーマ（何を学ぶか）： 地域から考える――北東北の文学作品と映像作品 4 内 容：地域との関わり――北東北の地域性 北東北の地に生きる 北東北の生活を描く ：例. 松本清張『砂の器』と映画「砂の器」と津軽半島 その2 教科書・指定図書： 同上
第12回	テーマ（何を学ぶか）： 地域から考える――北東北の文学作品と映像作品 5 内 容：地域との関わり――北東北の地域性 北東北の地に生きる 北東北の生活を描く ：例. 新田次郎『八甲田山 死の彷徨』の成立 映画「八甲田山」製作 その1 教科書・指定図書： 同上
第13回	テーマ（何を学ぶか）： 地域から考える――北東北の文学作品と映像作品 6 内 容：地域との関わり――北東北の地域性 北東北の地に生きる 北東北の生活を描く ：新田次郎『八甲田山 死の彷徨』の分析 その2 ：例. 映画「八甲田山」と脚本家橋本忍 教科書・指定図書： 同上
第14回	テーマ（何を学ぶか）： 地域から考える――北東北の文学作品と映像作品 7 内 容：地域との関わり――北東北の地域性 北東北の地に生きる 北東北の生活を描く ：新田次郎『八甲田山 死の彷徨』まとめ その3 ：例. 映画「八甲田山」という映像作品 教科書・指定図書： 同上
第15回	テーマ（何を学ぶか）： まとめ 内 容：通史と通論という思考 原則＝話す. 聞く. 読む. 書く. 文字化するという行為(言語化) ことばによる「理解」 ことばによる「表現」 人間的な行為（人である・人になる・人となる） 教科書・指定図書： 同上
試 験	期末試験実施(受講者数やその関心の在り方などから、期末レポート提出とすることもある・教場で指示)。 講義を15回実施する前提で、授業計画を作成した。社会的な状況によっては、他科目の場合と同じく、12回の講義となることもある。その場合、課題レポートの提出を求めたりするなど、別途の形で不足を補う。

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
法律と人間	2 単位	教養科目 第２群（文化と社会）

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
髙橋　基樹 TAKAHASHI, Motoki	**時間:**開講時に指示する。 **場所:**617 研究室	講義形式中心

〔科目の概要〕

本科目ではまず、「法」とは何か、「法律」とはどのようなものであるか、その両者にどんな差異があるのか、なぜ私たちは「法」や「法律」を遵守すべき必要があるのかについて検討しながら解説する。そしてこの「法」や「法律」といったルールが存在することによって、私たちの「人権」が保障されていることから、「人権」保障と「法」・「法律」との関係性について探る。その際、立法過程に主に注目し、さらに適切な立法のために必要な違憲審査制等について学ぶことを通じて理解を深める。またさらに、「マイノリティー」と人権保障との関係をキーワードとして考察することも予定する。なお、本科目で用いる「マイノリティー」は単に少数者を意味するのではなく、現代社会において支配関係の中に閉じ込められてしまっている人々のことを意味する。そのため、これに属する人々や集団は、政治的な抑圧、経済的搾取、社会的な差別等によって不利なあるいは恵まれない境遇に現在も置かれている。そこで、この「マイノリティー」の定義について学んだうえで、現代の日本社会・法制度の中で彼らがどのような人権侵害を受けているのか、その現状を理解し、彼らの問題をどのように解決すべきか、「法」や「法律」で解決や対応が可能であるのかについて、本授業の講義・討論等を通じて受講生一人一人が考察する機会を提供する。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

現代の日本社会においては、私たちは「法律を遵守すべき」と一般的に考えられているが、なぜそう捉えられているのかを考える必要があるように思われる。また、「法律」が存在する意義の１つとして考えられる「人権」保障との関係から、現代の日本社会において、適切に「人権」が保障されているのかを考えることを通じて、現代にも残存する問題が存在していることを認識することに繋がるであろう。そしてこうした現代的な問題についてはどのような解決が必要か、それを法学的に考察することは、「法」および「法律」と「人間」との関係性を認識することになるであろう。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

第一に、「法」と「法律」との関係性を整理して理解することを中間目標とし、最終的には以下の事項を習得することを最終目標とする。

１、「法」および「法律」の存在意義について認識する。また「法」と「法律」との差異についても理解する。
２、「法」および「法律」と「人権」保障との関係について理解する。
３、現代の日本社会における「法律」の機能について認識し、そこで生じている問題の解決方法を考察する。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

本科目では、抽象的な「法学」に関する説明から、具体的な日本の「法律」をめぐる事例を用いた講義に繋げていくことを予定している。そのため今年度も、本科目での講義内容の理解の定着を促すために、重要な点について繰り返し説明を行うことや、履修者自身の意見や考えを聞く機会を設ける予定である。この点について、これまでの授業評価アンケートでは、復習に時間をかけることで理解の定着が可能となるとの好意的な意見があった一方で、この部分を短縮化して講義のペースを早めて、新しい内容の講義を希望するとの意見もあった。そこで今期は、履修者が講義内容を理解できているかについて教員が把握をしたうえで、講義の進行ペースを考えて講義する予定である。なお今年度も（時間的に余裕等があれば）、講義内容をより深く理解するために、現実問題に関する映像資料の視聴機会を設けることを予定しているが、この映像資料では、やや刺激的・攻撃的な内容等を含むものである。これの視聴機会を提供する目的としては、日本の「法律」上の現実問題の中にこうした攻撃的な側面が残されており、法律における対応が不十分な可能性があることを認識してもらうことにある。そのためこれを使用する場合、履修者によってはこれを不快に感じる方もいると思われるため、強制的に視聴させるのではなく、さまざまな配慮を行ったうえで、この映像資料を活用できるようにしたい。なお履修者には、本科目で取り扱う内容への積極的な興味・関心をもってもらえることを期待する。

〔教科書〕

特に教科書指定を行わない。（シラバス配布に基づいて、講義を実施する予定である。）

〔指定図書〕

講義中に紹介する。

〔参考書〕

萩原重夫『法と少数者の権利』（明石書店、2002 年）／木村草太『キヨミズ准教授の法学入門』（星海社新書、2012 年）／宍戸常寿（編）『18 歳から考える人権』（法律文化社、2015 年）／中央大学法学部（編）『高校生

からの法学入門』（中央大学出版部、2016 年）／辻村みよ子『概説　ジェンダーと法（第 2 版）』（信山社、2016 年）／榎沢幸広・小川由美子（編著）『Q からはじめる法学入門』（みらい、2017 年）／大津浩・大藤紀子・高佐智美・長谷川憲『新憲法四重奏　第二版』（有信堂、2017 年）／斎藤一久・堀口悟郎『図録日本国憲法　第 2 版』（弘文堂、2021 年）　など。上記以外は講義中に紹介する。

〔前提科目〕

　な し

〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等）

　定期試験の結果だけでなく、通常授業時における受講生の講義内容の理解度や積極的な出席態度を評価対象として、総合的に評価する。すなわち、通常授業時におけるコメント・ペーパーの提出に基づいた評価も行うということである。またこの通常授業時における講義内容の理解度の把握方法については論述形式で行うが、定期試験においても同様に、主に論述形式で行う。換言するに、講義内容の理解度については、履修者自身でその内容を文章化できるかどうかを主要な成績基準として、成績評価を行う。

〔評価の基準及びスケール〕

　学期末の定期試験（60%）、授業への積極的な参加度（40%）により評価を行う。この授業への積極的な参加度とは、授業内容に対する理解を通常授業の中で、コメント・ペーパー（主に文章形式での解答を求めるもの）を活用して評価することを意味する。この詳細な成績評価方法については、第一回目の授業の際に説明するため、履修希望者は必ず出席することを求める。上記の成績評価基準のうち、50%以上の取得者に対して単位認定する。

　なお上記の成績対象においては、「法律」を学ぶことに対する積極的な意義を理解ができているかどうかが主な評価基準であり、その上で、自身の意見や考え方を有すことができているかどうかが補足的な評価基準である。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

　本授業では、単に「法学」に関する講義を行うだけではなく、現代における法的な問題を理解してもらうための具体的な資料（たとえばＤＶＤやビデオといった視聴覚資料等）を提示し、それに対する意見を述べてもらうなど、双方向型の授業も行う予定である。そのため、コミュニケーション・ペーパーでの意見提出等も予定しており、受講生には授業に対する理解と積極的な参加が求められる。また、授業内容については、授業の進捗を勘案して適宜調整することがある。加えて、受講者の習熟度によっては、授業内容を変更することもある。

〔実務経歴〕

該 当 な し

授業スケジュール

第 1 回	テーマ（何を学ぶか）：　ガイダンス・社会科学としての法学・法的思考の在り方 内　容：　初回ガイダンスをかねて、社会科学の一分野に位置づけられる「法学」という学問について、他の社会科学の学問分野との比較・関係から検討する。また、「法学」を学ぶ上で前提となる、「法的思考」とはどのようなものであるべきかということや、「法」とはどうあるべきかについて解説する。 教科書・指定図書　レジュメを配布予定。準備学習として、「法学」とはどういった学問なのか、イメージをもって臨むこと。
第 2 回	テーマ（何を学ぶか）：「法」と「法律」の意味と立法権（国会の役割） 内　容：　なぜ「法律」とは遵守すべき必要があるのかについて解説をしたうえで、この「法律」を制定する立法権について解説し、国会という国の統治機構について講義する。そして「法」と「法律」との関係性や差異について考察する。 教科書・指定図書　講義中に紹介する。
第 3 回	テーマ（何を学ぶか）：立法権と選挙制度との関係（国会の構成） 内　容：立法権を有する代表機関がなぜ立法を行えるのか、選挙制度との関係から解説する。またこの立法府の構成員である国会議員の地位についても確認する。 教科書・指定図書　教科書　講義中に紹介する。
第 4 回	テーマ（何を学ぶか）：司法機関（裁判所）による法律に対する憲法判断と裁判事項（裁判所の役割） 内　容：「法律」の是非について、憲法判断を行う司法機関の役割との関係から解説する。加えて、日本の裁判所が判断できる事項とは何かについても、司法府の役割との関係から考察する。 教科書・指定図書　講義中に紹介する。
第 5 回	テーマ（何を学ぶか）：人権保障の意義とマイノリティーの存在 内　容：「法律」による「人権」保障がなされることがなぜ必要であるのかについて解説し、なぜ十分に人権が保障されず、支配関係の中に置かれる「マイノリティー」が現代社会において存在しているのか検討し、理解する。 教科書・指定図書　講義中に紹介する。

第6回	テーマ(何を学ぶか):被疑者・受刑者の人権保障と死刑制度の問題 内　容:犯罪の被疑者や受刑者に対する人権保障とはどのようなものとしてあるべきかについて、日本の現在の「法律」や法制度との関係から検討する。そして、その生命を国家が奪う死刑制度の存置問題についての検討も行う。 教科書・指定図書　講義中に紹介する。
第7回	テーマ(何を学ぶか):被差別集団に対する法的な差別の問題 内　容:日本に根付いてきた差別意識によって、差別を被ってきた集団の存在を確認し、彼らはどのような法的差別を受けてきたのかについて解説する。そして、「法律」によるこの解消が可能か検討する。 教科書・指定図書　講義中に紹介する。
第8回	テーマ(何を学ぶか):少数者意見の表明とその保障の問題 内　容:人権保障から導かれる意見表明の保障の在り方について解説する。そしていかなる意見の表明も人権として保障されるのかについて、現行の日本の「法律」や法制度との関係から考察する。 教科書・指定図書　講義中に紹介する。
第9回	テーマ(何を学ぶか):子どもの人権保障と人権制限との関係 内　容:現代の日本社会における成人・未成年の法律上の区分に基づいた人権保障のあり方の問題について考察する。そのうえで、現行の日本の法制度における成人・未成年を切り分ける年齢に基づく区分は妥当であるかについて考察する。 教科書・指定図書　講義中に紹介する。
第10回	テーマ(何を学ぶか):男女平等と法の下の平等との関係 内　容:性別に関係なく、「人」として平等に人権が保障されるためには、「法律」がどのように機能すべきかについて検討する。またジェンダー問題とは何かについて学ぶ。 教科書・指定図書　講義中に紹介する。
第11回	テーマ(何を学ぶか):性的マイノリティーの人権保障の問題 内　容:「LGBT」や性的マイノリティーの人権保障の在り方の 1 つとして、「同性婚」が現代の日本社会の中で立法できるかを主に検討する。また、「同性婚」の確立のみが性的マイノリティーの問題解決であるかについても検討する。 教科書・指定図書　講義中に紹介する。
第12回	テーマ(何を学ぶか):日本における地方問題と法律との関係 内　容:現代の日本社会における首都圏・地方との間における法律上の区分問題について取り上げて解説し、どのような法律上の解決が可能かを検討する。 教科書・指定図書　講義中に紹介する。
第13回	テーマ(何を学ぶか):グローバリゼーションと人権保障の問題 内　容:現代社会においては、国境を超越する人の交流や物の移動などが進展している。こうしたグローバリゼーションの中で生じる人権問題について解説する。そしてグローバリゼーションと「法」および「法律」との関係について考える。 教科書・指定図書　講義中に紹介する。
第14回	テーマ(何を学ぶか):定住外国人の人権保障と共生の問題 内　容:現代の日本社会における定住外国人の人権保障の問題を、特に「ヘイト・スピーチ」との関係から捉え、どのような人権保障がなされるべきかについて検討する。 教科書・指定図書　講義中に紹介する。
第15回	テーマ(何を学ぶか):移民の人権保障と共生の問題 内　容:グローバリゼーションが進展する中で、現代の日本社会における非国籍保持者の人権保障とはどのようなものとしてあるべきかについて考察する。そのうえでこうした問題にどのような法的対応が可能であるかについて検討する。 教科書・指定図書　講義中に紹介する。
試　験	定期試験(試験までの講義回の講義内容を範囲とした、論述式の問題を予定)

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
科学技術と社会Ⅱ	2 単位	教養科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
長岡朋人	時間:在室時 場所:605 研究室	講義

〔科目の概要〕

本講義は、科学の実用的な価値を教える「科学の教育」ではなく、科学を対象化して外から評価する「科学についての教育」を目的とします。科学の歴史において、現象や法則の発見のプロセスを、その研究者の時代的な背景をもとに解き明かし、科学的事実が社会や文化に与えた影響を考究します。科学技術とそれを取り巻く社会や文化を講じるとき、生命科学、地球科学、宇宙科学、医学などの技術の数だけテーマに広がりがあり、それぞれに技術の発展の背景があります。本講義のねらいは、科学の光と影の歴史を見渡す視座を通して、現代の複雑な問題に対処できる問題解決能力を涵養することです。科学哲学、科学技術社会論、科学史・科学技術史を概説し、近年発展が著しい医史学や生物学史を掘り下げ、科学と社会に関する幅広い知見と学際的な視点を紹介します。また、「人間とは何か」という命題に対する科学的理解と社会への影響をトピックに、進化論が生まれた 19 世紀以降、人間の由来をめぐる科学の発展と葛藤の歴史を通して、科学が社会とともにどのように歩んだかを振り返ります。科学技術と社会 Ⅱ では科学技術と社会 Ⅰ の学習を踏まえて、科学史・科学技術史、医史学、生物学史の各論を講じます。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

1. 批判的思考

私たちは科学技術に密接にかかわる場面で生活しています。科学の知識は必ずしも絶対的なものではなく、政治社会経済的背景を反映します。社会は常に変化していき、当たり前だと思った知識も色褪せていきます。身近にある当たり前の事柄に疑いを持てばメディアにあふれる情報を取捨選択できるでしょう。

2. 専門分野との学際的接点

本科目と経営経済学との学際的接点（たとえば生物学史における進化ゲーム理論は経済学にも応用されています）の意外性により学生の知的好奇心を高めることができると確信しています。

3. 地域貢献

青森にある学習資源を生かした教育により深く地域を理解し、地域の発展に資する人材を育成します。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

1. 最終目標

(1) 書籍やインターネットの情報を検索・取捨選択し正しく引用できること、(2) 自分の言葉で情報を整理し意見を述べることができること、(3) 科学に対する批判的思考を身につけることです。

2. 中間目標

(1) 本を読む習慣を身につけること、(2) レポートの書き方を身につけることです。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

不真面目な学生が周りの学生に迷惑をかけているという点について、この点は教員から学生に注意すべきことかと受け止めています。大学生にもなってこのような注意をするのは考えてしまいますが、きちんと指導を受けなければ理解できない学生がいるので、教育的な配慮として学生には諭します。

〔教科書〕

講義時に資料を配布します。

〔指定図書〕

「理系人に役立つ科学哲学」（森田邦久、化学同人、2010 年）、「科学技術社会論の挑戦 2 科学技術と社会」（藤垣裕子ほか、東京大学出版会、2020 年）、「軍事研究の戦後史」（杉山滋郎、ミネルヴァ書房、2017 年）、「科学者と戦争」（池内了、岩波新書、2016 年）、「日本の近代科学史」（杉山滋郎、朝倉書店、2010 年）、「図説医学の歴史」（坂井建雄、医学書院、2019 年）、「ヒトの進化のひみつ」（馬場悠男ほか、学研、2008 年）、「人体 600 万年史」（ダニエル・E・リーバーマン、早川書房、2015 年）、「バイオエシックス入門」（今井道夫・香川知晶、東信堂、1995 年）

〔参考書〕

なし

〔前提科目〕

科学技術と社会Ⅰを受講済みであることが望ましい。

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)
課題学習シートと期末レポートで評価を行います。

〔評価の基準及びスケール〕
A は 80 点以上、B は 70～79 点、C は 60～69 点、D は 50～59 点、E は 49 点以下と評価します。全講義回数の 3 分の1(講義回数が 15 回であれば 5 回以上)の欠席者はＦ評価とします。また、試験の無断欠席者、レポートの未提出者・遅延者はＦ評価とします。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕
1. 受講の姿勢
(1)講義の目的は暗記ではありません。科学技術と社会に関するトピックをもとに、当たり前と思っていた事柄に対して批判的な思考を身につけましょう。(2)大学における学びは講義室で完結するものではなく、私たちの周りにある自然、環境、生活、社会の中でつねに接点を持つものです。大学の外においても青森にある学習資源を生かした積極的な学びをお勧めします。
2. 学生への要望
(1)遅刻・欠席は控えてください(すべての講義に出席できる方が受講してください)。(2)講義で分からないことは質問してください。(3)受動的な姿勢で受講しないでください。講義中の私語や携帯電話の利用は禁じます。(4)マスクや手指消毒を行い感染対策に努めてください。

〔実務経歴〕
該当なし

授業スケジュール

第 1 回	テーマ(何を学ぶか):科学哲学 内　容:科学哲学の基礎を学びます。科学の境界(科学と非科学の違い)を理解します。 教科書・指定図書:「理系人に役立つ科学哲学」(森田邦久、化学同人、2010 年)
第 2 回	テーマ(何を学ぶか):科学哲学 内　容:科学概念について学びます。科学における現象の説明はどのようにすればよいでしょうか。科学における因果関係、法則、理論の概念を理解します。 教科書・指定図書:「理系人に役立つ科学哲学」(森田邦久、化学同人、2010 年)
第 3 回	テーマ(何を学ぶか):科学技術社会論 内　容:科学者と戦争に関する講義です。科学は平和利用にも軍事利用にも使われるデュアルユースです。科学者が軍事研究に従ってきた歴史と軍学共同研究が急速に進んでいる現状を理解します。 教科書・指定図書:「軍事研究の戦後史」(杉山滋郎、ミネルヴァ書房、2017 年)、「科学者と戦争」(池内了、岩波新書、2016 年)
第 4 回	テーマ(何を学ぶか):科学技術社会論 内　容:科学者と戦争に関する講義の続きです。科学は平和利用にも軍事利用にも使われるデュアルユースです。科学者が軍事研究に従ってきた歴史と軍学共同研究が急速に進んでいる現状を理解します。 教科書・指定図書:「軍事研究の戦後史」(杉山滋郎、ミネルヴァ書房、2017 年)、「科学者と戦争」(池内了、岩波新書、2016 年)
第 5 回	テーマ(何を学ぶか):科学史・科学技術史 内　容:日本における科学には独創性があるのでしょうか。第一次世界大戦前後における科学の発展を俯瞰します。講義では簡単な和算の問題に挑戦しましょう。 教科書・指定図書:「日本の近代科学史」(杉山滋郎、朝倉書店、2010 年)
第 6 回	テーマ(何を学ぶか):科学史・科学技術史 内　容:日本における科学には独創性があるのでしょうか。第二次世界大戦前後における科学の発展を俯瞰します。講義では簡単な和算の問題に挑戦しましょう。 教科書・指定図書:「日本の近代科学史」(杉山滋郎、朝倉書店、2010 年)
第 7 回	テーマ(何を学ぶか):医史学 内　容:古代における医療の始まり、古代ギリシャの医学、古代ローマの医学、中世ヨーロッパの医学について学びます。 教科書・指定図書:「図説医学の歴史」(坂井建雄、医学書院、2019 年)

第8回	テーマ(何を学ぶか):医史学 内　容:近世までの日本の医学について学びます。 教科書・指定図書:「図説医学の歴史」(坂井建雄、医学書院、2019年)
第9回	テーマ(何を学ぶか):生物学史 内　容:人類の起源の進化を概説し、人類進化をめぐる学説が時代とともにどのように変遷したかを学びます。また、科学史最大の捏造事件(ピルトダウン事件)を題材に、科学の倫理と不正について理解を深めます。 教科書・指定図書:「ヒトの進化のひみつ」(馬場悠男ほか、学研、2008年)
第10回	テーマ(何を学ぶか):生物学史 内　容:科学の発展が人間を幸福にしたでしょうか。産業革命以降、生物としての人間の身体が新しい科学技術にどのように不適合をおこしたかを議論します。これまでの講義を踏まえ、科学史・科学技術史、医史学、生物学史に関する知識を統合します。 教科書・指定図書:「人体600万年史」(ダニエル・E・リーバーマン、早川書房、2015年)
第11回	テーマ(何を学ぶか):科学技術社会論 内　容:生命倫理に関する講義です。生命倫理が誕生した背景、医学研究をめぐる倫理指針(ニュルンベルク綱領、ヘルシンキ宣言)、インフォームドコンセント、臓器移植や再生医療をめぐる倫理的問題について理解します。 教科書・指定図書:「バイオエシックス入門」(今井道夫・香川知晶、東信堂、1995年)
第12回	テーマ(何を学ぶか):科学技術社会論 内　容:生命倫理に関する講義です。生命倫理が誕生した背景、医学研究をめぐる倫理指針(ニュルンベルク綱領、ヘルシンキ宣言)、インフォームドコンセント、臓器移植や再生医療をめぐる倫理的問題について理解します。 教科書・指定図書:「バイオエシックス入門」(今井道夫・香川知晶、東信堂、1995年)
第13回	テーマ(何を学ぶか):科学技術社会論 内　容:生命倫理に関する講義です。生命倫理が誕生した背景、医学研究をめぐる倫理指針(ニュルンベルク綱領、ヘルシンキ宣言)、インフォームドコンセント、臓器移植や再生医療をめぐる倫理的問題について理解します。 教科書・指定図書:「バイオエシックス入門」(今井道夫・香川知晶、東信堂、1995年)
第14回	テーマ(何を学ぶか):課題学習 内　容:講義で学習した内容を踏まえて文献の講読を行い、自己学習能力を高めます。 教科書・指定図書:なし
第15回	テーマ(何を学ぶか):課題学習 内　容:講義で学習した内容を踏まえて文献の講読を行い、自己学習能力を高めます。 教科書・指定図書:なし
試　験	期末レポート

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
教養特殊講義 II	2 単位	教養科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
大森 史博 Fumihiro Ohmori	**時間:** 講義開始時に指示する **場所:** 613 研究室	講義

〔科目の概要〕

哲学の原義は「知を愛する」ということ、つまり事象についてのあくなき探求を意味する。そうであるならば、哲学とは、概念を形成する活動である以前に、ましてや、すでに出来上がった概念の操作や陳列である以前に、問いの生成に寄り添うことであり、その探究を表現にもたらそうとする努力であるはずだ。

この講義が焦点にするのは、哲学の探究なかで提起されてきた概念や問いであるが、同時にそうした思考のプロセスの表現である。例えば、定型詩や小説といった文学作品の文体はもとより、諸々の芸術作品のスタイル、あるいは学術研究において用いられる論述の作法さえも、各々の思考を牽引し、促しもすれば規制することにもなる媒介なのである。多様な表現のあり方が、思考を触発し、媒介するという、この点に目を向けたい。

現代思想の論客たちが、さかんにロゴス中心主義を批判してきたことは記憶にあたらしい。しかし、それはどういうことだろうか。もっとも素朴には、伝統的な哲学の方法はロゴス（つまり言葉や理性）を用いることであり、哲学の営為とロゴスは切り離すことができない。人間の知の営みとロゴスを分かつことができると考えるのは、あまりに安直である。だが、ロゴスそのものの出自は、ロゴス以前の経験に求めなければならないはずなのである。

本講義の目的は、こうした表現の問題を軸として、哲学を学ぶための、あらたなアプローチの仕方を探ることである。より具体的に言えば、①伝統的なロゴスの技法である「対話」という方法を実践的に行うこと、②哲学、文芸、芸術、等々の多様な表現のスタイルに触れ、慣れ親しむこと、③哲学の問いを生み出し、思考を媒介する対象（自然のものであれ、芸術作品であれ）を捉え、その経験を言葉によって表現にもたらすこと、といった実践的な活動をおこなう。

履修者は、各授業回の小レポートの記述、プレゼンテーション原稿の準備と発表、課題レポートの提出と総括、対話や質疑応答、といった活動への参加と報告を必須とする。進め方については、授業開始時に説明する。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

春学期に開講の「哲学 I」は、西洋哲学の歴史を軸としたベーシックな講義であり、また、この講義と同じく秋学期に開講される「哲学 II」は、現代哲学のトピックともなる諸問題を軸として考察を深めようとする講義である。さらに本講義は、これらの授業と密接に関連しながらも、また別様の仕方で哲学への接近を試みることにより、そのあらたな魅力へと受講者を誘うこと、対話をとおして探究の思考をともにすることを企図している。

かつて現象学派の哲学者たちは、哲学を「事象そのものへ」の遡及であり、哲学するとは「世界を見ることを学びなおす」ことであると語っていた。いまいちど自らの思考において、世界を見る、世界についての知をうるという探究の経験を捉えなおし、再考をすすめることにより、この世界を生きることのエートス（世界に住まうという人間性）と存在のロゴス（いまここに存在することの意味）についての理解を深めたい。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

中間目標:

哲学の「問い」の意味を理解し、関連する文献や媒介となる事象を自分なりに解釈することができる。

哲学の諸概念を駆使して、経験する事象を捉えなおし、自らの「問い」を提起して考察を深めることができる。

探究的な哲学の「対話」に積極的に参加することができる。

最終目標:

自ら提起する問いの探究や他者との対話をとおして、この世界を生きる人間についての理解を深める。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

哲学の開講科目の拡充にともない、昨年度より講義内容を大幅に変更し、新たな形式で授業をおこなっている。

内容が難しいという指摘はつねにある。事象そのものを繊細に捉えようとするならば、無理に単純化したり、簡略化したりすることは本末転倒であるから、できるだけ丁寧に要点を伝えることができるよう工夫していきたい。理解しにくい事柄や難解な点については、できるだけ噛み砕いて説明してゆくので、気になることは遠慮なく尋ねて欲しい。質疑応答や参加者相互の対話の時間を十分とることができるよう、授業の組み立てを工夫していきたい。

〔教科書〕
使用しない。必要な資料はプリントして配布する。

〔指定図書〕
なし。

〔参考書〕
『対話の技法』、納富信留著、笠間書院 2020 年
『映画で考える生命環境倫理学』、吉川孝ほか編著、勁草書房、2019 年
『メルロ=ポンティ『眼と精神』を読む』、メルロ=ポンティ著、富松保文訳、武蔵野美術大学出版局、2015年
『マンガは哲学する』、永井均著、岩波現代文庫、2013 年
その他、授業のなかで紹介する。

〔前提科目〕
関連する哲学の講義や演習を履修していることが望ましいが、必須の前提ではない。

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)
各授業回の小レポートの記述(24%)
プレゼンテーション原稿の準備と発表(36%)
課題レポートの提出と総括(28%)
対話、質疑応答、グループ活動への参加(12%)
詳細は、授業開始時に説明する。

〔評価の基準及びスケール〕
A:80 点以上
B:80 点未満 70 点以上
C:70 点未満 60 点以上
D:60 点未満 50 点以上
F:50 点未満

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕
哲学は難しいと思われるかもしれない。しかし、その難しさこそ、探究の面白さにちがいない。
自ら問いをもつこと、自ら考えることを本来として、焦らず、ねばり強く、授業に参加して欲しい。
授業スケジュールや各回の進度、扱う内容は、参加者の関心や理解に応じて変更することがある。

〔実務経歴〕

該当なし

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか):イントロダクション 内　容:授業の趣旨と進め方、学習の課題と評価についての説明、ロゴスについて 教科書・指定図書
第2回	テーマ(何を学ぶか):「哲学する」ということ① 内　容:探究の技法、対話、言語、メディア、表現として対話編(プラトン) 教科書・指定図書
第3回	テーマ(何を学ぶか):「哲学する」ということ② 内　容:探究の媒介としての言語、映像表現と哲学の問題圏 教科書・指定図書

第4回	テーマ(何を学ぶか):「哲学する」ということ③ 内　容:探究の媒介としての芸術作品、絵画における思考(セザンヌ) 教科書・指定図書
第5回	テーマ(何を学ぶか):「哲学する」ということ④ 内　容:探究の対象、探究の媒介、記録と追体験、プレゼンテーション原稿の準備と発表について 教科書・指定図書
第6回	テーマ(何を学ぶか):哲学と映像表現① 内　容:フィクションが与えるリアリティ、夢と現実を分かつ指標(デカルト) 教科書・指定図書
第7回	テーマ(何を学ぶか):哲学と映像表現② 内　容:時間についての問いと表現、死の意味(ソクラテス) 教科書・指定図書
第8回	テーマ(何を学ぶか):哲学と映像表現③ 内　容:語りえぬものと問いかけ、表現の放棄と語る声(ドゥルーズ) 教科書・指定図書
第9回	テーマ(何を学ぶか):哲学と映像表現④ 内　容:視覚的表現と音楽的手段(メルロ=ポンティ) 教科書・指定図書
第10回	テーマ(何を学ぶか):プレゼンテーション① 内　容:参加者による提題、および哲学対話 教科書・指定図書
第11回	テーマ(何を学ぶか):プレゼンテーション② 内　容:参加者による提題、および哲学対話 教科書・指定図書
第12回	テーマ(何を学ぶか):プレゼンテーション③ 内　容:参加者による提題、および哲学対話 教科書・指定図書
第13回	テーマ(何を学ぶか):方法と考察① 内　容:哲学の探求と哲学の計画 教科書・指定図書
第14回	テーマ(何を学ぶか):方法と考察② 内　容:哲学の表現と表現の哲学 教科書・指定図書
第15回	テーマ(何を学ぶか):総括 内　容:哲学へのあらたなアプローチについて 教科書・指定図書
試 験	

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
マーケティング論II	2 単位	経営学科基幹科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
行本　雅 Yukimoto Tadashi	**時間:** 初回の授業時にお知らせします **場所:** 515 研究室	講義

〔科目の概要〕

マーケティングの中心的な課題は、社会に価値をもたらすような取引がうまく実現するようにすることです。しかし、現実の世界ではさまざまな理由から取引が行われなかったり、社会的に望ましくない結果がもたらされたりすることがあります。たとえば、消費者が財やサービスの品質を観察できない場合には、すぐれた品質であっても取引が行われなくなります。また、適切に利用すれば持続的に利用可能な資源であっても、個々の生産者が自らの短期的な利益を追求すれば枯渇してしまいます。

このために、企業や政府は円滑な取引を実現するためのビジネスモデルの構築や制度設計に取り組んでいます。先ほどの例であれば、消費者に品質が正確に伝わるように表示のルールを定める、個々の生産者がどれだけ資源を利用してよいかあらかじめ割り当てる、といった方法がとられます。このように取引が円滑に行われるためには、どのようなビジネスモデルや制度をデザインするのが望ましいか学びます。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

マーケティング論Ⅰでは、マーケティング全般の基礎的な知識について学びました。本講義では、これをふまえた上でビジネス・エコノミクスとよばれるミクロ経済学のマーケティング分野への応用を学ぶことで、マーケティングの主要なトピックの背後にある理論的なメカニズムについて理解を深めていきます。

経営学の他分野の他に、ミクロ経済学、ゲーム理論、産業組織論、行動経済学などが関連の深い分野となります。この他、心理学や消費者行動論、経済法、消費者法なども関連します。

〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕

本講義では、企業はどのようにして消費者に製品の価値を伝えようとしているか、なぜ複雑な価格体系が用いられるのか、同じような製品でも様々なバリエーションがあるのはなぜか、メーカーは流通業者にどのようにインセンティブを付与しているのか、長期的な取引ではどのような問題が生じるのか、消費者はどのように意思決定を行っているのか、といったマーケティングの基礎的な事象について、その背後にあるメカニズムを事例や簡単な数値例を用いながら直観的に説明します。この他、ナッジ、消費者政策、エシカル消費、データ規制、エビデンス・ベースド・ポリシーといった最近のトピックも紹介します。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

レジュメや追加の資料などが好評のようなので、今後も充実させていきたいと思います。

〔教科書〕

レジュメを配布します。

〔指定図書〕

D. Kreps (2004) *Microeconomics for Managers*, Norton (中泉真樹・尾近裕幸・熊本尚雄・林行成・細谷圭・増原宏明 訳『MBA のためのミクロ経済学入門Ⅰ・Ⅱ』, 東洋経済新報社, 2008 年, 2009 年).

J. McMillan (1992) *Games, Strategies, and Managers*, Oxford University Press (伊藤秀史・林田修 訳『経営戦略のゲーム理論』, 有斐閣, 2009 年).

J. Tirole (2016) *Économie de Bien Commun,* Presses Universitaires de France(村井章子 訳『良き社会のための経済学』, 日本経済新聞出版社, 2018 年).

岡田章(2014)『ゲーム理論・入門 新版』, 有斐閣.

〔参考書〕

伊藤元重(2021)『ビジネス・エコノミクス 第2版』, 日本経済新聞出版

伊藤秀史(2012)『ひたすら読むエコノミクス』, 有斐閣.

依田高典(2016)『「ココロ」の経済学』ちくま新書.

R. Thaler and C. Sunstein(2008) *Nudge*, Yale University Press(遠藤真美 訳『実践 行動経済学』, 日経BP, 2009年).

G. Akerlof and R. Shiller(2015) *Phishing for Phools*, Princeton University Press(山形浩生 訳『不道徳な見えざる手』東洋経済新報社).

J. E. Stiglitz(2019) *People, Power, and Profits*, Norton & Company(山田美明 訳『スティグリッツ プログレッシブキャピタリズム』, 東洋経済新報社, 2020 年).

伊藤公一朗(2017) 『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』, 光文社新書.

〔前提科目〕

マーケティング論Ⅰを履修済みであることが望ましい。

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

成績評価は、授業時のレポート課題によって行います。評価の基準は、講義で取り上げるモデルの構造を理解できているかどうかです。単に現実の事例についての知識を身につけるだけでは、単位を取得するには不十分です。この講義では、企業や消費者などの各プレイヤーが、どのようなタイミングで、なにを知った上で、なにについて意思決定を行うのか、といった現実の背後にあるゲームの構造をイメージした上で、現実の問題を理解することが重要になります。

〔評価の基準及びスケール〕

A: 80 点以上
B: 70～79 点
C: 60～69 点
D: 50～59 点
F: 49 点以下

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

マーケティングは、経営学、経済学、心理学など様々な観点から研究されている分野です。本講義では主に経済学的なアプローチを紹介しますが、学問領域や分野にとらわれず幅広く関心を持って勉強して下さい。

〔実務経歴〕

該当なし。

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか): イントロダクション 内 容: 本講義であつかうアプローチの位置づけを紹介します 教科書・指定図書:使用しません
第2回	テーマ(何を学ぶか):市場分析 内 容:Porter の競争戦略と戦略的状況について学びます 教科書・指定図書:Kreps(2004)『Ⅱ』第6章, 岡田(2014)第4章, 第6章, 第8章
第3回	テーマ(何を学ぶか):逆選抜 内 容:風評被害がなぜ起こるのかについて学びます 教科書・指定図書:Kreps(2004)『Ⅱ』第4章

第4回	テーマ(何を学ぶか):シグナリング 内　容:ブランドや広告の役割について学びます 教科書・指定図書:Kreps(2004)『Ⅱ』第4章
第5回	テーマ(何を学ぶか):直観的基準 内　容:人々の信念と慣習や規範の役割について学びます 教科書・指定図書:Kreps(2004)『Ⅱ』第4章
第6回	テーマ(何を学ぶか):グループによる価格差別と第3種の価格差別 内　容:　価格差別の基本的な考え方となぜ様々な製品のバリエーションがあるのかについて学びます 教科書・指定図書:Kreps(2004)『Ⅰ』第7章
第7回	テーマ(何を学ぶか):第2種の価格差別とスクリーニング 内　容:なぜ携帯電話の料金プランは複雑なのかについて学びます 教科書・指定図書:Kreps(2004)『Ⅰ』第7章
第8回	テーマ(何を学ぶか):インセンティブ問題 内　容:インセンティブ問題について学びます 教科書・指定図書:Kreps(2004)『Ⅱ』第1章、McMillan(1992)第4章、第8章
第9回	テーマ(何を学ぶか):リスクとインセンティブ 内　容:リスクとインセンティブのトレードオフについて学びます 教科書・指定図書:Kreps(2004)『Ⅱ』第5章、McMillan(1992)第9章
第10回	テーマ(何を学ぶか):不完備契約 内　容:長期的な取引と評判の役割について学びます 教科書・指定図書:Kreps(2004)『Ⅱ』第10章
第11回	テーマ(何を学ぶか):限定合理性とナッジ 内　容:人々の限定合理的な意思決定や政策への応用について学びます 教科書・指定図書:依田(2016)第7章、Thaler and C. Sunstein(2008)第1章
第12回	テーマ(何を学ぶか):消費者政策 内　容:不当な表示の規制について学びます 教科書・指定図書:Akerlof and Shiller(2015)
第13回	テーマ(何を学ぶか):エシカル消費 内　容:外部性の問題とエシカル消費について学びます 教科書・指定図書:Kreps(2004)『Ⅰ』第14章
第14回	テーマ(何を学ぶか):プラットフォーム規制 内　容:データ規制について学びます 教科書・指定図書:Tirole(2016)第14章, 第15章, Stiglitz(2019)第6章
第15回	テーマ(何を学ぶか):エビデンス・ベースド・ポリシー 内　容:データに基づく政策決定について学びます 教科書・指定図書:伊藤(2017)
試 験	レポート課題で評価します。

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
人事管理論Ⅱ	2 単位	専門科目 基幹科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
中川宗人 NAKAGAWA Muneto	**時間:**授業内で掲示する **場所:**505	講義

〔科目の概要〕

人事管理は企業の経営資源であるモノ・カネ・ヒト・情報のうち、ヒトを対象とした管理です。人事管理は企業の経営目標達成に貢献するために、ヒトが担う労働・サービスをより良く発揮させることを目的とします。今日の社会・経済構造の変化に伴って、企業経営や人々の働き方も多様化・複雑化し、それに対処する人事管理のあり方も複雑になってきています。学問としての人事管理論は、こうした現代の人事管理を学問的に研究し、実態を把握し、望ましい人事管理のあり方を構想しようとする分野です。この人事管理論Ⅱでは、人事管理論Ⅰをふまえてより発展的な内容を扱います。

具体的にはⅠで学習した現在の日本企業の人事管理のあり方が、歴史的にどのように形成されてきたのかを検討します。

授業に関する連絡や資料データの配布、課題の管理はGoogleクラスルームを使用します。登録方法を初回の授業で説明しますので、履修者は必ず出席し2回目までに登録できるようにしておいてください。

クラスルームを用いて毎回テキストの指定の範囲を事前に読み、コメントを提出してもらう予定です。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

人事管理は経営を構成する一機能ですが、労働時間や賃金といった事項を扱うことから、何らかの組織で働く人すべてにとって身近な科目です。また現在の人事管理に関する戦略は、経営戦略とも密接に関わり、企業の将来をますます左右するようになっています。人事管理論Ⅱでは主に第二次大戦後の日本の人事管理の形成過程について学習します。人事管理制度は社会の様々な事柄と関わっていますので、歴史的な知識が身につきます。またある制度がなぜ、どのように形成されてきたのかという動態的な思考が深まります。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

・人事管理論の発展的な内容について説明することができる。
・戦後日本の人事管理の基本的な流れについて説明することができる。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

学生からのフィードバックをふまえ声の音量や喋るスピードなど聞き取りやすい講義を心がけています。
LMSを用いた授業資料の共有を進めています。

〔教科書〕

佐口和郎（2015）「日本的雇用システムと労使関係」『「日本的雇用システム」の生成と展開－「日本的雇用システム」と労使関係の歴史的検証に関する研究報告書』連合総合生活開発研究所
※購入の必要はありません。入手方法は授業内で指示します。

〔指定図書〕

平野光俊・江夏幾多郎（2018）『人事管理』有斐閣
松永・園田・中川編（2022）『21世紀の産業・労働社会学』ナカニシヤ出版
佐口和郎（2018）『雇用システム論』有斐閣

〔参考書〕

海老原嗣生・荻野進介（2018）『名著17冊の著者との往復書簡で読み解く 人事の成り立ち』白桃書房

〔前提科目〕

人事管理論Ⅰを履修していることが望ましい。

〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等）

中間課題とレポートによって行います。

〔評価の基準及びスケール〕
学生便覧の評価基準に準拠します。
A:80点以上
B:70点以上
C:60点以上
D:50点以上
F:50点未満

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕
日頃から雇用・労働に関するニュースに関心をもち、授業で得た知識を活かして疑問を発する習慣を養ってください。

〔実務経歴〕
該当なし

授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか):イントロダクション 内　容:授業の概要、進め方、成績評価などについて説明します。 教科書・指定図書
第2回	テーマ(何を学ぶか):日本的雇用システムの概要と戦後の時期区分 内　容:授業全体に関わる問題設定と基礎的な概念について検討します。 教科書・指定図書　テキスト 1-7 頁
第3回	テーマ(何を学ぶか):1940 年代① 内　容:(1)環境条件と諸主体の選択、(2)雇用諸制度 1940 年代後半の社会経済状況と、当時の雇用制度の展開について検討します。 教科書・指定図書　テキスト 7-14 頁
第4回	テーマ(何を学ぶか):1940 年代② 内　容:(3)労使関係、(4)生活問題、(5)選択されなかった道 1940 年代後半の労働運動や生活問題について検討します。 教科書・指定図書　テキスト 15-19 頁
第5回	テーマ(何を学ぶか):1950 年代① 内　容:(1)環境条件と諸主体の選択、(2)雇用諸制度 高度経済成長期の始まりとなる 1950 年代の雇用制度について検討します。 教科書・指定図書　テキスト 19-25 頁
第6回	テーマ(何を学ぶか):1950 年代② 内　容:(3)労使関係、(4)生活問題、(5)選択されなかった道 1950 年代の労使関係について検討します。 教科書・指定図書　テキスト 25-29 頁
第7回	テーマ(何を学ぶか):1960 年代① 内　容:(1)環境条件と諸主体の選択、(2)雇用諸制度 日本的雇用システムにとって重要な時期となる 1960 年代の社会状況と雇用制度について検討します。 教科書・指定図書　テキスト 29-36 頁
第8回	テーマ(何を学ぶか):1960 年代② 内　容:(3)労使関係、(4)生活問題、(5)選択されなかった道 60 年代の労使関係や生活問題について検討します。 教科書・指定図書　テキスト 37-40 頁

第9回	テーマ(何を学ぶか):1970年代① 内　容:(1)環境条件と諸主体の選択、(2)雇用諸制度 現在につながる正規雇用のあり方が形成されてくる1970年代の雇用制度について検討します。 教科書・指定図書　テキスト 41-44頁
第10回	テーマ(何を学ぶか):1970年代② 内　容:(3)労使関係、(4)生活問題、(5)選択されなかった道 「春闘」が重要な局面を迎えた70年代の労使関係について検討します。 教科書・指定図書　テキスト 45-48頁
第11回	テーマ(何を学ぶか):1980年代① 内　容:(1)環境条件と諸主体の選択、(2)雇用諸制度 80年代の社会経済状況、雇用制度について検討します。 教科書・指定図書　テキスト 49-53頁
第12回	テーマ(何を学ぶか):1980年代② 内　容:(3)労使関係、(4)生活問題、(5)選択されなかった道 80年代の労使関係について検討します。 教科書・指定図書　テキスト 54-57頁
第13回	テーマ(何を学ぶか):1990年代以降① 内　容:(1)環境条件と諸主体の選択、(2)雇用諸制度 現在につながる変化が始まった90年代の社会状況、雇用制度について検討します。 教科書・指定図書　テキスト 57-60頁
第14回	テーマ(何を学ぶか):1990年代以降② 内　容:(3)労使関係、(4)生活問題、(5)変容の位相 90年代の労使関係や生活問題について検討します。 教科書・指定図書　テキスト 61-63頁
第15回	テーマ(何を学ぶか):まとめ 内　容:授業全体のまとめ、期末レポートについての説明 授業内容を振り返りし、期末の課題について説明します。 教科書・指定図書　テキスト 63-66頁
試 験	

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
経営特殊講義Ⅰ(中小企業論)	2 単位	専門科目 (展開科目)

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
上田　弘 Ueda Hiromu	時間:授業日の12:10～12:30 場所: 604 研究室	講義

〔科目の概要〕テーマ：中小企業の役割と特徴

中小企業論を学ぶにあたり、わが国経済において、中小企業が企業数で９９．４％を占めている、これに対し大企業は企業数でわずか０．６％にしか過ぎません。本授業では、わが国経済の大部分を占めている中小企業経営及び ベンチャー企業経営の現状と課題を大企業との比較を通じて明らかにし、これからの中小企業、ベンチャー企業のあり方と「企業の力を見抜く目利き力」を学ぶこととする。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

一般的に、中小企業といえば、大企業と比べて企業規模が小さく、経営体質がぜい弱で、大企業のほうが有利であるという見方をしていませんか？ ところが、わが国経済において、中小企業は企業数で９割超、従業員数でも７割超の規模を占めており、依然として重要な役割を担っていることから、その期待は高まる一方である。そうした期待を実現しようとする動きとして、新規創業・起業のほか、地域において業績を伸ばしている中小企業、ベンチャー企業が注目されている。そこで、本授業では、中小企業をよく理解するために、次の３つの視点で学ぶこととする。

１．わが国経済、産業、地域社会における中小企業と役割について
２．中小企業経営の特徴と経営課題について
３．話題性のある中小企業事例（伊那食品工業など)、ベンチャー企業事例（楽天など)、大企業事例(ソニー、サントリーなど)の事例について

〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕

本授業では、中小企業の位置づけと役割のほか、中小企業と大企業との比較を通じて、企業経営に対する興味と理解を高め、将来の就職活動、合同説明会、インターンシップの場面等でも役立つ「企業の力を見抜く目利き力」を学ぶことを目標とする。なお、本授業では学習効果を高めるため、４回の連続授業を実施する。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

この科目を担当するにあたり、私がこれまで、国の中小企業政策を担当した知識、中小企業で実質経営責任者として勤務した経験から得た知見、全国各地の多くの中小企業をフィールドワークで訪問、海外調査で訪ねた企業事例などを通じて、中小企業に関する経営現場や実態に関する知識を付与したい。また本授業では、履修者からの要望、改善・工夫に関する意見や過年度のアンケート結果を参考にして、積極的に授業に反映させるよう行っていきたい。

〔教科書〕

渡辺幸男・小川正博・黒瀬直宏・向山雅夫著　第3版『２１世紀中小企業論』 有斐閣アルマ

〔指定図書〕

上田浩史・桑原武志・本多哲夫・義永忠一 著（２００８）『中小企業・ベンチャー企業論』 有斐閣コンパクト
池田潔・太田一樹ほか著 高田亮爾ほか編著（２０１３）『現代中小企業論』 同友館

〔参考書〕

松田修一 著 『ベンチャー企業』 日経文庫
太田一樹・池田潔・文能照之 編著 『ベンチャービジネス論』 実教出版
日本中小企業学会論集　『世代交代期の中小企業経営』 同友館
中小企業庁編 『中小企業白書』 各年版（２００８～２０２２）

〔前提科目〕

なし

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

・評価の方法

1. 秋学期開始後、11月の中間時に「課題レポートの提出」を課し、提出されたレポートは最大 50 点評価とする。

2. 学期末に「定期試験」を行い、最大 50 点評価とする。(試験では教科書、レジュメ、講義ノートは持ち込み可。)

上記 2 つの要素で最終評価に反映させる。

〔評価の基準及びスケール〕

・評価の基準

授業で得た知識をもとに、中小企業、ベンチャー企業、大企業の経営の特徴について論じる力で評価する。

A:80 点以上

B:80 点未満 70 点以上

C:70 点未満 60 点以上

D:60 点未満 50 点以上

F:50 点未満

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

・受講を希望する者は、必ず 1 回目の授業に出席してほしい。

・授業は、出来るだけ分かりやすい授業を行うが、一方的に話すだけではなく、教科書及びレジュメ等の輪読、学生の意見を求めることもある。そのため、受講する学生には、授業への参加意識を持って出席をしてほしい。

・PCや ipad、スマホ等の情報機器は、ノートをとる必要及び事例企業等を検索する場合に限り、その使用を認める。

〔実務経歴〕

経済産業省（旧通産省)、国の独立行政法人、中小企業等での実務経験を活かし、中小企業経営及びベンチャー企業経営の現状と課題を大企業との比較を通じて明らかにし、中小企業経営のあり方と「企業の力を見抜く目利き力」などの習得を目指すこととする。

授業スケジュール

第1回 9／23	テーマ(何を学ぶか)： オリエンテーション、中小企業について学ぶ意義 内　容: わが国の産業構造の変化、少子・高齢化社会を考える、企業の諸形態、中小企業の定義、ベンチャー企業の概念、日本経済の担い手としての中小企業の重要性など 教科書とレジュメ資料
第2回 10／7	テーマ(何を学ぶか)： 日本経済、産業における中小企業の位置づけ 内　容:中小企業の定義と大企業(上場企業の定義)、ベンチャー企業とは、日本経済の担い手としての中小企業の課題など 教科書とレジュメ資料
第3回 10／7	テーマ(何を学ぶか)： 日本の経済発展と中小企業 内　容:戦後日本の中小企業発展の軌跡 (戦後復興期、高度成長期、減速経済期、長期経済停滞期など) 教科書とレジュメ資料
第4回 10／14	テーマ(何を学ぶか)： 地域社会と中小企業 1（主に製造業の産業集積) 内　容:もの作りと中小企業（社会的分業構造、中小工業をめぐる議論、中小製造業の経営特質など) 教科書とレジュメ資料
第5回 10／28	テーマ(何を学ぶか)： 地域社会と中小企業 2（中小企業の下請取引形態) 内　容: 下請中小企業(日本的下請けシステム、中小企業の「脱下請化」の実態、中小企業の技術と研究開発など 教科書とレジュメ資料
第6回 10／28	テーマ(何を学ぶか)： 地域社会と中小企業 3（商店街と中小小売業等) 内　容:中小商業と流通、中小商業の存在意義、中小商業の構造的特質、商店街の現状と商人など 教科書とレジュメ資料

第7回 11／11	テーマ(何を学ぶか)： ファミリービジネス 内　容:ファミリービジネスの概念、日本の企業形態と同族企業(サントリーなど)、長寿企業、 エノキアン協会など 教科書とレジュメ資料
第8回 11／18	テーマ(何を学ぶか)： 中小企業の事業承継と後継者育成 内　容:中小企業の事業承継を取り巻く状況、中小企業の事業承継の課題、後継者育成など 教科書とレジュメ資料
第9回 11／18	テーマ(何を学ぶか)： 中小企業の財務と金融 内　容:、国内企業と青森県企業の業況判断、中小企業の経営指標、中小企業金融と資金調達、 金融機関の中小企業を見る目など 教科書とレジュメ資料
第10回 12／2	テーマ(何を学ぶか)： 創業・起業とベンチャー企業 内　容:創業・起業のしかた、会社の設立とビジネスプラン作成、会社の株式上場(大企業への道)、 ベンチャー企業など 教科書とレジュメ資料
第11回 12／16	テーマ(何を学ぶか)： 中小企業の情報化、ネットワーク化、グローバル化 内　容:中小企業の情報化とIT利用、中小企業のネットワーク化(異業種交流、新たな連携の形) 中小企業のグローバル化と海外展開事例など 教科書とレジュメ資料
第12回 1／6	テーマ(何を学ぶか)： 最近のトピックス　1(話題の中小企業事例など) 内　容:地域経済を支える中小製造業の事例(伊那食品工業、日本理化学工業)など 教科書とレジュメ資料
第13回 1／6	テーマ(何を学ぶか)： 最近のトピックス　2(話題の中小企業事例など) 内　容:中小商業・サービス業、ベンチャー企業の事例(楽天、杉山フルーツ)など 教科書とレジュメ資料
第14回 1／20	テーマ(何を学ぶか):国の中小企業政策、中小企業の働き方改革 内　容:国の中小企業政策、中小企業金融の特徴(一部でゲストスピーカーを予定)、 会社設立のしかたなど 教科書とレジュメ資料
第15回 1／27	テーマ(何を学ぶか):中小企業論のまとめ 内　容:これまでの授業の中から、「いい会社とは」・・・業績がいい企業とは、長寿企業とは、どんな企業なのか、中小企業や大企業の事例で考える。 教科書とレジュメ資料
試　験	筆記試験の実施

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
現代仕事論	2 単位	専門科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
赤坂道俊	**時間:** 講義終了後、昼休み **場所:** 講師控え室	講義

〔科目の概要〕

仕事（労働）をすることは人間の基本的な営みである。だが、そのあり方は、経済・社会システムの変化と、それに伴う企業環境や労働環境の変化と共に変容してきた。日本の労働環境は戦前と戦後で大きく変わったが、戦後においても、高度経済成長の終焉以降、労使関係や国の政策の変化（福祉国家の修正、市場原理主義の台頭、規制緩和の拡大等）によって労働環境は変容し、1990 年のバブル経済の崩壊後にそれはさらに大きく変化した。

今日では、ITC 技術革新や交通革新が企業活動のグローバル化を加速させたが、これと、新興国の経済発展は企業間競争を激化させ、企業はそれまでの雇用戦略を変更した。こうして、国による労働分野の規制改革にも後押しされて、雇用は多様化した。今日では、戦後労働改革と高度成長期に形成された日本の雇用慣行は大きく変容し、非正規雇用の増大とそれに伴う新たな雇用格差が生まれ、戦前日本企業にあった身分制も復活し、格差社会が拡がりつつある。近年、人々の働き方、企業の「働かせ方」には大きな変化が生じている。

本講義では戦後日本の雇用慣行の形成とその変容、1970 年代以降の労働分野の規制緩和と雇用の多様化、非正規雇用の増加とその問題点、労働者派遣業の解禁とその問題点について講義し、他方で、正規社員の絞り込みとホワイトカラーの労働環境の変化等について講義し、現代日本における仕事（労働）のあり方について考えていく。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

1. 雇用、労働のあり方は現代社会の中心的問題であり、経営学、経済学における中心的テーマの一つでもある。
2. 現代社会は企業社会でもある。労働・雇用問題を学ぶことは現代社会の核心を認識することにつながる。
3. 多くの学生は卒業後、企業で働く。企業で働き、社会人になる学生諸君が自らの立場と「働くことの意味」を認識することは重要である。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

1. 企業社会における労働のあり方と働くことの意味を知る。（最終目標）
2. 日本の雇用慣行の変容と労働者の状況の変化を知る。
3. 現代日本の雇用の多様化＝非正規労働の増加と課題について学び、また、女性労働の社会的課題について学ぶ。
4. ホワイトカラー労働者の状況と「過労死」問題について学び、あるべき働き方（働き方改革）について考える。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

1. 専門的な事項、用語について丁寧な説明を心がける。
2. 講義の重要ポイントについて理解されたかどうかその都度、確認する。
3. レポート課題、小テストを実施し、学生諸君の自主学習を促す。

〔教科書〕

講義プリントを配布する。

〔指定図書〕

講義の際に紹介する。

〔参考書〕①野村村正美『終身雇用』岩波書店、1994。②森岡孝二『貧困化するホワイトカラー』ちくま新書、2009 年。③森岡孝二『雇用身分社会』岩波新書、2015 年。④熊沢誠『 能力主義と企業社会』、1997 年。⑤森岡孝二『働き過ぎの時代』岩波新書、2005 年。⑥ロナルド・ドーア『誰のための会社にするか』2006 年、岩波新書。⑦戸塚他編『現代日本の労働問題』ミネルヴァ書房、1993 年。⑧濱口桂一郎『ジョブ型雇用社会とは何か』岩波新書、2012年。

〔前提科目〕

経営学、経済学。

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

期末テストの成績と課題レポート、小テストの成績で評価する。

〔評価の基準及びスケール〕

期末テストの成績(80%)と課題レポート、小テストの成績(20%)で評価する。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

労働社会を取り巻く「現実」や「現象」の本質を明らかにするように講義したい。
学生諸君には物事を深く考える習慣を身につけて欲しい。新聞やTVのニュースを見る習慣を身につけ、経済、企業経営、雇用、労働者の現状に関心を持って欲しい。

〔実務経歴〕

なし

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか): 講義ガイダンスと日本的雇用慣行とその変容 内 容: 講義のガイダンス(講義の目的、概要、評価などの説明)。 社会の発展と労働観の変化。日本的雇用慣行とその変容。 教科書・指定図書:上記、参考文献を参照。
第2回	テーマ(何を学ぶか):日本的経営と三種の神器 内 容:終身雇用、年功賃金、企業別組合。終身雇用の再定義。 教科書・指定図書:上記、①、⑥の参考文献の他、佐藤光『入門日本の経済改革』PHP新書、1997年も参照。
第3回	テーマ(何を学ぶか):戦前日本の労働者の状態と戦後「労働改革」 内 容:戦前(1945年以前)の労働者の状態。「戦後改革」と労働三法の制定。高度経済成長と終身雇用。 教科書・指定図書:上記、参考文献の他、戦前については中村正則『労働者と農民』小学館、1990年も参照。
第4回	テーマ(何を学ぶか):戦後日本の労働者の状態:大企業の雇用慣行と中小企業の雇用慣行 内 容:大企業と中小企業の雇用慣行。下請制度と企業規模別賃金格差。 教科書・指定図書:上記、参考文献、特に③、⑦を参照。
第5回	テーマ(何を学ぶか):1973年石油危機と低成長ー雇用の流動化:非正規労働の増加とパート労働の状況 内 容:低成長と雇用流動化=非正規労働の増加。経団連の雇用政策。雇用形態の多様化と雇用の不安定化。パートはどのように増えてきたか=パート労働の状況。 教科書・指定図書:上記、参考文献を参照。特に①、③を参照。また、中野麻美『労働ダンピング』岩波新書、2006年も参照。
第6回	テーマ(何を学ぶか):低成長と非正規労働の増加とパート労働、女性の労働の状況 内 容:正規・非正規(パートタイム)の賃金格差。日本的性別分業とM字型カーブ。性別賃金格差と課題。

	教科書・指定図書:上記、参考文献を参照。特に②、③を参照。
第7回	テーマ(何を学ぶか):雇用の規制緩和と派遣労働（その1） 内　容:戦前の「派遣業」＝口入れ屋、手配師と女工。今日の派遣会社と派遣労働者。戦後労働改革と労働者供給事業の禁止。労働分野の規制緩和−労働者供給事業の解禁。 教科書・指定図書:上記、参考文献を参照。特に③を参照。また、戦前については、前掲、中村『労働者と農民』と犬丸義一校訂『職工事情』(上)岩波文庫、1998年が有益。
第8回	テーマ(何を学ぶか):雇用の規制緩和と派遣労働（その２） 内　容:1980年代半ば以降の雇用の規制緩和と派遣労働　−派遣労働解禁の背景成不況とリーマンショック下の派遣切り、派遣労働の問題点の表面化。 教科書・指定図書:上記、参考文献を参照。特に③、⑦を参照。
第9回	テーマ(何を学ぶか):雇用の規制緩和と派遣労働（その3） 内　容:雇用関係からみた派遣という働き方。労働者派遣制度の本質的特徴。派遣労働：「登録型」と「常用型」。非正規労働者・派遣労働者の「2018年問題」。 教科書・指定図書:上記、参考文献を参照。特に③を参照。
第10回	テーマ(何を学ぶか):低成長と日本的雇用慣行の変容−正社員の絞り込みと長時間労働（その1） 内　容:低成長と労働の規制緩和（雇用流動化）＝非正規労働の増加と正社員の長時間労働。労働時間の制限と短縮の歴史。日本の労働時間規制の歴史。 教科書・指定図書:上記、参考文献を参照。特に⑤を参照。
第11回	テーマ(何を学ぶか):低成長と日本的雇用慣行の変容−正社員の絞り込みと長時間労働（その２） 内　容:市場原理主義と規制緩和論。経団連の雇用政策。 教科書・指定図書:上記、参考文献を参照。特に⑤、⑦を参照。
第12回	テーマ(何を学ぶか):労働時間規制と規制緩和 内　容:現行の労働時間規制と現状。労働時間の規制緩和の歴史。変形労働時間制、裁量労働時間制 教科書・指定図書:上記、参考文献を参照。特に⑤、⑦を参照。また、八代尚宏『雇用改革の時代』中公新書、1999年も参照。
第13回	テーマ(何を学ぶか):現代日本のホワイトカラーの状態 内　容:ホワイトカラーは増えているか。成果主義の導入。過労死と労災認定。 教科書・指定図書:上記、参考文献を参照。特に②、⑦を参照。また、熊沢誠『能力主義と企業社会』1997年、同『働き者たち泣き笑顔−現代日本の労働・教育経済社会システム』有斐閣、1993年も参照。
第14回	テーマ(何を学ぶか):ホワイトカラーと過労死問題。働き方改革について 内　容:過労死と過労自殺。過労自殺とホワイトカラー。教師の労働環境の悪化とうつ病。医療現場の長時間労働。 教科書・指定図書:上記、参考文献を参照。特に②を参照。また、川人博『過労自殺』岩波新書、1998年も参照。
第15回	テーマ(何を学ぶか):現代日本の労働、雇用の課題−講義のまとめ 内　容：正規労働者の課題。非正規労働の増大と最低賃金制度の役割。 コロナ渦の労働＝雇用へのインパクト。テレワークと「JOB型労働」の検討と評価。 教科書・指定図書：上記、参考文献、特に⑧濱口桂一郎『ジョブ型雇用社会とは何か』2021年を参照。また、佐藤彰男『テレワーク「未来型労働の現実」』岩波新書、2008年も参照。
試　験	試験期間(最終講義日)に筆記試験を実施する。持ち込み不可。試験時間:60分。

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
財務管理論	4 単位	展開科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
Takahiko Ochiai 落合　孝彦	**時間:** 第１回の授業でお知らせします **場所**: 教室／非常勤講師控室など	講義

〔科目の概要〕

本科目は経営学科の展開科目として位置づけられていますが、その授業内容は大きく分けて３つのパートから構成されています。第１部（第１回～第５回）は、イントロダクション及びその後の授業内容の基礎となる財務分析の内容が中心となります。

この内容を受けて、第２部（第６回～第23回）では「投資価値」の評価、さらには「調達」「分配」の基礎的な考えを抑えつつ、金融経済的な資本市場理論やエージェンシー理論を学びます。この第２部が本科目の中核的な内容となります。

第３部（第24回以降）は、第２部の内容を受けつつも、財務論に関連する現代的なトピックを扱います。学習内容を現実世界のトピックと関連付けることにより、学んだ知識を現実世界にリンクさせて考える姿勢を身に付けてもらうことが、本科目の最終的な狙いとなります。

なお本科目の内容は「ビジネス会計検定試験」や「証券アナリスト」の試験内容とも関わりがあります。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

本科目は、金融市場（とりわけ株式市場）との関わりを踏まえ、上場会社の経営において必須となる財務の知識を扱う「経営学科の展開科目」と位置づけられています。ただし、「株主の富最大化」を企業目的の上位に置いて学習内容が体系化されていますので、この点については経済学（企業金融論）の影響を受けています。くわえて、企業価値計算のためには、利益やキャッシュフローといった会計データについての理解も不可欠となりますので、会計学との関わりも比較的強固である点が本科目の特徴となります。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

【中間目標】

- ●ROE を中心とする収益性分析の体系を理解する。
- ●価値計算の基礎となる考え方を理解する。
- ●社債投資の基礎、株式投資と財務指標の関連を理解する。
- ●現代ポートフォリオ理論の基礎を理解する。

【最終目標】

- ●資本構成と企業価値の関連について理解する。
- ●配当の支払いと企業価値の関連について理解する。
- ●コーポレート・ガバナンスの議論が活発化している背景について理解する
- ●ESG 投資が活発化している背景について理解する
- ●フィンテックに関する基礎知識を理解する。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

・受講生からの指摘の中には、好意的な意見があると同時に辛口な意見もあります。具体的に言えば「早口で分かりにくい」、「板書が見づらい」等がそれに該当します。2019 年度秋学期以降、教科書を使用しレジュメも一新しました。機材を効果的に用いて「分かりやすい」「視覚に訴える」授業を行うよう、可能な範囲での改善を順次進めます。

〔教科書〕

境睦／落合孝彦【編著】(2019)『グラフィック経営財務』新世社。

〔指定図書〕

指定しません。

〔参考書〕

高橋文郎(2001)『実践コーポレート・ファイナンス』ダイヤモンド社。

〔前提科目〕
「会計学基礎論」、「財務分析Ⅰ」

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)
① 確認小テスト①(評価ウエイト:40%)
② レポート (評価ウエイト:20%)
③ 確認小テスト②(評価ウエイト:40%)
※得点ベースでの評価については次の[評価の基準及びスケール]で確認してください。

〔評価の基準及びスケール〕
評価 A・・・80 点以上
評価 B・・・80 点未満～70 点以上
評価 C・・・70 点未満～60 点以上
評価 D・・・60 点未満～50 点以上
評価 F・・・50 点未満

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕
1. 次の 2 点に関わる行為は厳に慎んでください。注意をしても聞き入れられない場合、その学生の本科目の成績を"F"とすることもありえます。
①授業中の食事
②授業進行の妨害
2. 前回授業の復習や新規トピックの紹介が影響し、授業進行がシラバス通りにならないこともありえます。

〔実務経歴〕

該当なし

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか):経営財務の意味と役割 内　容:経営機能、財務機能、経営者の財務とは？ 教科書:第1章
第2回	テーマ(何を学ぶか):収益性分析① 内　容:ROE に基づく収益性分析の体系 教科書:第2章
第3回	テーマ(何を学ぶか):収益性分析② 内　容:ROA 分解による収益性分析の深化 教科書:第2章
第4回	テーマ(何を学ぶか):キャッシュフロー(CF)計算書① 内　容:CF 計算書導入の目的と背景／CF 計算書の内容／CF 計算書の作成 教科書:第3章
第5回	テーマ(何を学ぶか):キャッシュフロー(CF)計算書② 内　容:CF 計算書の読み方／CF を用いた財務指標 教科書:第3章
第6回	テーマ(何を学ぶか):投資の評価① 内　容:単利と複利／将来価値と現在価値／正味現在価値と内部収益率 教科書:第4章

第7回	テーマ(何を学ぶか):投資の評価② 内　容:回収期間法／会計的収益率法／収益性指数法／投資評価の実態 教科書:第4章
第8回	テーマ(何を学ぶか):債券の評価① 内　容:債券の定義と種類／債券の理論価格 教科書:第5章
第9回	テーマ(何を学ぶか):債券の評価 内　容:債券の利回り／複利最終利回り／債券投資のリスク 教科書:第5章
第10回	テーマ(何を学ぶか):企業価値の評価① 内　容:配当割引モデル(ゼロ成長モデルと一定成長モデル)／配当成長率とROEの関係 教科書:第6章
第11回	テーマ(何を学ぶか):企業価値の評価② 内　容:株式投資指標(PER／PBR／DY／PSR)の説明 教科書:第6章
第12回	テーマ(何を学ぶか):企業価値の評価③ 内　容:FCF／FCF割引モデル／ターミナル・バリュー／EBITDA 教科書:第6章
第13回	テーマ(何を学ぶか):資本資産評価モデルと資本コスト① 内　容:個別証券のリスクとリターン推計／投資家のリスクに対する態度 教科書:第7章
第14回	テーマ(何を学ぶか):資本資産評価モデルと資本コスト② 内　容:分散投資によるリスク低減効果／共分散／相関係数／個別リスク／市場リスク 教科書:第7章
第15回	テーマ(何を学ぶか): 確認小テスト① 内　容: 第1回～第14回(詳細は授業で説明します。) 教科書: 第1章～第7章
第16回	テーマ(何を学ぶか):資本資産評価モデルと資本コスト③ 内　容:証券特性線／ベータ／無リスク資産の利子率／リスク・プレミアム／証券市場線 教科書:第7章
第17回	テーマ(何を学ぶか):最適資本構成① 内　容:我が国上場企業に見る資本構成の課題／財務レバレッジ問題 教科書:第8章
第18回	テーマ(何を学ぶか):最適資本構成② 内　容:資本構成の伝統理論／資本構成のMM理論(完全資本市場) 教科書:第8章
第19回	テーマ(何を学ぶか):最適資本構成③ 内　容:資本構成のMM理論(不完全な資本市場)／倒産リスクと資本構成／複数の最適資本構成 教科書:第8章

第20回	テーマ(何を学ぶか):配当政策と自社株買い① 内　容:配当政策の歴史／配当政策の理論 教科書:第9章
第21回	テーマ(何を学ぶか):配当政策と自社株買い② 内　容:配当政策／自社株買いの現状について 教科書:第9章
第22回	テーマ(何を学ぶか): エージェンシー理論① 内　容:所有と経営の分離／エージェンシー理論の諸仮定／情報の非対称性 教科書:第10章
第23回	テーマ(何を学ぶか): エージェンシー理論② 内　容: エージェンシー理論と資本構成／エージェンシー理論と配当政策 教科書:第10章
第24回	テーマ(何を学ぶか): コーポレート・ガバナンスと経営者報酬① 内　容: コーポレート・ガバナンスの定義／我が国におけるコーポレート・ガバナンス改革の歩み 教科書:第11章
第25回	テーマ(何を学ぶか): コーポレート・ガバナンスと経営者報酬② 内　容: コーポレート・ガバナンス及びガバナンス規制の枠組み、経営者報酬 教科書:第11章
第26回	テーマ(何を学ぶか): スチュワードシップ・コードとESG 投資① 内　容: ESG 投資とは／スチュワードシップ・コードの我が国への導入 教科書:第12章
第27回	テーマ(何を学ぶか): スチュワードシップ・コードとESG 投資② 内　容:機関投資家のエンゲージメント／ESG 投資の状況 教科書:第12章
第28回	テーマ(何を学ぶか): デリバティブ① 内　容: デリバティブの意味と役割／先渡 教科書:第13章
第29回	テーマ(何を学ぶか): デリバティブ② 内　容:コールオプション／プットオプション 教科書:第13章
第30回	テーマ(何を学ぶか):確認小テスト② 内　容:第16回～第29回(詳細は授業で説明します。) 教科書:第7章～第13章
試　験	期末試験の日程は掲示物で確認してください。試験範囲は授業の中で説明します。

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
財務分析Ⅱ	2 単位	

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
田中　哲	**時間:** **場所:**	対面授業

〔科目の概要〕

「財務分析Ⅱ」の講義は、「財務分析Ⅰ」を基礎として、「収益性」「安全性」などの各指標を用いた分析技法をより深める形で展開される。「財務分析Ⅰ」では主として、「個別財務諸表」を分析対象としたが、「財務分析Ⅱ」では、「連結財務諸表」分析も視野に入れて講義を行う。

「連結財務諸表とは、複数の企業で構成される企業集団を、1 つの企業であるかのようにみなして作成する財務諸表」（大阪商工会議所『ビジネス会計検定試験　公式テキスト【第 5 版】』中央経済社、2020 年、21 ページ）である。企業集団を構成する企業の間では、一定の「支配従属関係」が存在する。ここで、「支配従属関係」とは、ある企業＜A 社＞が、他の企業＜B 社＞の意思決定機関を実質的に支配しているとき、A 社を親会社、B 社を子会社といい、この 2 社の関係をいう（（参考文献:滝沢ななみ『スッキリわかる日商簿記1級　企業結合・連結会計編』）。

講義は、教科書に沿って次のように展開する。はじめに、分析対象である連結財務諸表について、その構造と構成について学修する。財務分析は、「財務諸表分析」でもあることを心にとどめておいていただきたい。次に、分析技法としての百分比財務諸表と時系列分析について学ぶ。受講者は自ら分析を行うことを念頭に置いていただきたい。

さらに、「財務分析Ⅰ」でも学んだ事項である、「安全性」及び「収益性」について学修する。財務（諸表）分析の中心課題であるので、十分に理解を深めてほしい。「キャッシュフロー分析」がそれに続く課題である。引き続き、「連単倍率」、「セグメント情報の分析」について学修する。

さらに、「損益分岐点分析」について学修する。「損益分岐点」とは、「収益と費用の額が一致する売上高（あるいは操業度）」をいい（大阪商工会議所『前掲書』、267 ページ）、企業の採算性を探る手法を「損益分岐点分析」という。最後に、株主の視点からの分析である、「1 株当たり指標」と労働生産性を図る重要指標である「1 人当たり指標」を学ぶ。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

「財務分析」の主体は、大きく分けて 2 種類ある。企業外部者と企業内部者である。

「内部者」である「経営者」は、経営政策の策定のために、「従業員」は給与等の支払能力に関心を有する。

「外部者」である金融機関は、信用分析（財務分析の起源はこのことにあるといわれている）を行い、支払能力分析や流動性・安全性の判断を行う。現在と将来の株主である「投資者」にとっては、みずからの投資がどれくらいのリターンをもたらすのかについて関心を有する。そのため、収益力、配当率、株価、投資純資産額、株価収益率などを分析する。中央政府は景気動向の把握や産業政策の立案に、課税当局は税負担能力の把握のため、財務内容に関心を有する。

経済や経営について学んでいる「大学生」にとっては、将来の就職先である業界分析のため、その代表的企業を分析することにより、定量的な資料を得ることができ、「就職活動」への役立ちが期待される。また、「有価証券報告書」を読み解くことにより、定性的資料を得ることも可能となる。

他の科目との関連では、財務分析の内容が、「財務会計」の基礎知識を必要とし、採算性分析については「管理会計」の知見を必要とする。総じて「会計学」の総合的知見が要求される。また、企業経営全般を分析対象とするため、「経営学」とも深い関連を有している。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

＜中間目標＞

主要財務諸表である、貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書についての理解を基礎として、収益性・安全性などの諸指標についての分析を行うことができる。

＜最終目標＞

「ビジネス会計検定 2 級」レベル程度の「財務分析に関する知識・分析手法等」を習得する。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

○講義開始時に、本講義の概要及び成績評価につき、説明をする。

○講義中に配布する「財務分析Ⅱノート」を改善する。

〔教科書〕

大阪商工会議所編『ビジネス会計検定試験公式テキスト 2 級[第 5 版]』中央経済社

〔指定図書〕

指定しない

〔参考書〕

指定しない

〔前提科目〕
「会計学基礎論」「財務分析Ⅰ」

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)
期末試験の得点に基づいて成績評価を行う。

〔評価の基準及びスケール〕

評価	試験得点
A	80 点以上
B	80 点未満～70 点以上
C	70 点未満～60 点以上
D	60 点未満～50 点以上
F	50 点未満

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕
○講義はシラバスに沿って行う予定であるが、諸事情により、シラバス通り進行しない場合もあることを了承願いたい。
○講義では、第１回目を除き、毎回前回の復習を行う。
○講義中の私語は「厳禁」であり、それに類する講義進行を妨げる行為も同様である。

〔実務経歴〕
該当なし

授業スケジュール

第１回	テーマ(何を学ぶか)： 連結財務諸表(1) 内　容:連結財務諸表とは何か、連結の範囲、連結財務諸表の作成方法 教科書:第２章第1･2･3･4節、配布資料
第２回	テーマ(何を学ぶか):連結財務諸表(2) 内　容:連結貸借対照表 教科書:第３章第1･2･3･4節、配布資料
第３回	テーマ(何を学ぶか):連結財務諸表(3) 内　容:連結損益計算書(1) 教科書:第４章第1･2節、配布資料
第４回	テーマ(何を学ぶか):連結財務諸表(4) 内　容:連結損益計算書(2) 教科書:第４章第3･4･5･6･7節、配布資料
第５回	テーマ(何を学ぶか):百分比財務諸表と時系列分析 内　容:百分比財務諸表と時系列分析 教科書:第９章第２節、配布資料
第６回	テーマ(何を学ぶか):安全性分析(1) 内　容:安全性分析(1)－安全性分析とは何か、短期的支払能力の分析 教科書:第９章第３節、配布資料
第７回	テーマ(何を学ぶか):安全性分析(2) 内　容:安全性分析(2)－長期の安全性分析 教科書:第９章第３節、配布資料
第８回	テーマ(何を学ぶか):収益性分析(1) 内　容:収益性分析(1)－収益性分析とは何か、資本利益率、資本利益率の分解(1)…売上高利益率の分析 教科書:第９章第４節、配布資料
第９回	テーマ(何を学ぶか):収益性分析(2) 内　容:収益性分析(2)－資本利益率の分解(2)…回転率の分析 教科書: 第９章第４節、配布資料
第10回	テーマ(何を学ぶか)： キャッシュフローの分析(1) 内　容:キャッシュフローの分析(1)－キャッシュフローの分析とは、フリーキャッシュフロー、営業キャッシュフローマージン 教科書: 第９章第５節、配布資料

第11回	テーマ(何を学ぶか): キャッシュフローの分析(2) 内　容:キャッシュフローの分析(2)－自己資本営業キャッシュフロー比率、営業キャッシュフロー対流動負債比率、設備投資対キャッシュフロー比率 教科書: 第9章第5節、配布資料
第12回	テーマ(何を学ぶか): セグメント情報の分析・連単倍率・規模倍率 内　容:セグメント情報の分析・連単倍率・規模倍率 教科書:第9章第6節、第7節、配布資料
第13回	テーマ(何を学ぶか):損益分岐点分析 内　容:損益分岐点分析－損益分岐点とは何か、変動費と固定費、損益分岐点指標など 教科書: 第9章第8節、配布資料
第14回	テーマ(何を学ぶか): 1株当たり・1人当たり分析 内　容: 1株当たり分析－1株当たり当期純利益、株価収益率、配当性向など 教科書:第9章第9節、第10節、配布資料
第15回	テーマ(何を学ぶか): 連結財務諸表分析の実践 内　容: 総合問題 教科書: 第9章全体
試　験	筆記試験の実施

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
計量経済学	4単位	専門・基幹科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
高 英模	**時間:** **場所:** 研究室(527)	講義および実習

〔科目の概要〕

観測されるデータに基づき、統計的な手法を用いて経済理論仮説を検証する、あるいはデータに含まれている事 実を取り出すのが計量経済学である。つまり、ミクロ経済学、マクロ経済学などの理論から導かれる様々な仮説を 現実のデータを使って検証し、実際の経済に応用する学問分野であると言うことができる。コンピュータが発達した現在では、難しい数学や統計手法をあまり意識せずに簡単に計算することが可能になっており、経済学の基礎分野として政策決定の場においても活用されている。また、その手法は、経済学にとどまらず、広く経営学や社会学などにも十分に活用できるものである。

この授業では、計量経済学の入門編を中心に取り扱い、かつ実践的な計量経済学を学ぶことを狙いとしたい。こ のため、Excel による実習を数回おこなう予定である。

ただし、統計ソフトを使って計算結果を出すことが目的ではない。計算式を記憶して計算することを目的とする のでもない。ここで扱うのは、人間の経済行動を記述しようと努めてきた経済理論であり、人間の経済行動の結果 をあらわすデータである。単に機械的にデータを操作し計算するのでは、誤った解釈をしかねず、無意味な結果を 導くことにもなりかねない。我々人間の問題意識と、経済学的なものの見方が必要な分野である。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

計量経済学では、これまで学んできたミクロ経済学やマクロ経済学などの理論を基に、モデルを作り、データを 使って分析し、その整合性を検証する。つまり、計量経済学を学ぶことは、経済理論と現実の関係を考え、理論を 政策などに応用させる力を養うことになる。

また、統計学で学んだ各種の統計量や考え方は、労働経済学、ファイナンスなどでも頻繁に使われるものである。計量経済学はこれらを基本とするので、結果として反復練習の機会を提供することにもなる。数理的・論理的・統計的なものの見方を身につけることにつながるものだといえるだろう。

なお、この授業の次のステップとして、3年次春学期開講の「実証経済分析」が用意されている。是非、受講し て欲しい。

〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕

基本的な統計量、推定および検定の概念についてしっかり理解すること。 統計ソフト等を使って計算され結果を読み取ることができるようになること。

［最終目標］ 問題意識に基づいて仮説を立て、どのデータを使い、どのように実証すれば良いのか判断する力を身につける。 経済理論と計量経済学の関係について理解を深める。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

〔教科書〕

田中隆一 『計量経済学の第一歩 -実証分析のススメ』 有斐閣, 2015 年

〔指定図書〕

唐渡広志 『４４の例題から学ぶ計量経済学』 オーム社, 2013 年

〔参考書〕

縄田和満 『Excel による回帰分析入門』 朝倉書店

白砂堤津耶 『例題で学ぶ 初歩からの計量経済学』 日本評論社

加納悟・浅子和美・竹内明香 『入門 経済のための統計学』 日本評論社

〔前提科目〕
統計学，経済統計，ミクロ経済学，マクロ経済学，情報リテラシーⅠ

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)
① 確認のための小テスト （30%程度） ②パソコン（Excel 等）を使った計量分析の小レポート （20%程度）
③期末レポート（50%程度） 提出前に相談期間をもうけて、理解と完成度を高める指導をする

〔評価の基準及びスケール〕
上記の合計点の 80%以上を A，70%以上 80%未満を B，60%以上 70%未満を C，50%以上 60%未満を D，50%未 満を F とする。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕
計量経済学は経済学を含め、データ分析を行う様々な分野で必要とされている学問です。

〔実務経歴〕
ソフトウェア会社

授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか):ガイダンス，統計学の復習 内 容： ガイダンス（計量経済学とは何か） / 復習・統計学（1：記述統計-1） 教科書・指定図書 第1章および第2章
第2回	テーマ(何を学ぶか): 内 容:復習・統計学（2：記述統計 - 2，確率論-1） 教科書・指定図書 第2章および第3章
第3回	テーマ(何を学ぶか): 内 容:復習・統計学（3：確率論－2） 教科書・指定図書 第3章
第4回	テーマ(何を学ぶか): 内 容:復習・統計学（4：確率論－3） 教科書・指定図書 第4章
第5回	テーマ(何を学ぶか): 内 容:復習・統計学（5：統計的推論－1） 教科書・指定図書 第4章
第6回	テーマ(何を学ぶか): 内 容:復習・統計学（6：統計的推論－2） 教科書・指定図書 第4章
第7回	テーマ(何を学ぶか): 内 容:復習・統計学（7：統計的推論－3） 教科書・指定図書 第4章

第8回	テーマ(何を学ぶか): 内　容:習・統計学（7：統計的推論－3） 教科書・指定図書 第4章
第9回	テーマ(何を学ぶか): 内　容:単回帰モデルと最小2乗法（1） 教科書・指定図書 第5 章
第10回	テーマ(何を学ぶか): 内　容:単回帰モデルと最小2乗法 (2) 教科書・指定図書 第5 章
第11回	テーマ(何を学ぶか): 内　容:単回帰モデルと最小2乗法 (3) 教科書・指定図書 第5 章
第12回	テーマ(何を学ぶか): 内　容:第5 章までの復習とまとめ 確認のための小テスト 教科書・指定図書 第5 章
第13回	テーマ(何を学ぶか): 内　容:Excel を使った実習 教科書・指定図書
第14回	テーマ(何を学ぶか):重回帰分析 内　容:実習の解説 重回帰分析（1） 教科書・指定図書 第6章
第15回	テーマ(何を学ぶか): 内　容:： Excel を使った実習 教科書・指定図書 第6章
第16回	テーマ(何を学ぶか): 内　容:実習の解説 重回帰分析 (2) 教科書・指定図書 第6章
第17回	テーマ(何を学ぶか): 内　容:回帰分析の検定（1）－最小2乗推定量の分散, t 検定 教科書・指定図書 第6章
第18回	テーマ(何を学ぶか): 内　容:Excel を使った実習 教科書・指定図書 第6章
第19回	テーマ(何を学ぶか): 内　容:回帰分析の検定（2）－複合仮説検定 教科書・指定図書 第6章
第20回	テーマ(何を学ぶか): 内　容:実習内容の確認と、まとめ 教科書・指定図書

第21回	テーマ(何を学ぶか): 内　容:重回帰分析の応用（1）－変数の単位、２乗項 教科書・指定図書 第7章
第22回	テーマ(何を学ぶか): 内　容:実習の確認と解釈 重回帰分析の応用（2）－ダミー変数 教科書・指定図書 第7章
第23回	テーマ(何を学ぶか): 内　容:重回帰分析の応用（3）－チョウ検定 教科書・指定図書 第7章
第24回	テーマ(何を学ぶか): 内　容:Excel を使った実習と解釈 教科書・指定図書
第25回	テーマ(何を学ぶか): 内　容:Excel を使った小レポート データの入力と推定 教科書・指定図書
第26回	テーマ(何を学ぶか): 内　容:Excel を使った小レポート 検定と解釈 教科書・指定図書
第27回	テーマ(何を学ぶか): 内　容:期末レポートの準備 問題意識の作成 教科書・指定図書
第28回	テーマ(何を学ぶか): 内　容:期末レポートの準備 データ収集 教科書・指定図書
第29回	テーマ(何を学ぶか): 内　容:期末レポートの作成 推定・検定と結果の確認 教科書・指定図書
第30回	テーマ(何を学ぶか): 内　容:期末レポートの作成 問題意識への回答 教科書・指定図書
試 験	指導をうけた上で提出される期末レポートを「期末試験」とします。

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
国際経済学	4 単位	基幹科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
河野秀孝	**時間:** 月曜から金曜（毎日午後5時から6時、その他はメールでアポを取る）。 **場所:** 508 研究室	講義

〔科目の概要〕

ボーダレス化が進む今日の社会では、国という枠組みを越え、様々なビヂネスの分野においても、国際経済に対する認識は必須のものと考えます。マスコミに取り上げられる国際経済問題として、例えば、各国は世界規模の自由貿易のために努力すべきか、それとも、地域的な貿易協定を推進すべきかどうかの問題や、各国政府は資本や労働の自由な国際移動に干渉すべきかどうか等の問題が新聞やニュースで取り上げられています。本講義では、まず、古典的リカードやヘクシャオリーン等の伝統的モデルを履修し、近年の目覚しい理論及び実証モデルの発展にも言及しながら、様々な国際経済問題を例として、実証的かつ規範的分析を進めていきます。政策面では関税や補助金等による貿易政策に焦点をあてます。最後に、金融的側面にも触れ、統一的・論理的分析ができるようになる事を目指します。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

国際経済学は、皆さんがこれまで履修した経済理論、特にマイクロ経済学とマクロ経済学の応用で、国際的経済現象を題材とした体系的論理的思考の訓練であると考えて頂きたい。また、本講義では、代表的モデルを思考の枠組みとして学習しながら、論理的思考を受身的に学ぶのではなく、少数の基本的概念から、少し進んだ分析的物語（モデル構築）を学生各自が自力で作成できるようになることを念頭に、授業を進めるつもりです。簡単な算数といえども、目的に応じた分析的物語作成の際、強力な力を発揮することを味わって頂きたい。さらに、一見すれば、正しいまともな議論と思われるものでも、必ずしも説得力が充分であるとは限らないことにも気づいて頂きたい。説明責任の重要性がますます認識される中、論理的思考力を高めることは、官民問わず、重要になって来ると考えます。講義を通じて、まずは、論理的思考の楽しさを味わって頂きたい。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

私たちが住んでいる今日の世界は相互依存関係にある国々によって構成され、国際経済に関する諸問題は、日々マスコミのニュースにもなっている。この事は、私たちの日常生活までも、海外から多大なる影響を受けていることを示している。本講義は、日々の私たちの生活への影響を、身近な事例として考えながら、皆さんが日本を取り巻く国際経済の諸問題を統一的に理解・分析できるようになることを目的とします。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

授業をこれまで以上に分かりやすくするために、以下の改善・工夫をします。

1. 具体的例を出来るだけ多くする。
2. 重要なところは反復をする。
3. 各授業のはじめに、前回の講義の要点に関して注意を喚起する。各自の理解度を認識してもらう。
4. 時間があれば、各モデルの講義の後、練習問題を通じて、モデルへの理解を深めてもらう。

〔教科書〕

なし（資料の配布予定）。

〔指定図書〕

なし。

〔参考書〕

J.R.マークセン・J.R.メルビン・W.H.ケンプファー・K.E.マスカス（1999）松村敦子訳　『国際貿易　理論と実証（上・下巻）』多賀出版

資料の配布。

〔前提科目〕

経済学基礎論、経営経済数学、ミクロ経済学、マクロ経済学。

〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等）

1回の定期試験（期末）により、成績の総合評価をする。

期末試験：　100%

合計：　100%

〔評価の基準及びスケール〕
評価の基準として、80%以上がA（毎年１割程度）、70%以上がB，60%以上がC，50%以上がD，50%未満をＦとする。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕
まずは、皆さんに論理的思考の楽しさを味わって頂きたい。出来るだけ身近な事例を挙げ、分かりやすく、また、興味を引くように授業の進め方を工夫するつもりです。
皆さんへの要望として、経済の諸問題に関心を持ち、少なくとも日本経済新聞の「経済教室」と「やさしい経済学」欄は、毎日読むようにし、授業には積極的に参加してください。難しい授業とも思いますが、頑張ってください。

〔実務経歴〕
製造業での実務経験を活かし、私たちの生活への海外からの影響を、身近な事例と考えながら、日本を取り巻く国際経済の諸問題を統一的に理解・分析できるようになることを目的とした授業です。

授業スケジュール

第１回	テーマ(何を学ぶか):国際貿易の展望と重要性 内　容:国際貿易の意義、今日のグルーバル経済化での経済関係。 教科書・指定図書
第２回	テーマ(何を学ぶか):供給と生産可能性 内　容:ミクロ経済学の供給サイドの復習。特に、生産可能性曲線の導出。 教科書・指定図書
第３回	テーマ(何を学ぶか):選考、需要、経済厚生 内　容:ミクロ経済学の供給サイドの需要サイドの復習。社会的無差別曲線とその妥当性。 教科書・指定図書
第４回	テーマ(何を学ぶか):閉鎖経済における一般均衡 内　容:基本的一般均衡モデルの復習。 教科書・指定図書
第５回	テーマ(何を学ぶか):開放経済における一般均衡 内　容:貿易が行われている一般均衡モデル構造とその特徴。 教科書・指定図書
第６回	テーマ(何を学ぶか):貿易利益Ⅰ 内　容:純粋交換と供給サイドを加えた交換の利益。 教科書・指定図書
第７回	テーマ(何を学ぶか):貿易利益Ⅱ 内　容:貿易利益とその定理 教科書・指定図書
第８回	テーマ(何を学ぶか):交換による利益 内　容:交換だけのメリット 教科書・指定図書
第９回	テーマ(何を学ぶか):特化による利益 内　容:交換だけでなく、特化からの二重のメリットがある。 教科書・指定図書

第10回	テーマ(何を学ぶか):交換と特化の利益 内　容:交換だけでなく、特化からの二重のメリットがある。 教科書・指定図書
第11回	テーマ(何を学ぶか):嗜好の違いによる貿易の分配 内　容:貿易は嗜好・選好の違いでも貿易は行われる。その違いがあればあるほど、貿易のメリットは大きい。 教科書・指定図書
第12回	テーマ(何を学ぶか):生産要素賦存の違いによる貿易の分配 内　容:一般均衡の枠組みで、各国の生産要素賦存の違いでも、貿易が行われる。 教科書・指定図書
第13回	テーマ(何を学ぶか):復習Ⅰ 内　容:学生への質問と簡単な理解度チェック。 教科書・指定図書
第14回	テーマ(何を学ぶか):復習Ⅱ 内　容:これまでの授業前半の復習。 教科書・指定図書
第15回	テーマ(何を学ぶか):国際貿易の原因 内　容:なぜ国際貿易は行われているのか。そのメリットは何か。 教科書・指定図書
第16回	テーマ(何を学ぶか):リカードモデル 内　容:供給サイドの各国の技術の相違によって、貿易のパターンを説明する。リカードの古典中の古典を講義。 教科書・指定図書
第17回	テーマ(何を学ぶか):リカードモデル 内　容:一般に言われている比較優位の原則とはどういうことか。なぜ、多くの人が比較優位と絶対優位の区別がついていないのか。 教科書・指定図書
第18回	テーマ(何を学ぶか):ヘクシャー・オリーンモデルⅠ 内　容:供給サイドの各国の相対的要素賦存比率の違いによって、貿易のパターンを説明する。 教科書・指定図書
第19回	テーマ(何を学ぶか):ヘクシャー・オリーンモデルⅡ 内　容:このモデルの貿易論の古典であり、その後の理論の発展の基礎となっている。 教科書・指定図書
第20回	テーマ(何を学ぶか):ヘクシャー・オリーンモデルⅢ 内　容:このモデルの応用。 教科書・指定図書
第21回	テーマ(何を学ぶか):ヘクシャー・オリーンモデルⅣ 内　容:このモデルの今日的・実証的有用性と、その後の発展。 教科書・指定図書

第22回	テーマ(何を学ぶか):特殊要素モデルⅠ 内　容:これまでの長期モデルに対しての短期モデル。 教科書・指定図書
第23回	テーマ(何を学ぶか):特殊要素モデルⅡ 内　容:短期モデルの応用。 教科書・指定図書
第24回	テーマ(何を学ぶか):貿易政策Ⅰ 内　容:税と補助金 教科書・指定図書
第25回	テーマ(何を学ぶか):貿易政策Ⅱ 内　容:関税、輸入補助金、非関税障壁 教科書・指定図書
第26回	テーマ(何を学ぶか):貿易と不完全競争 内　容:国内での不完全競争下での貿易のメリットは何か。 教科書・指定図書
第27回	テーマ(何を学ぶか):規模に関する収穫逓減 内　容:これまでの様に、規模に関して収穫一定ではなく、収穫逓減または収穫逓増下での貿易の効果はどの様なものであるか。 教科書・指定図書
第28回	テーマ(何を学ぶか):嗜好・技術進歩と貿易 内　容:一国の経済厚生だけでなく、所得分配に対して、嗜好・技術進歩と貿易はどの様な影響を与えるか。 教科書・指定図書
第29回	テーマ(何を学ぶか):比較優位の実証研究 内　容:最近の実証研究からの貿易のメリットはどれくらいの金額として、試算されているか。例えば、日本の自由化のメリットやデミリットは金額的にはどれくらいになるだろうか。農業部門への損害・利益は、金額的試算によればどれくらいになるのか。日本の試算だけでなく、海外の試算も紹介する。 教科書・指定図書
第30回	テーマ(何を学ぶか):期末試験前の復習 内　容: 教科書・指定図書
試 験	期末試験

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
公共経済学	4単位	

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
青山　直人 Aoyama, Naoto	**時間:** オフィス・アワーは授業の開始時に提示 **場所:** 研究室（530号室）	講義

〔科目の概要〕

公共経済学は政府活動を分析対象とします。現代の政府活動は、産業政策（産業組織論）、金融政策（金融経済学）、労働政策（労働経済学）、貿易政策（国際経済学）、社会保障政策（社会保障論）、都市政策（地域経済学、都市経済学）、環境政策（環境経済学）など様々な分野にわたっています。それらの政策は、それぞれの応用経済学の分野が取り組んでいます。その中で、公共経済学は、政府の様々な経済活動に共通する要素を抽出し、一般的に分析します。

皆さんがこれまでに学習したように、経済学では希少資源について選択（意思決定）の問題を考えます。公共経済学では、希少な資源の利用に関して「何が（公共財か私的財か）、どのような方法で（公共部門か民間部門か）、誰のために（分配の問題）生産されるべきか。どのように意思決定されるか」を問題とします。公共部門におけるこの問題を考えるためには、公共部門の役割と活動評価、公共部門の意思決定の基礎となっている政治過程を考察する必要があり、このことが公共経済学の分析領域となります。本講義では、「公共部門の役割」、「公共部門の活動評価」、「公共部門の意思決定」をテーマに、市場の効率性、市場の失敗と政府の役割、公共計画における経済効率性と公平性、公共部門によって供給される財・サービスの性質と効率性、公共支出における意思決定プロセス、生産における政府の役割、環境問題における政府活動について基礎理論を学習します。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

公共経済学は、経済学のコア科目であるミクロ経済学とマクロ経済学と関連しますが、本講義では、市場機構による資源配分をベースとして公共部門の役割を取り上げます。そのため、ミクロ経済学により近い内容となっています。また、政府活動を分析の対象とするため他の応用経済学の分野と何らかの関連を持ちますが、同様の理由から、産業組織論や環境経済学などと関連があります。

日常生活で公共部門と関わりを持たずに生活している人はいません。必ず何かしらの関係を持っています。例えば、私たちが普段利用している司法や警察、消防、国道、都道府県道、市町村道、上下水道、ごみ・し尿処理、公立の教育機関などのサービスは公共部門によって供給されています。それでは、公共部門は限られた希少な資源を使い、何を、誰のために、どのように意思決定を行い、供給しているのでしょうか。公共経済学の基礎理論を学習し、皆さんが利用している公共部門のサービスを考えるための力を身につけてほしいと思います。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

中間目標

「混合経済における公共部門」「厚生経済学の基礎」を学習し、市場の効率性、市場の失敗と政府の役割、公共計画における経済効率性と公平性を考えるための基礎理論を習得してほしいと思います。

最終目標

「公共支出の理論」を学習し、公共部門によって供給される財・サービスの性質と効率性、公共支出における意思決定プロセス、生産における政府の役割、環境問題における政府活動を考えるための基礎理論を習得してほしいと思います。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

・説明の際、マイクの音量に注意します。

〔教科書〕

スティグリッツ，J.E 著、藪下史郎訳『スティグリッツ 公共経済学（第2版） 上 公共部門・公共支出』東洋経済新報社、2003年。

〔指定図書〕

常木淳著『新経済学ライブラリ8　公共経済学　第2版』新世社、2002年。

林正義・小川光・別所俊一郎著『公共経済学』有斐閣、2010年。

〔参考書〕
板谷淳一・佐野博之著『コア・テキスト　公共経済学』新世社、2013年。
土居丈朗著『入門　公共経済学　第2版』日本評論社、2018年。
Joseph E. Stiglitz, Jay K. Rosengard, 2015, “Economics of the Public Sector Fourth International Student Edition”, W.W. Norton Company

〔前提科目〕

経済学基礎論、ミクロ経済学

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

1.　試験期間中に試験を実施します。
2.　小テスト(もしくは課題)を実施します。小テストの日程と範囲はテスト実施の約1～2週間前の授業で連絡します。
3.　期末試験と小テスト(もしくは課題)の結果を総合的に評価します。

〔評価の基準及びスケール〕

A　80%以上、 B　70%以上80%未満、 C　60%以上70%未満、 D　50%以上60%未満、 F　50%未満

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

　これまでにミクロ経済学を履修した人は関連する単元を復習するようにしてください。まだ学習した経験がない人は、テキストを一度読むようにしてください。授業やテキストの内容でわからない箇所は質問してください。

　授業スケジュールは次のとおりです。ただし、授業内容の理解度(小テストの結果等)によっては、スケジュールを変更することもあります。

〔実務経歴〕
該当なし。

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか):イントロダクション　混合経済における公共部門 内　容:「政府の経済的役割」「政府とは何か、誰なのか」「公共経済学的な考え方」を学習します。 教科書・指定図書:　スティグリッツ(第1章)など
第2回	テーマ(何を学ぶか):イントロダクション　混合経済における公共部門 内　容:　第1回講義の続き。「政府の経済的役割」「政府とは何か、誰なのか」「公共経済学的な考え方」を学習します。 教科書・指定図書:　スティグリッツ(第1章)など
第3回	テーマ(何を学ぶか):イントロダクション　混合経済における公共部門 内　容:　第2回講義の続き。「政府の経済的役割」「政府とは何か、誰なのか」「公共経済学的な考え方」を学習します。 教科書・指定図書:　スティグリッツ(第1章)など
第4回	テーマ(何を学ぶか):イントロダクション　混合経済における公共部門 内　容:　第3回講義の続き。「政府の経済的役割」「政府とは何か、誰なのか」「公共経済学的な考え方」を学習します。 教科書・指定図書:　スティグリッツ(第1章)など
第5回	テーマ(何を学ぶか):　厚生経済学の基礎(1)　市場の効率性 内　容:「厚生経済学とパレート効率性」「経済効率性の分析」を学習します。 教科書・指定図書:　スティグリッツ(第3章)、常木(第1章)、林・小川・別所(第2章)など

第6回	テーマ(何を学ぶか)： 厚生経済学の基礎(1) 市場の効率性 内　容： 第5回講義の続き。「厚生経済学とパレート効率性」「経済効率性の分析」を学習します。 教科書・指定図書： スティグリッツ(第3章)、常木(第1章)、林・小川・別所(第2章)など
第7回	テーマ(何を学ぶか)： 厚生経済学の基礎(1) 市場の効率性 内　容： 第6回講義の続き。「厚生経済学とパレート効率性」「経済効率性の分析」を学習します。 教科書・指定図書： スティグリッツ(第3章)、常木(第1章)、林・小川・別所(第2章)など
第8回	テーマ(何を学ぶか)： 厚生経済学の基礎(1) 市場の効率性 内　容： 第7回講義の続き。「厚生経済学とパレート効率性」「経済効率性の分析」を学習します。 教科書・指定図書： スティグリッツ(第3章)、常木(第1章)、林・小川・別所(第2章)など
第9回	テーマ(何を学ぶか)： 厚生経済学の基礎(2) 市場の失敗 内　容： 「市場の失敗と政府の役割」「所得再分配とメリット財」「政府の役割についての二つの分析方法」を学習します。 教科書・指定図書： スティグリッツ(第4章)、常木(第1章)、林・小川・別所(第2章)など
第10回	テーマ(何を学ぶか)： 厚生経済学の基礎(2) 市場の失敗 内　容： 第9回講義の続き。「市場の失敗と政府の役割」「所得再分配とメリット財」「政府の役割についての二つの分析方法」を学習します。 教科書・指定図書： スティグリッツ(第4章)、常木(第1章)、林・小川・別所(第2章)など
第11回	テーマ(何を学ぶか)： 厚生経済学の基礎(2) 市場の失敗 内　容： 第 10 回講義の続き。「市場の失敗と政府の役割」「所得再分配とメリット財」「政府の役割についての二つの分析方法」を学習します。 教科書・指定図書： スティグリッツ(第4章)、常木(第1章)、林・小川・別所(第2章)など
第12回	テーマ(何を学ぶか)： 厚生経済学の基礎(2) 市場の失敗 内　容： 第 11 回講義の続き。「市場の失敗と政府の役割」「所得再分配とメリット財」「政府の役割についての二つの分析方法」を学習します。 教科書・指定図書： スティグリッツ(第4章)、常木(第1章)、林・小川・別所(第2章)など
第13回	テーマ(何を学ぶか)： 厚生経済学の基礎(3) 効率と公平 内　容： 「効率と分配のトレードオフ」「社会選択の分析」を学習します。 教科書・指定図書： スティグリッツ(第5章)、常木(第7章)、林・小川・別所(第9章)など
第14回	テーマ(何を学ぶか)： 厚生経済学の基礎(3) 効率と公平 内　容： 第13回講義の続き。「効率と分配のトレードオフ」「社会選択の分析」を学習します。 教科書・指定図書： スティグリッツ(第5章)、常木(第7章)、林・小川・別所(第9章)など
第15回	テーマ(何を学ぶか)： 厚生経済学の基礎(3) 効率と公平 内　容： 第14回講義の続き。「効率と分配のトレードオフ」「社会選択の分析」を学習します。 教科書・指定図書： スティグリッツ(第5章)、常木(第7章)、林・小川・別所(第9章)など
第16回	テーマ(何を学ぶか)： 公共支出の理論(1) 公共財と公的に供給される私的財 内　容：「公共財」「公的に供給される私的財」「公共財のための効率性の条件」を学習します。 教科書・指定図書： スティグリッツ(第6章)、常木(第2章)、林・小川・別所(第5章)など
第17回	テーマ(何を学ぶか)： 公共支出の理論(1) 公共財と公的に供給される私的財 内　容：第16回講義の続き。「公共財」「公的に供給される私的財」「公共財のための効率性の条件」を学習します。 教科書・指定図書： スティグリッツ(第6章)、常木(第2章)、林・小川・別所(第5章)など
第18回	テーマ(何を学ぶか)： 公共支出の理論(1) 公共財と公的に供給される私的財 内　容：第17回講義の続き。「公共財」「公的に供給される私的財」「公共財のための効率性の条件」を学習します。 教科書・指定図書： スティグリッツ(第6章)、常木(第2章)、林・小川・別所(第5章)など

第19回	テーマ(何を学ぶか)： 公共支出の理論(1) 公共財と公的に供給される私的財 内　容: 第18回講義の続き。「公共財」「公的に供給される私的財」「公共財のための効率性の条件」を学習します。 教科書・指定図書: スティグリッツ(第6章)、常木(第2章)、林・小川・別所(第5章)など
第20回	テーマ(何を学ぶか)： 公共支出の理論(2) 公共選択 内　容: 「資源配分の公的メカニズム」「公共財水準を決定する代替的機構」を学習します。 教科書・指定図書: スティグリッツ(第7章)、常木(第2章)、林・小川・別所(第6章)など
第21回	テーマ(何を学ぶか)： 公共支出の理論(2) 公共選択 内　容: 第20回講義の続き。「資源配分の公的メカニズム」「公共財水準を決定する代替的機構」を学習します。 教科書・指定図書: スティグリッツ(第7章)、常木(第2章)、林・小川・別所(第6章)など
第22回	テーマ(何を学ぶか)： 公共支出の理論(2) 公共選択 内　容: 第21回講義の続き。「資源配分の公的メカニズム」「公共財水準を決定する代替的機構」を学習します。 教科書・指定図書: スティグリッツ(第7章)、常木(第2章)、林・小川・別所(第6章)など
第23回	テーマ(何を学ぶか)： 公共支出の理論(2) 公共選択 内　容: 第22回講義の続き。「資源配分の公的メカニズム」「公共財水準を決定する代替的機構」を学習します。 教科書・指定図書: スティグリッツ(第7章)、常木(第2章)、林・小川・別所(第6章)など
第24回	テーマ(何を学ぶか)： 公共支出の理論(3) 公的生産 内　容: 「自然独占」「価格規制」などを学習します。 教科書・指定図書: スティグリッツ(第8章)、常木(第4章)、林・小川・別所(第3章)など
第25回	テーマ(何を学ぶか)： 公共支出の理論(3) 公的生産 内　容: 第24回講義の続き。「自然独占」「価格規制」などを学習します。 教科書・指定図書: スティグリッツ(第8章)、常木(第4章)、林・小川・別所(第3章)など
第26回	テーマ(何を学ぶか)： 公共支出の理論(3) 公的生産 内　容: 第25回講義の続き。「自然独占」「価格規制」などを学習します。 教科書・指定図書: スティグリッツ(第8章)、常木(第4章)、林・小川・別所(第3章)など
第27回	テーマ(何を学ぶか)： 公共支出の理論(3) 公的生産 内　容: 第26回講義の続き。「自然独占」「価格規制」などを学習します。 教科書・指定図書: スティグリッツ(第8章)、常木(第4章)、林・小川・別所(第3章)など
第28回	テーマ(何を学ぶか)： 公共支出の理論(4) 外部性と環境問題 内　容: 「外部性の問題」「外部性の私的解決策」「外部性の公的解決策」を学習します。 教科書・指定図書: スティグリッツ(第9章)、常木(第3章)、林・小川・別所(第4章)など
第29回	テーマ(何を学ぶか)： 公共支出の理論(4) 外部性と環境問題 内　容: 第28回講義の続き。「外部性の問題」「外部性の私的解決策」「外部性の公的解決策」を学習します。 教科書・指定図書: スティグリッツ(第9章)、常木(第3章)、林・小川・別所(第4章)など
第30回	テーマ(何を学ぶか)： 公共支出の理論(4) 外部性と環境問題 内　容: 第29回講義の続き。「外部性の問題」「外部性の私的解決策」「外部性の公的解決策」を学習します。 配布資料: スティグリッツ(第9章)、常木(第3章)、林・小川・別所(第4章)など
試 験	マーク式/記述式試験(予定)の実施。

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
労働経済学	4単位	専門・基幹科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
大矢奈美	**時間:** 学期開始時に連絡します。 **場所:** 研究室(523)	講義

〔科目の概要〕

指定テキストにもあるように、労働経済学とは「経済学で労働の問題を説明する学問」ということができるでしょう。ミクロ経済学で学んだ理論を労働市場に適用して考えてみるということが、労働経済学の第一歩です。まず均衡概念を用いて労働供給・労働需要を考えますが、「労働」に関しては政府等によって実際に観測・収集されたデータが存在します。よって統計的な手法によって理論と現実の整合性を確認したり、政策の効果を考察することも可能です。

前半では労働経済学の概念を学びます。後半では、それを基にして高齢者雇用や人的資本投資などの具体的な問題をとりあげ、数量データによる研究成果なども紹介することを予定しています。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

一年次秋学期に履修した日本経済概論の後半では、雇用についても学びました。この科目では、主にミクロ経済学から労働市場の仕組みを考えるとともに、具体的な社会問題を取り上げます。

労働経済学で取り上げる問題には働き方の見直しや処遇の平等化への取組などがありますが、これは長時間労働をなくす、正規雇用と非正規雇用の格差を是正するということにとどまらず、社会保障や財政の問題にも密接に関連しています。たとえば、長時間労働が美徳とされる社会故に労働市場に参加していなかった（するのを諦めていた）女性が活躍する場を得る、それによって年金財政にも影響が及ぶでしょうし、それを後押しするための社会福祉（子育て支援）も充実させる必要があります。問題は単一で存在するのではなく複雑に関連しあっているのです。ミクロ経済学で学ぶ理論を応用する分野としての入り口でもありますが、社会問題をどのようにとらえて政策を立てているのかなどを考えるきっかけになればと思います。

〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕

・中間目標
労働経済学の基本的な性格を理解し、基礎を身につける
・最終目標
現実の労働問題を経済理論や統計データから考察する姿勢と視点を身につける

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

授業の内容自体は概ね良好な評価を得られたようですが、プロジェクタで投影する文字についてのコメントがありました。見やすいものになるよう、練習を重ねます。

〔教科書〕
・清家篤/風神佐知子『労働経済』 東洋経済新報社, 2020年
このほか、適宜、レジュメなどで補足します

〔指定図書〕
・大森義明『労働経済学』日本評論社, 2008年

〔参考書〕
・川口大司『労働経済学ー理論と実証をつなぐ』有斐閣, 2017年　　ほか、授業の中で紹介する。

〔前提科目〕
日本経済概論、ミクロ経済学、マクロ経済学、統計学 など。
前提科目ではありませんが、計量経済学や実証経済分析も履修を検討してください。

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

①確認のための小テスト
②期末試験

〔評価の基準及びスケール〕

上記の合計点の80%以上をA，70%以上80%未満をB，60%以上70%未満をC，50%以上60%未満をD，50%未満をF　とします。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

経済理論の基礎を学んできた皆さんには、それを応用する入り口となる科目です。労働市場を分析するための理論はもちろんですが、現実の問題を紹介しながら、経済学的な視点で社会問題を考えるとはどういうことかを伝えられるような授業にしたいと考えています。
この授業は出席をとりません。授業に参加する意欲のない受講生に対して意欲を喚起するような特別な取り組みもしません。この授業からどれだけのものを得るかは、皆さん次第です。労働市場と社会に対する興味関心をもって授業に参加してください。

〔実務経歴〕

該当なし

授業スケジュール	
第1回	テーマ（何を学ぶか）：ガイダンス，労働経済学とは何か 内　容：　ガイダンス（授業の進め方について）　/　労働経済学とは何か 教科書・指定図書　　第1章
第2回	テーマ（何を学ぶか）：　労働供給　1 内　容：　所得余暇平面 教科書・指定図書　　第2章
第3回	テーマ（何を学ぶか）：　労働供給　2 内　容：　就業選択と最適労働供給時間の決定 教科書・指定図書　　第2章
第4回	テーマ（何を学ぶか）：　労働需要　1 内　容：　労働需要の決定要因 教科書・指定図書　　第3章
第5回	テーマ（何を学ぶか）：　労働需要　2 内　容：　最適労働需要の決定と労働需要曲線の導出 教科書・指定図書　　第3章
第6回	テーマ（何を学ぶか）：　失業　1 内　容：　失業とは何か，失業にかんする経験法則 教科書・指定図書　　第4章
第7回	テーマ（何を学ぶか）：　失業　2 内　容：　失業対策 教科書・指定図書　　第4章

第8回	テーマ（何を学ぶか）： 賃金 1 内 容： 年功賃金の理論的説明 教科書・指定図書 第5章
第9回	テーマ（何を学ぶか）： 賃金 2 内 容： 能力・成果主義賃金, 賃金格差の実態 教科書・指定図書 第5章
第10回	テーマ（何を学ぶか）： 賃金 3 内 容： 最低賃金の意義と動き 教科書・指定図書
第11回	テーマ（何を学ぶか）： 労働時間 1 内 容： 労働時間の趨勢 教科書・指定図書 第6章
第12回	テーマ（何を学ぶか）： 労働時間 2 内 容： ワーク・ライフ・バランス, 働き方改革 教科書・指定図書
第13回	テーマ（何を学ぶか）： 労働市場における情報の役割 内 容： 労働市場＝情報不完全市場，内部労働市場 教科書・指定図書 第7章
第14回	テーマ（何を学ぶか）： 第Ⅰ部（基礎編）のまとめ 内 容： これまでの復習, **確認のための小テスト** 教科書・指定図書
第15回	テーマ（何を学ぶか）： 経済の構造変化と労働市場 内 容： 経済の構造変化が労働市場にもたらした影響 教科書・指定図書 第8章
第16回	テーマ（何を学ぶか）： 高齢者雇用 1 内 容： 高齢者労働力率のトレンドと高齢者の就業決定 教科書・指定図書 第9章
第17回	テーマ(何を学ぶか)：高齢者雇用 2 内 容： 高齢者労働力に対する需要 教科書・指定図書 第9章
第18回	テーマ（何を学ぶか）： 高齢者雇用 3 内 容： なぜ高齢者雇用に注目があつまるのか - 社会保障制度とのかかわり 教科書・指定図書
第19回	テーマ（何を学ぶか）： 女性雇用 1 内 容： 女性雇用の変遷 教科書・指定図書
第20回	テーマ（何を学ぶか）： 女性雇用 2 内 容： 家計内生産モデル 教科書・指定図書 第10章

第21回	テーマ（何を学ぶか）： 女性雇用 3 内 容： サーチモデルとスイッチングモデル， 既婚女性の就労 教科書・指定図書 第10章
第22回	テーマ（何を学ぶか）： 女性雇用 4 内 容： 社会制度と既婚女性の労働供給 教科書・指定図書 第11章
第23回	テーマ（何を学ぶか）： 人的資本理論 1 内 容： 企業特殊的人的資本と一般的人的資本 教科書・指定図書 第12章
第24回	テーマ（何を学ぶか）： 人的資本理論 2 内 容： 雇用流動化と人的資本投資のゆくえ 教科書・指定図書 第12章
第25回	テーマ（何を学ぶか）： 労働力のフロー表 内 容： フローという概念、統計にみる労働力の推移 教科書・指定図書 第13章
第26回	テーマ（何を学ぶか）： 雇用調整 1 内 容： 雇用調整とは何か 教科書・指定図書 第14章
第27回	テーマ（何を学ぶか）： 雇用調整 2 内 容： 雇用調整係数（産業による違い、国による違い） 教科書・指定図書 第14章
第28回	テーマ（何を学ぶか）： 労使関係 1 内 容： 労働組合の役割と組織率の低下 教科書・指定図書 第15章
第29回	テーマ（何を学ぶか）： 労使関係 2 内 容： 労使紛争の変遷と新たな課題 教科書・指定図書
第30回	テーマ（何を学ぶか）：これまでのまとめ 内 容：
試 験	これまで学んだ内容から出題します

〔科目名〕		〔単位数〕	〔科目区分〕
金融経済学Ⅰ		2 単位	専門科目 基幹科目
〔担当者〕 國方 明 Kunikata, Akira	〔オフィス・アワー〕 **時間**: 第 1 回の授業で連絡します。 **場所**: 525 号室		〔授業の方法〕 講義

〔科目の概要〕

本科目では、金融という経済活動を、ミクロ経済学の知識を使って理解します。金融という経済活動と言っても漠然としているので、今 A さんが B 銀行へ預金したという例を考えます。この例から、金融の特徴を 2 つ挙げられます。

- 特徴 1: 皆さんは、今、AさんからB銀行に、おカネが移動したことを容易に想像できるでしょう。では、AさんとBさんの間で、おカネだけが移動するでしょうか？
- 特徴 2: AさんとB銀行の取引は、満期になって、B 銀行が A さんにおカネを返してようやく終了します。つまり、金融にかかわる取引では、今から満期までの時間経過を必ず考えなければいけません。これに対して、ミクロ経済学や応用ミクロ経済学で学んだ取引では、時間経過を考える必要はほとんど無かったでしょう。

以上のように金融には、他の種類の経済活動にない特徴があります。この特徴を理解するために、本科目と金融経済学Ⅱで、今まで学んできたミクロ経済学とマクロ経済学の理論をどのように拡張すべきなのか、またその特徴が現実の制度にどのように結びついているのかを学んでもらいます。

なお、本科目では主にミクロ経済学の金融への応用を学んでもらう予定です。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

1. 他の科目との関連付け

まず、〔科目の概要〕で説明したように、本科目では、ミクロ経済学の知識を用いて金融を理解します。したがって、ミクロ経済学に対する十分な理解が必要です。特に本科目と関連している部分を取り出すと、ミクロ経済学のうち不確実性や情報の理論の部分です。

次に、金融経済学Ⅱでは、マクロ経済学を金融に応用します。皆さんも既に学んでいる通り、経済学を理解するためには、ミクロ経済学とマクロ経済学の両方を理解しなければなりません。同様に、金融に関心のある人は、本科目だけでなく金融経済学Ⅱも履修することを勧めます。

最後に、本科目は、金融関係の展開科目(例えばファイナンス理論や金融機関論)の基礎になります。

2. 学んだことが何に結びつくか？

金融経済学の対象となる経済主体は、主におカネを貸したり借りたりする人や組織です。そしておカネの貸し借りという経済活動は、日常的に行われています。例えば皆さんは現在銀行へ預金をしているでしょうし、いずれ株式や債券などに投資するかもしれません(このような活動を「資産運用」と言います)。一方、皆さんはいずれ住宅購入などのためにおカネを借りると思われます(このような活動を「資金調達」と言います)。したがって、本科目での学修は、皆さんの資産運用と資金調達に関して、適切な意思決定を行うための手助けになるでしょう。

〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕

1. 最終目標

・ 資産運用と資金調達に関する意思決定を適切に行うための知識や判断力を身につける。

2. 中間目標

・ 金融に関するマスコミ報道を「正しく」理解できるようになること。
・ 現在の日本で、金融に関してどのようなトピックスがあるかを学ぶ。

以上の目標を達成するためには、授業で学んだことを、新聞を読んだりTVのニュースを見たりした時に応用する必要があるでしょう。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

自由記述では、問題点の指摘はありませんでした。しかし点数から推測すると、2021 年度には授業回数が少なかった影響もあり、終盤の回の説明が駆け足になってしまったと反省しています。そこで、授業内容を 2021 年度よりも若干簡素化します。

〔教科書〕

本科目では教科書を使用しません。その代わり、ハンドアウト(俗に言うプリント)を配布して、それに基づいて講義します。ハンドアウトは、下記参考書に基づいて作成されています。

〔指定図書〕
該当無し。

〔参考書〕
内田浩史、『金融』、有斐閣、2016 年(新品を購入可能、本学図書館に所蔵済み)

〔前提科目〕
ミクロ経済学、応用ミクロ経済学、統計学

上記3科目いずれかの単位を修得していない人も、本科目を履修できます。但し、該当科目のシラバスに紹介されている書籍の自習を強く勧めます。

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)
2020 年 4 月以後に入学した学生については、次の(ア)と(イ)の総合評価に基づき、履修者それぞれを評価します。
(ア) 授業内小テスト 1 回。択一式です。
(イ) 試験期間中の試験 1 回。択一式と記述式の併用です。

一方、2019 年 4 月以前に入学した学生については、**〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕**を参照してください。

〔評価の基準及びスケール〕
2020年4月以後に入学した学生については、〔学修の課題、評価の方法〕に挙げた(ア)と(イ)の総合評価に基づいて、グレードの仕切りを設定します。
A:80%以上。B:70%以上、80%未満。C:60%以上、70%未満。D:50%以上、60%未満。F:50%未満。

一方、2019 年 4 月以前に入学した学生については、**〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕**を参照してください。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕
- 2019 年 4 月以前入学者のうち、今年度春学期開講の金融経済学Ⅱを履修した人だけが、本科目を履修できます。金融経済学Ⅱと本科目を履修した人に対して、2 科目の学修成果を総合して、4 単位分の評価を行います。
- 第 1 回の授業で、評価方法などについて補足説明します。できる限り出席してください。
- 他の学生の迷惑になる行為(例:私語や、授業にかかわる学生同士の相談)を、原則として禁じます。授業にかかわる相談も、周囲の学生にとって受講の妨げになりうることを想像してください。授業中に相談事が生じたら、國方が受け付けます。
- 新型コロナウイルス感染拡大状況などによって、本シラバスに変更がありえます。変更が生じたら、授業内で連絡します。

〔実務経歴〕
公認会計士事務所での監査証明業務補助などの実務経験を活かし、これまで学んできたミクロ経済学の理論をどのように金融へ拡張できるのか、また金融理論の特徴が現実の制度とどのように結びついているのかを学ぶ授業です。

授業スケジュール
(新型コロナウイルス感染拡大状況や履修者の理解度などによって、スケジュールに変更がありえます。変更が生じたら、授業内で連絡します。)

第 1 回	テーマ(何を学ぶか): ガイダンスおよびイントロダクション 内 容: まず、本科目の全体像を学びます。次に、金融や金融経済学を定義づけて、金融経済学をめぐる諸論点を紹介します。最後に、(講義のやり方の説明を兼ねて)「経済理論における貨幣の役割」を学びます。 参考書 第 1 章
第 2 回	テーマ(何を学ぶか): 貨幣とは何か? 内 容: 貨幣の機能や統計を学ぶとともに、決済(けっさい)という行為を学びます。 参考書 第 1 章と第 2 章
第 3 回	テーマ(何を学ぶか): 金融取引の特徴と、金融取引の阻害要因 内 容: 金融取引の特徴、金融取引の阻害要因を学びます。 参考書 第 3 章と第 4 章

第 4 回	テーマ(何を学ぶか): 阻害要因の軽減策と、金融市場 内　容: 阻害要因を軽減するための社会的工夫を学びます。また、社会的工夫の一例として、金融取引の場である、金融市場について学びます。 参考書 第 3 章と第 4 章
第 5 回	テーマ(何を学ぶか): 異時点間の消費問題と利子率 内　容: 第 5 回～第 7 回で、利子率にかかわる理論を学びます。第 5 回では、異時点間の消費問題のモデルを紹介し、このモデルの中での利子率の役割を学びます。 参考書 第 2 章
第 6 回	テーマ(何を学ぶか): 割引計算と割引現在価値 内　容: 将来受け取る(または支払う)お金の額を、今の受け取り額(または支払額)に換算する方法を学びます。 参考書 第 2 章
第 7 回	テーマ(何を学ぶか): 金融資産価格と利子率の関係 内　容: 金融資産の価格と利子率は、逆方向に変化する関係があると考えられます。この関係が成り立つメカニズムを学びます。 参考書 第 2 章
第 8 回	テーマ(何を学ぶか): 貸し手の合理的行動①数式 内　容: 貸し手の合理的行動を議論する前提として、リターンやリスクの概念やその尺度を学びます。第8回授業内で、小テスト(択一式)を実施する予定です。 参考書 第 7 章
第 9 回	テーマ(何を学ぶか): 貸し手の合理的行動②予算線 内　容: ポートフォリオ全体について、リターンとリスクの関係を図で表します。この図は、貸し手にとっての予算線に当たります。 参考書 第 7 章
第 10 回	テーマ(何を学ぶか): 貸し手の合理的行動③無差別曲線、期待効用極大化行動 内　容: 第 9 回で学んだ平面に、貸し手の無差別曲線を描きます。そして、予算線と無差別曲線とを組み合わせて、予算制約の下での期待効用極大化行動を図示します。 参考書 第 7 章
第 11 回	テーマ(何を学ぶか): 借り手の合理的行動 内　容: 借り手、特に企業の合理的行動を、ミクロ経済学と応用ミクロ経済学の知識を使って学びます。 参考書は該当無し。
第 12 回	テーマ(何を学ぶか): 金融構造 内　容: 貸し手と借り手が、どのような経路を通じて結びついているのかを学びます。この経路は、(a)金融市場と(b)金融仲介機関の 2 種類に分かれます。これらのうち(a)については、第 4 回でも学びました。 参考書 第 8 章と第 9 章
第 13 回	テーマ(何を学ぶか): 間接金融① 保険 内　容: 第 12 回(b)のうち、保険を学びます。 参考書 第 6 章、第 8 章
第 14 回	テーマ(何を学ぶか): 間接金融② 証券化 内　容: 第 12 回(b)のうち、証券化の枠組みを学びます。 参考書 第 7 章
第 15 回	テーマ(何を学ぶか): トピックス 内　容: 最近の金融を理解するうえで重要なトピックスを、これまでの授業と関連づけて学びます。 指定図書 該当無し。
試 験	期末試験(択一式と記述式の併用)を実施します。出題範囲などについては授業内で連絡します。

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
地方財政論	2 単位	

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
森田圭亮	**時間:授業後** **場所:非常勤講師控室**	

〔科目の概要〕

本講義は地方財政のあり方や地方財政が地域経済に与える影響を理解することに主眼を置いている。受講を通じて、地域経済の活性化や地域の生活基盤の充実のためにどのような地方財政システムを構築するべきかを、学生一人ひとりが考察する土台を築く能力を養うことを期待する。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

本講義は、経済理論の視点から地方財政のあり方について説明する。そのため、ミクロ経済学やマクロ経済学の基礎を理解しておくことが望ましい。経済理論を通じて、地方経済の発展の経緯や地域経済を発展させるための政策のあり方について理解を深めていく。

〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕

本講義は、主に経済理論をベースとしながら地域経済の形成や発展のあり方を理解し、地域経済の活性化にはどのような政策が必要であるのかについて考察するための土台を気づくことを目指す。本講義の学修内容を通じて、学生一人ひとりが地域経済を発展させるためにどのような政策が必要なのかを考察・議論できるようになることを目指す。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

講義の進度を中心に改善の要望が見られたため、適宜対応する所存である。

〔教科書〕

〔指定図書〕

・兼子良夫,「財政学」 税務経理協会, 2018 年
・奥野信宏, 八木匡, 小川光,「公共経済学で日本を考える」 中央経済社, 2017 年
・佐藤主光,「経済学叢書 地方財政論入門」 新世社, 2009

〔参考書〕

〔前提科目〕

マクロ経済学、ミクロ経済学

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

試験 70%、授業態度 30%

〔評価の基準及びスケール〕

授業態度については講義内の発言やグループワーク成果などを評価する。一方、板書の撮影や私語をはじめとした講義の妨げとなる行為については処分評価の対象とする。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

講義は実際の制度・政策と経済理論の両面を踏まえた説明を行う。そのため、事前に経済理論について確認しておくことが望ましい。

〔実務経歴〕

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか): 地方財政の基礎(1) 内　容: 日本の現状について説明する。 教科書・指定図書
第2回	テーマ(何を学ぶか):地方財政の基礎(2) 内　容: 政府の役割について説明する。 教科書・指定図書
第3回	テーマ(何を学ぶか):地方財政の基礎(3) 内　容: 地方財政の特徴について説明する。 教科書・指定図書
第4回	テーマ(何を学ぶか):地域経済の発展(4) 内　容:街の形成や発展を住民の居住地選択に注目して説明する。 教科書・指定図書
第5回	テーマ(何を学ぶか):地域経済の発展(1) 内　容:街の形成や発展を製造業者の立地選択に注目して説明する。 教科書・指定図書
第6回	テーマ(何を学ぶか):地域経済の発展(2) 内　容:街の形成や発展を小売企業の立地選択に注目して説明する。 教科書・指定図書
第7回	テーマ(何を学ぶか):地域経済の発展(3) 内　容:街の形成や発展を人口や企業の集中と関連させて説明する。 教科書・指定図書

第8回	テーマ(何を学ぶか):地域経済と税(1) 内　容:地方分権と地域経済の関係を、税に注目しながら説明する。 教科書・指定図書
第9回	テーマ(何を学ぶか):地域経済と税(2) 内　容:第8回講義をベースにしつつ、租税競争の問題を取り上げる。 教科書・指定図書
第10回	テーマ(何を学ぶか):地域経済と税(3) 内　容:第9回講義をベースにしつつ、地方分権経済下における中央政府の役割について説明する。 教科書・指定図書
第11回	テーマ(何を学ぶか):地方財政と税(4) 内　容:地方分権と地域経済の関係を、余剰分析を交えて説明する。 教科書・指定図書
第12回	テーマ(何を学ぶか):地方財政と生活基盤整備(1) 内　容:公共財の特徴に注目しつつ、生活基盤整備のあり方について説明する。 教科書・指定図書
第13回	テーマ(何を学ぶか):地方財政と生活基盤整備(2) 内　容:生活基盤整備などが地域経済に与える影響について、ミクロ経済学の視点から説明する。 教科書・指定図書
第14回	テーマ(何を学ぶか):地方財政と生活基盤整備(3) 内　容:生活基盤整備などが地域経済に与える影響について、マクロ経済学の視点から説明する。 教科書・指定図書
第15回	テーマ(何を学ぶか):講義のまとめ 内　容:講義のまとめを行う。 科書・指定図書
試　験	筆記試験を行う。

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
経済特殊講義Ⅱ	2 単位	

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
秋葉まり子・丸山千賀子	**時間:** 集中講義期間の休憩時間及び授業後 **場所:** 非常勤講師控室	講義

〔科目の概要〕

近年、情報化の進展や環境問題など様々な社会問題が起こる一方、消費者の多様なライフスタイルや価値観を反映して、商品・サービスが多様化しているため、今後の企業には営利の達成だけでなく、消費者の視点を取り入れた経営が求められている。また、消費者と企業による健全な市場の実現を通して、消費者保護と社会の発展が期待できる“消費者志向経営”の重要性が消費者政策において認識されるようになってきている（消費者志向経営とは、企業が消費者のニーズや期待にこたえることにより、組織の社会的責任を果たして持続可能な社会に貢献する経営のあり方のことである）。これはSDGs時代においてはサステナブル経営ともいわれ、持続可能な社会へ向けた今後の経営のあり方として企業においても重視されてきている。

このような社会背景を踏まえ、この授業では、消費者の生活に焦点を当て生活経済の基礎的事項を学んだうえで、企業において重視されてきている消費者志向経営について解説する。

秋葉担当部分（6 回分）では、家計の経済活動や行動を、金融の分野を中心に理論的、実態的に捉えると共に、経済社会の仕組みとその変化が私たちの生活経済にどのような影響を与え、どういった課題を生じさせているかを学ぶ。

丸山担当部分（9 回分）では、今後重視されてくるといわれている消費者志向経営について講義するとともに、資料や映像を使って企業不祥事や企業の取り組み、企業と消費者問題の事例、SDGs やエシカル消費、シェアリングエコノミーといった現代的なテーマを紹介する。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

この科目では、これまでの消費者の生活の営みにおける様々な課題を踏まえ、我々が生活する社会の仕組み、システムの変化にも目を配りながら広い視野から経済を考えること、消費者の視点から企業経営を考えることにより、行政・企業・消費者の三者協働による新しい社会システム構築について考えることを目標としている。

変動する社会の中で、経済生活を営む際に直面する問題や課題とは何なのかを捉え、これまでどういった対応策が模索され、どう解決することが望ましいのか、といったこと等を考えながら、自立した消費者として社会における経済活動のあり方を探求する姿勢と能力を身につける。

この科目を学ぶことにより、生活に関連する経済の知識が身につくとともに、企業と消費者の新しいあり方や相互連携についての理解が深まるため、就職活動の面接などにも役立つことがあるため、キャリア教育にもつながるといえよう。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

中間目標として、消費・経済社会における基礎的な知識を理解することにより、各人が学問領域を広げ、現代的課題に関する問題発見能力を養い、洞察力、分析力を身につけることを目標としている。

最終目標としては、我々が生活する社会やその仕組みの変化を理解し、今日直面しているいくつかの具体的な問題や地域の経済的課題に迫りながら、生活経済を、広い背景の中で総合的、かつ具体的に理解することを目指す。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

講義内容に合わせて、様々な関連文献・映像資料を使って、具体的でわかりやすく、興味の持てる授業にするよう工夫している。

〔教科書〕

丸山千賀子『消費者志向経営　企業と商品・サービスについて考える』開成出版

〔指定図書〕

〔参考書〕

〔前提科目〕

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

2 回の小テストの他、授業中に小レポートを課す。

〔評価の基準及びスケール〕

2 回の小テストにより評価する。
レポート課題・授業への参加姿勢も評価する。

・小レポート・授業の参加態度 10%
・小テスト(2 回) 90%

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

丸山担当部分では、教科書を授業で使うほか、試験時には持ち込みを前提とする課題を出しますので、授業時には必ず教科書を持ってきてください。なお、試験時に持ち込む教科書は、他人の書き込みやアンダーライン等、解答のヒントとなる形跡があるものは認められません(自分で書き込んだものについては可)ので、注意してください。

〔実務経歴〕

該当なし

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか): 家計の所得と消費・貯蓄について 内 容: 消費と貯蓄の基礎理論 資料配布
第2回	テーマ(何を学ぶか): 貯蓄の保有形態 内 容: (1)貯蓄と金融資産について 資料配布
第3回	テーマ(何を学ぶか): 貯蓄の保有形態 内 容: (2)金融資産のグローバル化 資料配布
第4回	テーマ(何を学ぶか): 日本の家計貯蓄の現状 内 容: 家計の貯蓄率の変化 資料配布
第5回	テーマ(何を学ぶか): 生活とリスク管理 内 容: (1)社会保障制度と保険 (2)消費者金融について 資料配布

第6回	テーマ(何を学ぶか)： 第1回～第5回までの内容のまとめと小テスト
第7回	テーマ(何を学ぶか)： イントロダクション 内　容： 消費者政策と企業経営の関係について考える。 教科書・指定図書
第8回	テーマ(何を学ぶか)： 消費者志向経営とは何か 内　容： 消費者志向経営の意義と注目されてきた社会的背景について学ぶ。 教科書・指定図書
第9回	テーマ(何を学ぶか)： 企業の社会的責任(CSR)と消費者志向経営 内　容： 企業の社会的責任(CSR)からみた消費者志向経営の意義について学ぶ。 教科書・指定図書
第10回	テーマ(何を学ぶか)： 消費者の視点を考慮した商品とサービス 内　容： オープンイノベーション・商品コンセプトについても考える。無印良品の事例や、成功した商品コンセプトの作り方について映像も併せて参照する。 教科書・指定図書
第11回	テーマ(何を学ぶか)： 消費者志向経営が社会に及ぼす効果 内　容： 企業・消費者・社会の面から消費者志向経営の影響を解説する。 教科書・指定図書
第12回	テーマ(何を学ぶか)： 情報開示の重要性について 内　容： 情報開示の重要性について整理するとともに、企業不祥事の事例を紹介する。内部告発から企業不祥事が明らかになった事例を紹介する。 教科書・指定図書
第13回	テーマ(何を学ぶか)： 消費社会の様々な環境変化(1) 内　容： SDGs・ESG 投資 教科書・指定図書
第14回	テーマ(何を学ぶか)：消費社会の様々な環境変化(2) 内　容： シェアリングエコノミーなど、最近のテーマについて取り上げる。 教科書・指定図書
第15回	テーマ(何を学ぶか)：全体のまとめと小テスト 内　容：第7回から第14回までのまとめと小テスト 教科書・指定図書

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
経済変動論	2単位	専門科目 展開科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
高尾 築 Takao Kizuku	**時間:** 初回の授業でアナウンスします **場所:** 初回の授業でアナウンスします	講義

〔科目の概要〕

2年次のマクロ経済学を履修した学生を対象として，さらに一歩進んだ中級以上のマクロ経済理論を講義します．現代のマクロ経済理論では，ミクロ経済学の最適化行動理論を土台にし（これをミクロ的基礎づけ(micro foundation)と言います），時間経過とともに経済主体の行動がどのように変化するのかをも考慮して分析します．本講義では，このようなフレームワークに沿った財政政策と金融政策の議論を中心にみていきます．

具体的な講義内容は以下の通りです：

(1) 分析の煩雑化を避けるため，時間推移を2期間のみに限定したライフサイクルモデルをみていきます． モデルに基づいて，消費税増税のアナウンスメント効果を分解して解釈できることを目標とします．
(2) トービンｑ理論をみていきます．無限時間視野の企業の投資決定を理解するのを目標とします．
(3) 資産価格形成，長期金利と短期金利，名目金利と実質金利，日本銀行当座預金などの金融政策を分析する上での必須事項を確認したのち，伝統的金融政策から非伝統的金融政策までみていきます．日本での実際の金融政策運営の変遷を理解するのを目標とします．
(4) 最後に「ソローモデル」を取り上げ， 経済成長について考えていきます．ソロー収束性と TFP についての理解を目標とします．

また理論手法の習得だけでなく，適宜，関連する現実データを紹介し，現実の経済課題を考える機会を数多く提供したいと思います．

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

・より高度な分析手法を学習することで，視野の広い経済学的思考力が得られます．

・マクロ経済学を用いる応用分野の授業（金融経済学，ファイナンス理論，財政学，公共政策論など）と関連します．

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

中間目標

・マクロ経済変数（消費，投資，金利，インフレ率等）が，時間の変化とともに，どのように変化していくのかを分析するための手法・考え方を理解する．
・日本や世界各国の様々な経済事例を知り，現実のマクロ経済政策課題を知る．

最終目標

・どのような因子がマクロ経済変数に影響を与えるのかを，高度な分析ツールに基づき，そのメカニズムを踏まえて説明できるようになる。
・新聞・テレビ等で報道される経済ニュースについて，その背後にあるメカニズムを動学的な視点から考え，自分なりにそれを議論できるようになる．

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

例年，受講生間の数学能力のバックグラウンドに著しい分散が認められるので，数学予備知識の確認を実施します．

〔教科書〕

特に指定しない．

〔指定図書〕

・二神孝一・ 堀敬一 ，「マクロ経済学 (第2版)」，有斐閣, 2017 年
・福田慎一,「金融論 ― 市場と経済政策の有効性 新版」，有斐閣， 2020 年
・小林照義,「金融政策 (第2版)」，中央評論社， 2020 年

〔参考書〕
・西村幸浩,「財政学入門 (経済学叢書 Introductory)」, 新世社, 2013 年
・デビッドローマー (著), 堀雅博 他 (翻訳),「上級マクロ経済学」, 日本評論社, 2010 年

〔前提科目〕
・ミクロ経済学, マクロ経済学, 経済数学

[学習の課題、評価の方法](テスト、レポートなど)
・初回授業にてアナウンスします.
期末筆記試験が実施可能な場合は持ち込みありの筆記試験を実施し, そのスコアで成績評価を行います.
実施できない場合は, レポート試験によって成績評価を行います.

〔評価の基準及びスケール〕

評価	得点比率
A	80%～100%
B	70%～80%未満
C	60%～70%未満
D	50%～60%未満
F	50%未満

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕
・ハンドアウトに基づき, スライド投影と板書を併用して講義を行います.
板書を書く際には, 大きくて見やすい字を心掛けます. 板書の綺麗さには定評があると自負しています.

・数学を使う場面が多いです. しかし, 高度な数学知識は必要ありません. 数式の取り扱い自体は他のどの授業よりも難しく見えるかもしれませんが, ちょっと偏微分とかをするだけで, 基本的には文字式が多いだけです. **わかりやすく教えるので,** 加減乗除ができて, 初歩的な指数対数・微分の知識があれば, 大丈夫だと思います(これについても初回の講義あたりに確認します).

ただし, 経済数学単位未取得の学生は絶対に受講しないでください.

・(予習は特に前提とはしませんが)復習は必ず行ってください.

・以下の授業スケジュールはあくまで予定で, 進度や授業設定日のスケジュール(講義日は不定期)に合わせて変更する場合もあり得ます.

〔実務経歴〕
該当なし

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか): イントロダクション 内 容: 乗数効果再考, ルーカス批判 教科書:
第2回	テーマ(何を学ぶか): 数学準備 内 容: 指数対数, 二次関数, 一階微分, 偏微分, 最適化 教科書:
第3回	テーマ(何を学ぶか):家計の消費・貯蓄行動 (1) 内 容: 2 期間モデル (1) 教科書:

第4回	テーマ(何を学ぶか): 家計の消費・貯蓄行動 (2) 内　容: 2 期間モデル (2) 教科書:
第5回	テーマ(何を学ぶか): 家計の消費・貯蓄行動 (3) 内　容: 消費税のアナウンスメント効果 教科書:
第6回	テーマ(何を学ぶか): 企業の設備投資行動 (1) 内　容: 新古典派投資理論 教科書:
第7回	テーマ(何を学ぶか): 企業の設備投資行動 (2) 内　容: トービン q (1) 教科書:
第8回	テーマ(何を学ぶか): 企業の設備投資行動 (3) 内　容: トービン q (2) 教科書:
第9回	テーマ(何を学ぶか): 金融政策 (1) 内　容: 効率的市場仮説, 金利の期間構造 教科書:
第 10 回	テーマ(何を学ぶか): 金融政策 (2) 内　容: フィッシャー方程式, 日銀当座預金 教科書:
第 11 回	テーマ(何を学ぶか): 金融政策 (3) 内　容: 伝統的金融政策, テイラールール 教科書:
第 12 回	テーマ(何を学ぶか): 金融政策 (4) 内　容: 非伝統的金融政策 教科書:
第 13 回	テーマ(何を学ぶか): TFP (1) 内　容: ソローモデル 教科書:
第 14 回	テーマ(何を学ぶか): TFP (2) 内　容: 技術進歩を考慮したソローモデル 教科書:
第 15 回	テーマ(何を学ぶか): TFP (3) 内　容: 収束

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
地域企業論Ⅱ	2 単位	

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
生田泰亮 IKUTA Yasuaki	時間:後ほど指示します。 場所:1305 研究室(大学院棟)	講義

〔科目の概要〕

地域企業論Ⅱでは、地域企業の環境分析と戦略策定について学ぶ。具体的には『中小企業白書 小規模企業白書 2022 年版 上 新たな時代へ向けた自己変革』を取り上げ、これを読み解くことを中心に講義を進める。主に、統計データを読み、地域企業を取り巻く環境変化、 最新の動向を読み解く力を身につける。また、教科書の進捗状況に合わせて、企業の経営課題や専門知識について解説していく。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

地域企業論Ⅰで学んだ内容を基本として進める。本講義は、多くの科目と関連性のある「総合的な科目」 「中核的な科目」である。関連づけ、反復することで「有効な思考法」を身につけるよう努力すること。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

(1)『中小企業白書』を読み解き、地域企業がおかれた社会、市場、産業などの動向を理解し「地域企業の環境分析」ができる。
(2)地域企業の経営政策、事業戦略について学び、その成果として「問題解決策の立案」としての「戦略策定」や「政策提言」ができる能力を養う。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

教科書を事前に読んでいることを前提として講義を進める。しっかりと予習すること。
質問、相談等はいつでも受け付ける。講義中、講義終了後、アポイントを取った上でのオフィスアワーなど遠慮なく。

〔教科書〕

中小企業庁編『中小企業白書 小規模企業白書 2022 年版 上　新たな時代へ向けた自己変革』日経印刷株式会社、2022 年。
他、適宜、資料を配布。

〔指定図書〕

〔参考書〕

塩次喜代明、高橋伸夫、小林敏男『経営管理[新版]』有斐閣、2009 年。
M.E.ポーター著、竹内弘高訳『競争戦略論(I)(II)』ダイヤモンド社、1999 年。

〔前提科目〕

地域企業論Ⅰ（単位取得していることか、必須条件)。

〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等）

課題レポート:50%、期末試験:50% （詳細は講義内で説明する）
※講義進行の妨げとなる行為があり、注意を聞き入れない場合は、当該学生の本科目の評価を「F」とする。

〔評価の基準及びスケール〕

80%以上 A　79-70% B　69-60% C　59-50% D　49%以下 F

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

予習として「教科書の各回の指定範囲を必ず読み出席する」こと。
予習していることを前提に講義を進めるので、この点、十分に留意して取り組んでほしい。

〔実務経歴〕

該当なし

授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか):イントロダクション 内 容: 講義内容と進め方について(※シラバスを必ず持参すること) 第1部第1章「中小企業・小規模事業者の動向」① 教科書・指定図書
第2回	テーマ（何を学ぶか）:『中小企業白書』を読み解く (1) 内　容：第1部第1章「中小企業・小規模事業者の動向」② 教科書・指定図書
第3回	テーマ（何を学ぶか）:『中小企業白書』を読み解く (2) 内　容：第1部第1章「中小企業・小規模事業者の動向」③ 教科書・指定図書
第4回	テーマ（何を学ぶか）:『中小企業白書』を読み解く (3) 内　容：第1部第1章「中小企業・小規模事業者の動向」④ 教科書・指定図書
第5回	テーマ（何を学ぶか）:『中小企業白書』を読み解く (4) 内　容：第2部第1章「中小企業における足下の感染症への対応」① 教科書・指定図書
第6回	テーマ（何を学ぶか）:『中小企業白書』を読み解く (5) 内　容：第2部第1章「中小企業における足下の感染症への対応」② 教科書・指定図書
第7回	テーマ（何を学ぶか）:『中小企業白書』を読み解く (6) 内　容：第2部第2章「企業の成長を促す経営力と組織」① 教科書・指定図書
第8回	テーマ（何を学ぶか）:『中小企業白書』を読み解く (7) 内　容：第2部第2章「企業の成長を促す経営力と組織」② 教科書・指定図書
第9回	テーマ（何を学ぶか）:『中小企業白書』を読み解く (8) 内　容：第2部第2章「企業の成長を促す経営力と組織」③ 教科書・指定図書
第10回	テーマ（何を学ぶか）:『中小企業白書』を読み解く (9) 内　容：第2部第3章「共通基盤としての取引適正化とデジタル化、経営力再構築伴走支援」① 教科書・指定図書
第11回	テーマ（何を学ぶか）:『中小企業白書』を読み解く (10) 内　容：第2部第3章「共通基盤としての取引適正化とデジタル化、経営力再構築伴走支援」② 教科書・指定図書
第12回	テーマ（何を学ぶか）:『中小企業白書』を読み解く (11) 内　容：第2部第3章「共通基盤としての取引適正化とデジタル化、経営力再構築伴走支援」③ 教科書・指定図書
第13回	テーマ（何を学ぶか）： ケース・スタディ① 内　容：教科書内の事例、ビデオ学習によるケース・スタディ 教科書・指定図書

第14回	テーマ（何を学ぶか）：ケース・スタディ② 内　容：教科書内の事例、ビデオ学習によるケース・スタディ 教科書・指定図書
第15回	テーマ（何を学ぶか）：まとめ 内　容：講義全体のまとめと振り返り、期末試験、課題レポートの提出について 教科書・指定図書
試　験	※詳細については第1回および講義の中で説明する。

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
地域社会論Ⅱ	2 単位	

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	
佐々木て る Sasaki Teru	場所:時間:授業開始時に指示 場所:授業開始時に指示	

〔科目の概要〕

青森県では少子高齢化が進み、人口減少、短命県などが問題として指摘されている。また、若者の県外流出なども今後の県の将来を考える上で重要な問題となっている。同時に青森県は地域文化や産業の点で日本を代表するものが存在する。そのため県の取り組みとしても「課題を克服」し「強みをとことん生かす」ためのアイディアが重要視されている。

この授業では、上記のような認識を前提に、海外からの観光客の誘致、外国籍者の労働力の導入、国際的なマーケットへの参入、永住外国人の現状といった視点からそれらの課題を捉えなおすこととする。具体的には下記のテーマが中心となる。

(1)「交流人口」:インバウンドを中心とした海外からの観光客についての分析、ニーズの把握。

(2)「循環人口」:いわゆる単純労働で海外から来日、もしくは青森に来ている外国籍者の現実と実情。

(3)「共生人口」:人口減少地域に対応するための外国人、移民政策について。永住、帰化、国籍などに関して。

これら 3 つのテーマを学ぶことによって最終的には、日本型もしくは青森としての多文化共生、共創社会を構築していく視点を醸成させることにする。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

決定的な人口減少を迎えている青森県の住民として、その問題の根幹を理解し、解決するための手立てを考えることは急務の課題である。そしてそのことは、次世代を生きる人間としての責務であり、今まさに問われている問題といえる。

日本国内の人口減少を補う人材として、海外からの移住者の受け入れは一つの選択肢であり、そこで必要とされている議論を学ぶことは重要である。人口減少解決のための新しい視点を学ぶことができるだろう。そして同時にこのことはワールド・ワイドで活躍するための基礎となることを学ぶことにもつながる。そして海外から人に来てもらう、もしくは海外に青森を売り込む際に、授業で扱う題材を知ることは有益な情報となるだろう。

〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕

人口減少という問題をもう一度捉えなおし、その根本問題、解決策を提示できるような思考を養う。特に海外からの人材の導入、もしくは海外への売り込みという視点を自分なりに発展させていくことが目標となる。同時に海外の事例を学び、日本社会に応用可能か、またその際の課題などを自らの視点で指摘できることも目標となる。

中間目標

前半は特に、人口減少問題のレビュー、県内の外国籍者の実態など基礎的な知識や考え方を学ぶ。そのため、グローバリゼーションや市民権、多文化共生に関する理論的な視点も学んでもらう。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

授業終わりにコメント用紙を書いてもらい、そこでの指摘を授業に取り入れ、改善を行っていく。

コメント用紙の配分点のつけかたなど、成績評価の方法をより明確に提示する。特に第一回目の授業において方針を明確にしていく。

〔教科書〕

特になし

〔指定図書〕

特になし

〔参考書〕

授業時に紹介する

〔前提科目〕

特になし

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

・提起的にコメント用紙を書いてもらい、評価を行う。
・授業中盤で確認試験を行い、理解度をはかる。
・最終に試験を行う。出題内容は授業内容に関するもの。
主に論述式で、知識および解釈力、主張を問うものとする。
毎回出席はとる予定である。そのため当然のことではあるが授業は出席することが大前提である。
特に第一回目の授業は評価の方針、内容に関する確認などを行うため、本講義を受講予定のものは必ず出席すること。

〔評価の基準及びスケール〕

・試験 60%、コメント用紙・小テストを 40%として採点する。
A～F の評価は本学の規定に準ずる。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

なによりも自分の住んでいる地域の文化や産業について、積極的に興味を持ち、知識を増やしてほしい。授業で伝えたこと以外でも、興味のあることを自分自身で調べる姿勢が望まれる。
また知り得た知識や考えなど、意見を求める機会も与える予定でいるので積極的に発言してほしい。自分と周囲に住んでいる人、自分が住んでいる社会について、主体的に働きかける気持ちを常にもって授業に参加してほしい。

授業スケジュール

第1回	テーマ: 世界から青森へ、青森から世界へ 内　容: ガイダンス 導入として人口減少対策としての外国人・移民政策の必要性を学ぶ
第2回	テーマ: 人口減少問題と外国籍労働力(1) 内　容: 人口減少問題の根幹:理論的視点を考える。また労働力確保の方策としての ICT の導入と外国人労働者の導入について考える。
第3回	テーマ: 人口減少問題と外国籍労働力(2) 内　容: 外国籍労働力を日本に積極的に導入するにあたり、その前提となるような外国人・移民政策についての理論的な視座を紹介する。
第4回	テーマ: 人口減少問題と外国籍労働力(3) 内　容: 前回にt引き続き、外国籍労働者・移民は人口減少対策の切り札になるのかを考える。特に市民権理論と多文化共生の理論を紹介し、外国籍労働者・移民の増加にともなう課題と問題を考える。
第5回	テーマ: 交流人口(1) 内　容: インバウンドとはなにか、その問題点を考える。特に青森県の事例を中心に行う。
第6回	テーマ: 交流人口(2) 内　容: 青森県内の祭を中心に、その国際性の在り方について考える。
第7回	テーマ: 循環人口(1) 内　容: 技能実習制度をとらえる。特に青森県、八戸市や弘前市の事例を中心に、技能実習制度とはなにかを学ぶ。
第8回	テーマ: 循環人口を考える(2) 内　容: 内　容: 送り出し国の現状を紹介し、国際的な労働力移動について学ぶ。特にベトナムの事情を紹介する。
第9回	テーマ: 青森県の共生人口を考える(1) 内　容:三沢の米軍基地の事例、ネパール人の事例、永住フィリピン人と帰化の事例などを通じて青森の共生人口を学ぶ。

第10回	テーマ: 青森県の共生人口を考える(2) 内 容 : 青森以外の永住者と共生に関する事例をとりあげ、青森県との比較を行う。
第11回	テーマ: グローバル時代の移民政策(1) 内 容: 多文化共生に関する現状を、世界と日本を比較することによって学ぶ。特に理論的なものとしてエスニシティの概念を学ぶ。
第12回	テーマ: グローバル時代の移民政策(2) 内 容: 世界の移民の事情などを海外の事例を通じて学ぶ。特にアメリカ合衆国、オーストラリア、ニュージーランドなどの事例を紹介する。
第13回	テーマ: 多様性のある地域社会に向けて(1) 内 容: 外国人・移民政策の根幹として国籍政策や帰化というものについて学ぶ。外国人から国民へ編入するための制度的な視点を学ぶ。
第14回	テーマ: 多様性のある地域社会に向けて(2) 内 容: 現在の日本の多文化、多民族的な状況を確認し、マルチ・エスニック・ジャパニーズという概念を学ぶ。
第15回	テーマ: 青森から世界へ、世界から青森へ 内 容 :青森県の強みを再度考え、課題を考察する
試 験	

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
地形地理情報論	2 単位	専門科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
三浦　英樹	**時間:** 講義後または適宜（事前のメール連絡で時間調整します） **場所:** 研究室（大学院棟 1203 室）	講義と演習

〔科目の概要〕

近年の深刻化する地球環境問題や大規模な自然災害の多発などにより、地域における人々の暮らしや、それを取り巻く環境には様々な課題が生じています。これらに対応するためには、地形学や地理空間情報学を活用して、人間が生活する基盤となる地形の特徴や成り立ちを理解し、合わせて地域の自然環境や社会的事象を、位置や空間的な広がりに着目して、可視化した地図として表現し、人間の営みと関連付けて考察することが必要不可欠となります。この講義では、これらの知識や方法を身につけるため、以下の 4 つの内容を中心に展開します。

① 人間の生活舞台である地球表面の形態の成因と見方を理解するために、平野、台地、丘陵、山地、火山等の地形と第四紀の地殻変動・気候変動との関係、および地形発達史の考え方を説明すること
② 青森県で見られる代表的な自然景観の意味や成り立ちを理解するために、青森県の主要地域の自然環境や人々の暮らし、伝統文化、自然史、農林水産業・鉱工業などの産業、人工施設の配置・立地、防災・減災、観光等と地形発達史との関係を説明すること
③ 地理空間情報の基本と一般図である地形図の基本と読み方を習得するために、地球上の位置を座標によって表す測地系、地図投影法、等高線、地図記号等の概要について説明すること
④ 自然地理的・社会経済学的な現象を地形図上に可視化した主題図や統計地図の作成方法を身につける前段階として、地理情報システム（GIS）の基礎と使い方の初歩を説明すること

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

地表の形態である地形は、人間が日々の生活を行う場であり、人間の生活、文化、民俗、経済活動とも密接に関係しています。地形を空間的・歴史的に認識し、様々な自然現象・社会現象と地形との相互関係を地図を活用して把握することは、地域の自然環境や人文環境に関する理解の深化、自然を活かした環境作りのための方策の検討、社会的な課題に対する政策提言のための基礎資料の作成など、地域創造への新たな発想やアイデアをもたらす源泉となります。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

この講義では、以下の内容に到達することを目標とします。

① 一般図である地形図の概要と読図方法を習得すること
② 第四紀の気候変動と地殻変動の概要を説明できること
③ 主要な地形のでき方を理解し、説明できること
④ 地理情報システムの概要と基礎を習得すること

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

新規担当のため、なし。

〔教科書〕

ありません。各回で、必要に応じ、資料を配付します。

〔指定図書〕

ありません。

〔参考書〕

貝塚爽平ほか編著（2019）『写真と図でみる地形学 増補新装版』. 東京大学出版会.
小池一之ほか編著（2005）『日本の地形 3 東北』. 東京大学出版会.
小島圭二ほか編著（1997）『日本の自然 地域編 2 東北』. 岩波書店.
西城 潔・藤本 潔・黒木貫一・小岩直人・楮原京子（2020）『地形でとらえる環境と暮らし』. 古今書院.
武内和彦・鷲谷いずみ・恒川篤史編著（2001）『里山の環境学』. 東京大学出版会.
羽田康祐（2021）『地図リテラシー入門』. ベレ出版.
伊藤智章（2016）『地図化すると世の中が見えてくる』. ベレ出版.
矢野桂司（2021）『GIS 地理情報システム』. 創元社.
半井真明（2022）『まちの課題・資源を可視化する QGIS 活用ガイドブック』. 学芸出版社.
中島 円（2021）『その問題、デジタル地図が解決しますーはじめての GIS』. ベレ出版.
杉本智彦（2022）『地形を感じる地図アプリ スーパー地形公式ガイドブック』. 山と渓谷社.

愛知大学三遠南信地域連携センター編（2021）『地域研究のための空間データ分析入門』. 古今書院.
愛知大学三遠南信地域連携センター編（2022）『地域研究のための空間データ分析 応用編』. 古今書院.

〔前提科目〕

必須ではありませんが、教養科目の「地球科学」を履修していることが望ましい。
専門科目の「自然史・地理情報と地域創造」を履修する予定の方は、この科目を先に履修して下さい。

〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等）

① 授業の最後には、「リアクションペーパー」の時間を設けて、提出してもらいます。「リアクションペーパー」には、授業を受けて感じたこと、自分が考えたこと・感想、講義内容への質問や意見などを自由に記述してください。文章は、他人が読むことを前提に、わかりやすく論理的に書いてください。おもしろい、または重要な意見・質問は、できるだけ、次の授業の冒頭で紹介・回答します。
② 期末に行う「試験」の内容は、地形学と地理空間情報学の内容から出題します。暗記することよりも、論理的な考え方を重視した出題になります。

〔評価の基準及びスケール〕

① 「リアクションペーパー」では、記述内容のわかりやすさや論理性、および授業内容への関心や取り組む姿勢を総合的に評価します。
② 「試験」では、地形学と地理空間情報学の内容について、正しく論理的に理解して、説明できるという観点で評価します。
③ 総合的な評価は、「リアクションペーパー」の評価 60%、「試験」の評価 40%の比率で、両者を合算して、合計 100 点満点（A:80 点以上、B:70～79 点、C:60～60 点、D:50～59 点、E:50 点以下）で評価します。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

私たちが、毎日、目にしている、地形を中心とした風景には、歴史と意味があります。そういった風景や様々な現象を合理的に表現するための道具として、地図があります。風景と地図を読むことができるようになると、自分のなかの時間と空間の世界がぐっと広がります。この興味深い世界をできるだけわかりやすく解説して、理解してもらいたいと思います。是非、風景と地図を見ること、読むことを好きになって下さい。そして、さらには、その背景にある、地域に存在する様々な社会の仕組みや課題を考えるきっかけをつかんで、自分のなかで地域研究の「良き問い」を立てられるように発展させて欲しいと思います。

〔実務経歴〕

該当なし。

授業スケジュール

第1回	テーマ（何を学ぶか）： イントロダクション： 地球規模・地域研究の課題と地形学・地理空間情報学の役割と意義 内　容: 全体のイントロダクションとして、この講義の目的と内容、背景を概説します。 教科書・指定図書
第2回	テーマ（何を学ぶか）： 地形の見方および東北地方の地形の配置と生活 内　容: 地形をどのように把握するのかを解説し、日本列島と東北地方の地形の配置を概説します。 教科書・指定図書
第3回	テーマ（何を学ぶか）： 地形形成の背景となるプレートテクトニクスと地殻変動の基礎知識 内　容: 地形を形成する営力としての地殻変動の仕組みとそれによってつくられる地形の見方を解説します。 教科書・指定図書
第4回	テーマ（何を学ぶか）： 地形形成の背景となる地球の第四紀の気候変動・海面変動の基礎知識 内　容: 地形形成と地形発達史の枠組みとなる第四紀の気候変動と海面変動の歴史について解説します。 教科書・指定図書
第5回	テーマ（何を学ぶか）： 地域研究の基盤となる 地形の 見方:（1）川がつくる平野の地形と人々の生活・土地利用 内　容: 河川の営力によって作られる地形のできかたと見方を解説し、人々の生活、産業、文化との関連を考察します。 教科書・指定図書
第6回	テーマ（何を学ぶか）： 地域研究の基盤となる 地形の 見方：（2）海がつくる平野の地形と人々の生活・土地利用

	内　容: 海と風の営力によって作られる地形のでき方と見方を解説し、人々の生活、産業、文化との関連を考察します。 教科書・指定図書
第 7 回	テーマ(何を学ぶか): 地域研究の基盤となる 地形の 見方: (3) 台地と丘陵の地形と人々の生活・土地利用 内　容: 台地や丘陵の地形のでき方と見方を解説し、人々の生活、産業、文化との関連を考察します。 教科書・指定図書
第 8 回	テーマ(何を学ぶか): 地域研究の基盤となる 地形の 見方: (4) 山地の地形と人々の生活・土地利用 内　容: 山地の地形のでき方(地殻変動、氷河、凍土、重力の営力を含む)と見方を解説し、人々の生活、産業、文化との関連を考察します。 教科書・指定図書
第 9 回	テーマ(何を学ぶか): 地域研究の基盤となる 地形のでき方と見方 : (5) 火山の地形と人々の生活・土地利用 内　容: 火山の営力によって作られる地形のでき方と見方を解説し、人々の生活、産業、文化との関連を考察します。 教科書・指定図書
第 10 回	テーマ(何を学ぶか): 青森県各地域の地形発達史とその地理学・地域研究における応用 内　容: 青森県に見られる特徴的な地域の風景を取り上げて、その地域の地形発達史を解説し、人々の生活、産業、文化との関連性を考察します。 教科書・指定図書
第 11 回	テーマ(何を学ぶか): 地理情報システム(GIS)の概要と基礎、地形図と等高線、緯度経度の仕組みと全球測位衛星システム(GNSS)、地図の投影方法 内　容:地形図から何がわかるか、地図の歴史と様々な種類の地図、地形図の特徴と読み方について解説します。 教科書・指定図書
第 12 回	テーマ(何を学ぶか): 地域研究における地理情報システム(GIS)とその応用: (1) 地理院地図と Google Earth とスーパー地形の概要 内　容: 地理情報システムの地理院地図と Google Earth とスーパー地形の概要を説明し、その基本的な使い方を学びます。 教科書・指定図書
第 13 回	テーマ(何を学ぶか): 地域研究における地理情報システム(GIS)とその応用: (2) 地理院地図と Google Earth とスーパー地形の活用 内　容: 地理情報システムの地理院地図と Google Earth とスーパー地形を用いて、様々な地図や地形を表現する方法を学びます。 教科書・指定図書
第 14 回	テーマ(何を学ぶか): 地域研究における地理情報システム(GIS)とその応用: (3) QGIS と地図・地形の表現 内　容: 地理情報システムの QGIS を用いて、自然環境や土地利用等の主題図を表現する方法の基礎を学びます。 教科書・指定図書
第 15 回	テーマ(何を学ぶか): 地域研究における地理情報システム(GIS)とその応用: (4) QGIS と自然環境・土地利用変化の把握 内　容:地理情報システムの QGIS を用いて、地域統計データを用いた主題図を表現する方法の基礎を学びます。 教科書・指定図書
試 験	80 分の筆記試験を実施します。

〔科目名〕 行政経営論	〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕 選択科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔E-mail〕
遠藤 哲哉 Endo Tetsuya	時間:第1回の授業時に指示 場所:研究室	tetsuya@b.nebuta.ac.jp

〔科目の概要〕

地域社会の諸問題を解決し、自分たちの夢や希望を実現するために、政策イノベーションとそれを担う新しいリーダーシップが求められている。公共経営を担う組織として、行政経営、ＮＰＯ,ＮＧＯ，非営利組織、社会的企業などが挙げられる。いずれも、硬直的な官僚主義に陥らずして、多くの人々とともにビジョンを掲げ、哲学を持ち、一人ひとりの個性を伸ばし人間的成長を促す組織の在り方と、それを支える新しいリーダーシップが期待されている。

人々の幸せと人間的成長が地域社会に生きる私たちの目指す方向とするならば、一人ひとりが自分の人生を選び取り主体的に生き抜くチャンスを拡充していくことが大切である。分権時代とは、そのような自己決定のチャンスを広げる制度とシステムが作られる時代である。そこには、自己責任と能力の向上もまた必要である。

本科目では、分権時代を確かなものとし、そこに生き、一人ひとりが個性的なリーダーとして自己の成長を遂げうる道筋を、行政経営の立場から明らかにしていきたい。具体的には、行政経営の諸理論、考え方を踏まえ、行政ビジネス及び政策イノベーションの創出を実現する行政経営の在り方を論じていきたい。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

自治体経営論をさらに深める科目であるが、特に、リーダーシップ論、経営組織論、組織戦略論と関連がある。既存の行政学や行政の実務をベースに置きながらも、変革期において求められる行政組織や自治、地域づくりを担う人材像、リーダーシップ像そして新しい行政組織論の在り方に示唆的な内容とする。素材は、日米の行政学理論、組織論、リーダーシップ論、イノベーション論などを参照し、英文の資料を読みこなす予定である。硬直化しやすい官僚主義的組織体質を打破し、住民自治の下で、行政の優れたパフォーマンスを挙げていくためには、どのようなリーダーシップと組織戦略が必要となるのか、グローバルな視点から検討していく。

〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕

最終目標

行政経営の変革に必要なリーダーシップ、組織戦略、コミュニケーション、人材育成の考え方とスキルについての知識を得、行政経営の現場に応用できる理論と実践力を身につける。

中間目標

行政経営におけるリーダーシップ、組織戦略、人材育成、イノベーションについて、グローバルな視点から理解し、その意義と役割について、理解を深める。行政経営における諸理論と職場の実態を知ることによって、具体的なスキルアップのイメージがもてる。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

・学生のレベルを考え、できる限り興味をもって伝えられるよう工夫をする。

・グローバルな社会を念頭に、英語での授業も行ってきているが、難しいという学生の声を受け止め学生の能力・関心を見極めて、効果的な方法を検討していきたい。

・授業の全体について、学生の理解とモチベーションを促進する工夫をさらに行っていきたい。

〔教科書〕

オリジナルの資料を使用。(授業中に指示します。) なお、指定図書も使うので、準備して下さい。

〔指定図書〕

遠藤哲哉『「地域経営」における価値創造:新しい自治体経営を志向して』現代図書

〔参考書〕

授業中に提示しますが関連する文献をいくつか提示しておきます。

John M. Bryson, Barbara C. Crosby and Laura Bloomberg (2014), 'Public Value Governance: Moving beyond Traditional Public Administration and the New Public Management,' Public Administration Review, July /August.

野中郁次郎他『ソーシャル・イノベーション』千倉書房
高野誠鮮『ローマ法王に米を食べさせた男』講談社
山内道雄『離島発　生き残るための10の戦略』NHK出版
楠木建『ストーリーとしての競争戦略』東洋経済新報社
クレイトン・クリステンセン『イノベーションのDNA』翔泳社
ダニエル・ピンク『モチベーション３．０』講談社
西口敏宏『遠距離交際と近所づきあい～成功する組織ネットワーク戦略』NTT出版
金井壽宏他『組織行動の考え方』東洋経済新報社
ウェンガー『コミュニティオブプラクティス』翔泳社
宮川公男他『ソーシャル・キャピタル』東洋経済新報社
R.パットナム『哲学する民主主義』NTT出版
ウェイン・ベーカー『ソーシャル・キャピタル』ダイヤモンド社
稲継裕昭他『行政ビジネス』東洋経済新報社
その他、沢山の参考書を紹介するので、この機会に読破して欲しい。

〔前提科目〕

自治体経営論を履修していることが望ましい。

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

・　期末試験、授業レポート、小テスト、授業中の参加態度、意見等を総合的に見ます。

〔評価の基準及びスケール〕

・　授業小感想シート、中間・期末試験及び授業への参加度等、全体を通して評価します。

A: 100～80点
B: 79～70点
C: 69～60点
D: 59～50点
F: 49点～

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

自治体経営論をさらに深める内容で、新しいリーダーシップの在り方、経営戦略、地域イノベーション等について検討する。グローバルな視点から、これからの公共経営領域に必要となるリーダーシップ、経営戦略、人材育成等について検討を加える。このような領域に関心があり、かつ意欲のある学生の参加を歓迎する。なお、英文の資料・テキストを多く参照するので、この授業を通して、英語に習熟して欲しい。

〔実務経歴〕

自治体での実務経験を活かし、行政経営の諸理論、考え方を踏まえ、行政ビジネス及び政策イノベーションの創出を実現する行政経営の在り方を論じる授業です。

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか):オリエンテーション～行政経営論の射程 内　容: 科目の概要、行政経営に関するオリエンテーション 教科書・指定図書　資料配布
第2回	テーマ(何を学ぶか): 行政経営論 内　容: 行政経営の実践と理論（1） 教科書・指定図書　資料配布

第3回	テーマ(何を学ぶか)： 行政経営論 内　容: 行政経営の実践と理論(2) 教科書・指定図書　資料配布
第4回	テーマ(何を学ぶか)： 行政経営論 内　容: 行政経営の実践と理論(3) 教科書・指定図書　資料配布
第5回	テーマ(何を学ぶか)： 行政経営論 内　容: 行政経営の実践と理論(4) 教科書・指定図書　資料配布
第6回	テーマ(何を学ぶか)： 行政経営論 内　容: 行政経営の実践と理論(5) 教科書・指定図書　資料配布
第7回	中間テスト 内　容: 教科書・指定図書　資料配布
第8回	テーマ(何を学ぶか)： 行政評価と経営 内容: NPMとKBGについて 教科書・指定図書　資料配布
第9回	テーマ(何を学ぶか)： ソーシャル・イノベーションと経営 内　容:ソーシャル・イノベーションを起す 教科書・指定図書　資料配布
第10回	テーマ(何を学ぶか)： 行政経営における経営戦略論(1) 内　容: 優れた経営実践と理論的課題(1) 教科書・指定図書　資料配布
第11回	テーマ(何を学ぶか)： 行政経営における経営戦略論(2) 内　容: 優れた経営実践と理論的課題(2) 教科書・指定図書　資料配布
第12回	テーマ(何を学ぶか)： 行政経営における経営戦略論(3) 内　容:優れた経営実践と理論的課題(3) 教科書・指定図書　資料配布
第13回	テーマ(何を学ぶか)： 諸外国における行政経営(1) 内　容: 国際比較検討(1) 教科書・指定図書　資料配布
第14回	テーマ(何を学ぶか)： 諸外国における行政経営(2) 内　容: 国際比較検討(2) 教科書・指定図書　資料配布
第15回	テーマ(何を学ぶか):まとめ～　新しい公共の担い手の再編と連携 内　容: 総まとめ 教科書・指定図書　資料配布
定期試験	期末テスト

〔科目名〕		〔単位数〕	〔科目区分〕
地域の産業Ⅰ		2 単位	選択科目
〔担当者〕 奥平 理	〔オフィス・アワー〕 時間:12:20-12:50 場所:授業日の教室		〔授業の方法〕 講義

〔科目の概要〕

本授業では、「津軽海峡圏」をテーマとしてその内容を深く掘り下げる。津軽海峡圏が交流圏・観光圏・経済圏としてどの様な過去・現在をたどり、未来に向かうべきなのかを説明できる能力を身につけることを目標とする。

具体的には歴史的、地理的、文化的背景から津軽海峡圏を説明し、津軽海峡連絡船廃止と北海道新幹線開業が津軽海峡圏に与えた影響を説明する。そして津軽海峡圏の観光の現状と課題、産業構造の変化を説明することで、最終授業で「津軽海峡圏の未来」テーマにグループ討議を行い、受講生に津軽海峡圏への意識が高まることを期待している。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

私たちは「津軽海峡圏」で生活をしている。皆さんは海峡を挟んで向かい側の函館について思ったり、考えたりしたことはあるだろうか。青森市と函館市、地理学用語では「双子都市（ツインシティ）」の定義にピッタリとあてはまる。青森県は道南よりもずっと歴史が古いのに、青森市と函館市はほぼ同時期、幕末から明治にかけて都市としての体裁を整えていった。

双子都市の不思議な縁、今も脈々と受け継がれている交流の歴史、私たちのDNAに刻まれた津軽海峡圏を理解することで、この地に暮らすことの素晴らしさに気づくことができればと思う。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

1. 最終授業で「津軽海峡圏の未来」をテーマにプレゼンテーションと討議を行い、活発に議論することができる。
2. 議論した内容を踏まえて、「津軽海峡圏の未来」に関するレポートを作成することができる。
3. 期末試験で60点以上を取ることができる。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

1. 予習の必要はありませんが、授業後に興味関心を持ったテーマについては復習することを推奨します。
2. シラバスについて、毎時間のはじめに当該時間の授業内容を確認します。
3. 授業の終了時刻を厳守します。
4. 12 月までに授業は終了します。

〔教科書〕

テキストは使用しない。講義資料は Google ドライブのフォルダに毎時掲載する。

〔指定図書〕

必要に応じて授業内で紹介する。

〔参考書〕

必要に応じて授業内で紹介する。

〔前提科目〕

該当なし

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

授業ごとレポート課題を提示し、最終授業日に期末試験を行う。

〔評価の基準及びスケール〕

①毎時レポートと出席状況(40%) ※レポートと出席状況はリンクして変動する。
1. 出席記録を基に下記の通り遅刻・欠課を減点する。
遅刻 1(15分以内に入室)-3 点、遅刻 2(30分以内に入室)-6 点、欠課(30分を超えて入室)-10 点
2. 遅刻者のレポートは一律-5 点、出席記録がないのに提出されたレポートは-10 点
②プレゼンテーション(20%)
③期末試験(40%)

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

◎本授業では授業中の私語や携帯電話の使用等、他の受講者に迷惑となる行為は現に慎むこと。これらの行為が発覚した場合は1回につき40点/回の減点を行うので，十分に注意すること。
◎写しと判断したレポート等の提出物は誰がオリジナルであろうとも関わった学生全員を0点とするので十分に注意すること。

〔実務経歴〕

該当なし

授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか): 津軽海峡圏の歴史的背景 内　容:青森と函館の歴史的背景を理解できる。 教科書・指定図書
第2回	テーマ(何を学ぶか):津軽海峡圏の地理的特徴と言語 内　容:函館と青森の地理的特徴と言語の特徴を理解できる。 教科書・指定図書
第3回	テーマ(何を学ぶか):津軽海峡圏の文化 内　容: 青森と函館の文化の共通性や特徴を理解できる。 教科書・指定図書
第4回	テーマ(何を学ぶか):津軽海峡圏の交流とその影響 内　容:津軽海峡圏の交流がもたらしたさまざまな影響を理解できる。 教科書・指定図書
第5回	テーマ(何を学ぶか): 津軽海峡圏と津軽海峡連絡船 内　容: 津軽海峡圏の発展に果たした津軽海峡連絡船の役割を理解できる 教科書・指定図書
第6回	テーマ(何を学ぶか):北海道新幹線開業の経済的影響 内　容:北海道新幹線開業が津軽海峡圏に与えた経済的な影響を理解できる。 教科書・指定図書
第7回	テーマ(何を学ぶか):函館の景観と観光 内　容:函館市にある独特の景観と観光との関係を理解できる。 教科書・指定図書

第8回	テーマ(何を学ぶか):はこだてクリスマスファンタジーと津軽海峡圏 内　容:はこだてクリスマスファンタジーと津軽海峡圏の関係を理解できる。 教科書・指定図書
第9回	テーマ(何を学ぶか):函館市における観光の現状と課題 内　容:函館市の観光の現状と課題を理解できる。 教科書・指定図書
第10回	テーマ(何を学ぶか):青森県における観光の現状と課題 内　容:青森県の観光の現状と課題を理解できる。 教科書・指定図書
第11回	テーマ(何を学ぶか):DVD 視聴と通訳機器の実際から観光産業を考える 内　容:DVD を視聴し、通訳機器「ポケトーク」に触れることから、観光産業の現状と課題を理解できる。 教科書・指定図書
第12回	テーマ(何を学ぶか):観光産業と地域の結びつき 内　容:観光産業と地域の結びつきを理解できる。 教科書・指定図書
第13回	テーマ(何を学ぶか):プレゼンテーションに向けたプレゼンテーション計画書の作成 内　容:次回の全員プレゼンテーションに向けて、発表内容を検討し、文献調査などを行うことでプレゼンテーション計画書を作成することができる。 教科書・指定図書
第14回	テーマ(何を学ぶか):全員プレゼンテーション 内　容:全員が各自で決めたテーマについて、プレゼンテーションを行うことができる。 教科書・指定図書
第15回	テーマ(何を学ぶか):討議:津軽海峡圏の未来像について 内　容:前回の全員プレゼンテーションで提示された課題について、解決に向けた討議を行うことができる。 教科書・指定図書
試　験	15回の授業内容から5題を総合的に出題する。

〔科目名〕	〔単位数〕	
地域みらい特殊講義　Ⅰ	2 単位	

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	
佐藤　三三 Satou　Sanzo	時間 :最初の講義で伝える 場所 :502 研究室	

〔科目の概要〕 テーマ:生涯学習論―生き方・働き方・社会の在り方の学習・教育論―。

「生涯学習論」は、単なる教育・学習論ではない。人間とは何かという問いかけと不可分な人間論であり、それに基づく人間の生き方論であり、生き方と不可分な働き方論であり、そうした生き方と働き方を可能にする社会の在り方論でもある。

「生涯学習論」が世界教育史上に登場してから既に 50 年余が過ぎた。しかし、「人生 100 年時代の到来」は、50 年前とは異なった生き方・働き方・社会の在り方を求め始め、「生涯学習論」が改めて脚光を浴びてきている。

本講義は、産業・企業と生涯学習論の関係にも言及しながら、生き方・働き方・社会の在り方の学習・教育論としての「生涯学習論」について、体系的に講義する

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

・「経済」「経営」と「教育」の関係について認識することができる。

・　自己の生き方・働き方・社会の在り方について再考するきっかけになる。

・　自己自身の生涯学習に役立つ。

〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕

・　生涯学習論について理解し、生涯学習を実践する意欲を持つことができる

・「経済」「経営」と「教育」の根源的関係について認識することができる。

・　自己の生き方・働き方・社会の在り方について再考するきっかけになる。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

板書を丁寧にする。

〔教科書〕 使用しない

〔指定図書〕 なし

〔参考書〕 講義の中で随時紹介する

〔前提科目〕 な　し

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

レポート及び出席状況。

欠席が全講義回数の三分の一（5 回以上）を超える場合は単位認定の対象外とする

〔評価の基準及びスケール〕

A：80 点以上　B：70～79 点　C：60～69 点　D：50～59 点　E：50 点未満

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

本講義が、学生の皆さんにとって、経済と教育の関係や自己の生き方・働き方・社会の在り方について再考するきっかけになると同時に、自分自身の生涯学習の実践に結びつくように精一杯努力して講義する。ぜひ受講していただきたい

授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか):ガイダンス 内容:講義の全体概要と生涯学習論の前史
第2回	テーマ(何を学ぶか):生涯学習論の登場 内容:ユネスコ(UNESCO)と「生涯教育論」
第3回	テーマ(何を学ぶか):生涯学習論の登場 内容:ユネスコ(UNESCO)と「生涯教育論」
第4回	テーマ(何を学ぶか):日本の生涯学習論 内容:なぜ、生涯学習は必要か―社会の加速度的変化
第5回	テーマ(何を学ぶか):日本の生涯学習論 内容:なぜ、生涯学習は必要か―社会の加速度的変化
第6回	テーマ(何を学ぶか):日本の生涯学習論 内容:人間の学習可能性、学習の目的、自己教育力
第7回	テーマ(何を学ぶか):日本の生涯学習論 内容:生き方・働き方・社会の在り方論、
第8回	テーマ(何を学ぶか):生涯学習論と日本の教育制度改革 内容:小学校・中学校・高等学校の改革、大学改革
第9回	テーマ(何を学ぶか):生涯学習論と日本の教育制度改革 内容:リカレント教育と大学改革、
第10回	テーマ(何を学ぶか):生涯学習論と日本の教育制度改革 内容:社会教育の振興
第11回	テーマ(何を学ぶか):生涯学習論と日本の教育制度改革 内容:社会教育の振興
第12回	テーマ(何を学ぶか):企業と生涯学習(キャリア教育) 内容:　日本経済団体連合会
第13回	テーマ(何を学ぶか):企業と生涯学習(キャリア教育) 内容:厚生労働省
第14回	テーマ(何を学ぶか):人生100年時代の生涯学習論 内容:リンダ・グラットン、アンドリュウ・スコット著、池村訳『ライフシフト―100年時代の人生戦略』
第15回	テーマ(何を学ぶか):人生100年時代の生涯学習論 内容:リンダ・グラットン、アンドリュウ・スコット著、池村訳『ライフシフト―100年時代の人生戦略』
試　験	レポート